

科目名	科目担当代表教員	ページ数
食生活論	荒井 三津子	5
日本国憲法	池田 杏奈	10
統計の基礎	武田 裕康	15
英語Ⅱ	相馬 哲也	20
英語Ⅱ	相馬 哲也	25
中国語Ⅱ	野間 晃	30
異文化間コミュニケーション論	岡本 佐智子	35
保育方法の理論と実践	小椋 佐奈衣	40
保育者論	吉岡 亜希子	45
こどもの心理学Ⅰ	川俣 智路	50
こどもの心理学Ⅱ	井内 聖	55
こどもの心理学Ⅱ	井内 聖	60
教育基礎論	加藤 裕明	65
肢体不自由者の心理・生理・病理	木谷 岐子	70
視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理	福山 紀枝子	75
障がい児保育Ⅱ	美馬 正和	79
障がい児保育Ⅱ	美馬 正和	84
こどもの食と栄養Ⅱ	山森 栄美	89
こどもの食と栄養Ⅱ	山森 栄美	94
こどもの食と栄養Ⅱ	山森 栄美	99
保育内容Ⅲ環境2	岡 健吾	104
保育内容Ⅲ環境2	岡 健吾	109
乳児保育Ⅱ	村松 良太	114
乳児保育Ⅱ	村松 良太	119
表現Ⅰ 幼児音楽1	西野 美穂	124
表現Ⅰ 幼児音楽1	西野 美穂	129
表現Ⅱ 造形2	笠見 康大	134
表現Ⅱ 造形2	笠見 康大	139
表現Ⅲ 身体表現2	未定	144
表現Ⅲ 身体表現2	未定	149
総合表現音楽Ⅱ	今井 由恵	154
総合表現音楽Ⅱ	今井 由恵	159
国語科概論	森田 弘行	164
特別活動の指導	相馬 哲也	169
教育相談論Ⅱ	山本 愛子	174
教育相談論Ⅱ	山本 愛子	179
教科教育法 国語	矢部 玲子	184
教科教育法 社会	村越 含博	189
教科教育法 生活	高桑 純	194
教科教育法 音楽	今井 由恵	199
特別支援教育総論	村田 敏彰	204

知的障がい教育Ⅱ	村田 敏彰		209
肢体不自由児教育Ⅱ	山下 秀樹		214
視覚・聴覚障がい教育	福山 紀枝子		219
発達障がい等教育総論	木谷 岐子		223
教育実習指導Ⅱ	森田 弘行		228
保育実習指導Ⅱ	渡邊 堯宏		233
保育実習指導Ⅱ	渡邊 堯宏		238
保育実習指導Ⅲ	美馬 正和		243
保育実習Ⅰ－1	美馬 正和		248
保育実習Ⅱ	渡邊 堯宏		253
保育実習Ⅲ	美馬 正和		258
こども学総合演習Ⅱ	高桑 純		263
こども学総合演習Ⅱ	西野 美穂		268
こども学総合演習Ⅱ	美馬 正和		273
こども学総合演習Ⅱ	笠見 康大		278
こども学総合演習Ⅱ	吉岡 亜希子		283
こども学総合演習Ⅱ	木谷 岐子		288
こども学総合演習Ⅱ	小椋 佐奈衣		293
こども学総合演習Ⅱ	村越 含博		298
こども学総合演習Ⅱ	村田 敏彰		303
教職実践演習(幼・小)	渡邊 堯宏		308
教職実践演習(幼・小)	村田 敏彰		316
教職実践演習(幼・小)	相馬 哲也		324
教職実践演習(幼・小)	高桑 純		332
教職実践演習(幼・小)	小田 進一		340
教職実践演習(幼・小)	山口 宗兼		348
教職実践演習(幼・小)	山下 秀樹		356
教職実践演習(幼・小)	森田 弘行		364
卒業研究Ⅱ	小田 進一		372
卒業研究Ⅱ	相馬 哲也		377
卒業研究Ⅱ	吉岡 亜希子		382
卒業研究Ⅱ	森田 弘行		387
卒業研究Ⅱ	加藤 裕明		392
卒業研究Ⅱ	高桑 純		397
卒業研究Ⅱ	笠見 康大		402
卒業研究Ⅱ	白幡 知尋		407
卒業研究Ⅱ	木谷 岐子		412
卒業研究Ⅱ	小椋 佐奈衣		417
卒業研究Ⅱ	美馬 正和		422
卒業研究Ⅱ	今井 由恵		427
卒業研究Ⅱ	村越 含博		432
卒業研究Ⅱ	山口 宗兼		437

卒業研究Ⅱ	山本 愛子		442
卒業研究Ⅱ	村田 敏彰		447
卒業研究Ⅱ	西野 美穂		452
卒業研究Ⅱ	渡邊 堯宏		457
卒業研究Ⅱ	山下 秀樹		462
卒業研究Ⅱ	平岡 英樹		467
キャリア形成	木村 悠里菜		472
生涯スポーツA	平岡 英樹		476
子育て支援	山本 愛子		480
子育て支援	山本 愛子		485
こども家庭支援の心理学	吉岡 亜希子		490
保育の計画と評価	小椋 佐奈衣		495
教育制度論	石垣 則昭		500
教科教育法 英語	釣 晴彦		505
保育実習指導Ⅰ－1	美馬 正和		510
保育実習指導Ⅰ－1	美馬 正和		515
こどもの発達と保幼小連携	森田 弘行		520
保育内容指導法(音楽表現2)	今井 由恵		525
保育内容指導法(音楽表現2)	今井 由恵		530
保育内容指導法(健康2)	平岡 英樹		535
保育内容指導法(健康2)	平岡 英樹		540
保育内容指導法(言葉2)	山口 宗兼		545
保育内容指導法(言葉2)	山口 宗兼		550
保育内容指導法(言葉2)	山口 宗兼		555
保育内容指導法(人間関係2)	山口 宗兼		560
保育内容指導法(人間関係2)	山口 宗兼		565
保育内容指導法(人間関係2)	山口 宗兼		570
保育内容指導法(造形表現2)	笠見 康大		575
保育内容指導法(造形表現2)	笠見 康大		580
保育内容指導法(造形表現2)	笠見 康大		585
幼児と言葉	山口 宗兼		590
幼児と表現	今井 由恵		594
特別支援学校教育実習	山下 秀樹		598
特別支援学校教育実習講義	山下 秀樹		603
特別支援学校教育実習講義	山下 秀樹		608
基礎ゼミナール	西野 美穂		613
基礎ゼミナール	小田 進一		618
基礎ゼミナール	相馬 哲也		623
基礎ゼミナール	木谷 岐子		628
基礎ゼミナール	白幡 知尋		633
基礎ゼミナール	渡邊 堯宏		638
基礎ゼミナール	小椋 佐奈衣		643

基礎ゼミナール	山下 秀樹		648
社会科概論	村越 含博		653
理科概論	高桑 純		657
理科概論	高桑 純		661
理科概論	高桑 純		665

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係が築くことができる」と、作業療法学科でのディプロマ・ポリシーとして、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							
○ 医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。 ○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。 ○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。 ○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。							
授業の方法							
①教科書を利用し、確実に講義の内容を把握できるよう指導する。 ②必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。 ③内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。 ④中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜「食」の学び方＞「食」は生理的、文化人類学的、社会的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	科書全体の構成を把握し、「食べる」ことを学ぶ意義を考察する。90分程度。
担当教員			
第2回	＜食べるヒト・食べるってなに？生きるってなに？＞ 私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	教科書P2～8を読んでくること。90分程度。	講義で学んだ「食べる理由」について整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	教科書9～14まで読んでくること。90分程度。	消化の仕組みと腸内環境について理解する。90分程度。
担当教員			
第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	教科書P17～26まで読んでくる。90分程度。	ヒトが痩せたい理由とダイエットの問題点について整理しておく。90分程度。
担当教員			

第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	前回学んだ『食べない理由』を復習し、P28～30、P72～73を読んてくる。90分程度。	「食のタブー」とベジタリアン、フードファディズムについて説明できるようにしておく。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	教科書P41～51まで読んでおくこと。90分程度。	作法が必要な意義について考察しておくこと。90分程度。
担当教員			
第7回	＜ヒトから人間へ・食べるモノの変遷＞ 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	教科書P54～61まで読んでおくこと。90分程度。	日本の食の歴史を整理しておくこと。餌と食事の違いを説明できること。90分程度。
担当教員			
第8回	＜おいしさとはなにか＞ 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	教科書のP72～80まで読んでおくこと。90分程度。	「おいしい」とはどのようなことか整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第9回	＜ヒトはなぜ食べるのか＞ 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前回までの講義内容を復習しておくこと。90分程度。	中間の総まとめの講義内容を復習しておくこと。90分程度。
担当教員			
第10回	＜「食」の未来＞ 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	教科書p84～96まで読んでおくこと。90分程度。	養殖や染色体、遺伝子組み換えなどについて整理しておくこと。90分程度。
担当教員			

第11回	＜食事空間を学ぶ＞ 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	教科書p98～105まで読んでおくこと。90分程度。	台所と調理の進化を整理し、これからの食事について考察すること。90分程度。
担当教員			
第12回	＜「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告＞ 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	教科書p107～p115まで読んでおくこと。90分程度。	周囲にある食関連の広告を調査整理すること。90分程度。
担当教員			
第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	教科書p81～83、p124～p132を読んでおくこと。90分程度。	自分の周囲の食卓について調査してみること。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	前回の講義内容を整理しておくこと。90分程度。	食卓の演出について具体的なテクニックを整理する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。	年中行事に食べるものについて調査しておくこと。90分程度。	教科書全体の重要事項をまとめておくこと。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト 2回	

その他	30	調査レポートの評価
教科書		
食学入門ー食べるヒト・食べるモノ・食べるコトー / 荒井三津子 / 光生館		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
私語厳禁。 毎回必ず教科書を持参すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
人間社会のルールの1つである日本国憲法を学ぶことにより、幅広く教養を身につける科目である。							
授業の概要							
本科目では、日本国憲法が保障する基本的人権について概説する。その基礎として、「憲法」という語が意味する具体的内容や、人権が形成されてきた歴史といった総論的論点を学んだ上で、自由権、社会権等の基本的人権が保障されることの重要性を理解する。							
到達目標							
1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。 2. 様々な基本的人権について概要を述べることができる。 3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。							
授業の方法							
パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。 各講義中に毎回コメントシート(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)を提出する。 確認テストを時間内に行う(全15回)。提出方法についてはGoogle フォームを併用できるようにする予定である。							
ICT活用							
Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要について学ぶ。	特になし。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」 「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるのかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」 「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」 「Theme18 首相の選び方——内閣」 「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(120分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」 「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」 「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業中で提出するコメントシート(全15回)により評価する。	

その他	0	なし。
教科書		
初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（2020年、有斐閣）		
参考文献		
講義中に適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
社会で必要となるスキルのひとつである、データ解析を中心とした科学的分析力を修得する科目である。 「統計と社会調査法」(健康、理学、作業)、「医療統計学」(理学)、「理学療法研究」(理学)と連携している教養科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							
1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。 2. 統計的推定の考え方を説明することができる。 3. 統計的検定の考え方を説明することができる。 4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。 5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。 フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～p136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第5回	【推測統計③】統計的検定の基本の手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り（第1種の過誤、第2種の過誤）を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「パートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)	

その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第4版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		
なし。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ(2組)				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語の説明など必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。							
授業の概要							
本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することに慣れさせる。							
到達目標							
○基礎的語彙に慣れ親しむことができる。 ○日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。 ○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。							
授業の方法							
教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。 ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。			
課題に対するフィードバックの方法			
ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit10 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit10 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(25分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)	

その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ(1組)				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。							
授業の概要							
本授業では、高等学校での学習を基に比較的多量のある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。							
到達目標							
○基礎的語彙に慣れ親しむことができる。 ○日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。 ○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。							
授業の方法							
教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。 ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

中学校・高校で17年間、英語教員として指導した経験を生かす。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)	

その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語Ⅱ				ナンバリング	1179
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	野間 晃						
授業の位置づけ							
前期の入門中国語を前提として、中国語がどういう言語なのかを更に深くつかめるようにする。							
授業の概要							
この授業では、前期に引き続き中国語の発音をマスターすることと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。							
到達目標							
中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。							
授業の方法							
授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。授業中に取ったノートの提出を、毎回授業終了時に求める。							
ICT活用							
中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

(なし)			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業開始時に配られるノートを兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員			
第2回	前期の内容(発音・文法・語彙)の総復習。 後期の授業を始めるにあたり、必要な知識が分かるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	第11課 1. “了” 2. “了”の位置 3. “剛”があるとき: “了”は付けない “了”と“了”の位置と“剛”があるとき“了”は付けないことが理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	第12課 1. 変化を表す“了” 2. “過” 3. “一点儿也～” 4. “yihuir”の発音 変化を表す“了”と“過”と“一点儿也～”と“yihuir”の発音について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	第13課 1. “在”＋動詞＋(“呢”) 2. 過去のことでも“了”がつかないとき “在”＋動詞＋(“呢”)と過去のことでも“了”がつかないとき が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第14課 1. 結果補語 2. 程度補語 3. “別～了” 結果補語と程度補語と“別～了”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	第15課 1. 動詞＋“着” 2. 存現文 3. “又～又～” 動詞＋“着”と存現文と“又～又～”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	第16課 1. 一致と類似を表す表現 2. “是～的” 3. “会～(的)” 4. “原来” 一致と類似を表す表現と“是～的”と“会～(的)”と“原来”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第17課 1. 方向動詞 2. 方向補語 3. “把” 4. “應該” 方向動詞と方向補語と“把”と“應該”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	第18課 1. 可能補語 2. “雖然～但是～” 可能補語と“雖然～但是～”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	第19課 1. 様態補語 様態補語について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第20課 1. 受け身 2. “再”と“又” 受け身と“再”と“又”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	第21課 1. 使役 2. “讓我們～”“讓我～” 3. 同一の疑問詞の呼応 4. 疑問詞+“都” 使役と“讓我們～”“讓我～”と同一の疑問詞の呼応と疑問詞+“都”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	本文会話一覧 この教科書で学んだ会話練習の復習 会話に必要な表現について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 今学期の授業で学んだ内容の大綱が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業中に書き込んで終了後に提出するプリントを総合評価する。	

その他	10	授業態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
複数の教科書を使用するが、受講者に購入は求めない。		
参考文献		
授業中に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
遅刻は減点の対象になるので注意すること。 前期の中国語Ⅰを履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。		
備考欄		
なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 総合領域					
科目名		異文化間コミュニケーション論				ナンバリング	1114
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
子どもの教育支援にかかわる者として、地域社会と保護者のニーズに応え、職場の同僚と協力しつつ多様な子どもの実体に即して成長・発達を支援するための人材として、具体的資質を、身につけている(知識・技能)と同時に、教育・保育・子育て支援等において、さまざまな人々と交わり、協力関係を形成しようとするコミュニケーションの方策を身につけている(思考・判断・表現)ことを目指す科目である。							
授業の概要							
異なった文化間の交流で起こるコミュニケーション問題は、日本人と外国人の間だけでなく、日本人同士でも起こる。言語や思考、価値観などの文化的背景の異なる人々との間には、コミュニケーションギャップやミスコミュニケーションが起こる。そうした誤解や対立等はなぜ起こるのか、理論を講義する。講義後は、それらのシミュレーションやワークショップ等をおとして、自文化を知ることが他者を知り、受容する姿勢を意識化してもらう。							
到達目標							
みんな違って、みんないい： 1. 自分の価値観を知り、自分の「常識」は相手には「非常識」であることが意識化できる。 2. 対立やコンフリクトは、相手を肯定的に見直し、まずことばで対話を心がけることができる。 3. 文化相対主義の姿勢で異なる他者を受容しようとする努力姿勢が備わる。							
授業の方法							
授業の前半は異文化コミュニケーションに関する理論を講義するが、後半はその理論を応用した「誤解」や「すれ違い」のコミュニケーション事例を疑似体験したり、指定課題をペアワークまたはグループワーク等で解決方法を考えたりする。また、各課題についても授業内で発表し、共有していく。異文化を描写できるようにしていきたい。							
ICT活用							
事前に公的インターネットで専門用語や事例を検索し、それをまとめたり発表できるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。			
課題に対するフィードバックの方法			
次回の授業でコメントを記した課題を返却し、クラス全体で講評する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 「文化」とは:ここでは文化のさまざまな定義から、異文化間のコミュニケーションにおける文化を考える。	インターネットで「文化」の定義を10以上調べておくこと。(90分)	本授業で用いる「文化」の定義を覚えておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	コミュニケーションのしくみ 言語メッセージと非言語メッセージの種々の伝達手段と機能を確認する。 異文化コミュニケーション理論のウォーミングアップとして、日常の価値・思考の異なりをペアワークで考える。	「コミュニケーション」とはなにか、インターネットで調べておくこと。(90分)	プリントを読み返し、用語を復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	異文化間のコミュニケーションとは 異文化コミュニケーションの広義の定義と狭義の定義を概説する。 異文化間ではコミュニケーションのすれ違いはなぜ起こりやすいのか、価値観の違いを理解できる。	プリントを読み、専門用語を調べておくこと。(90分)	各用語を復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	異文化コミュニケーションとは 異文化を知ることの第一歩は自文化を知ることにある。 「文化の島」をシミュレーションし、異文化接触の自己行動を振り返ることで、自文化を確認できるようになる。	異文化コミュニケーションの定義を調べておくこと。(90分)	課題を作成しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	対人コミュニケーション 人と人との出会いは「スモールトーク」から相手を判断・評価していく。そして、探り合いの段階から「関係」をどう築いていくかをグループワークをとおしてモニターし、対人関係構築の手法を考える。	プリントを読んでおくこと。(90分)	課題を作成しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	異文化コミュニケーションのバイアス 否定的なステレオタイプと偏見、そして差別の構図を事例をとおして概説する。	プリントを読んでおくこと。(90分)	課題を作成すること。(90分)
担当教員			
第7回	集団コミュニケーション 集団主義的傾向の強い文化と個人主義的傾向の強い文化を中心に、権威主義的文化、不確実性回避の強い文化集団の特徴が説明できる。	プリントを読んでおくこと。(90分)	不確実性回避の強い文化の特徴をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	メディアリテラシー ネット、SNS、マスメディアを中心にメディアリテラシーが身に付いているかを確認する。 欧米諸国の大手通信社の情報発信と、アラブ諸国の通信社の報道を対比し、すべての情報には書き手や作り手のフィルターがあることを確認する。	指定課題について、3つ以上の公的メディアの発信情報を読み、その視点の異なりを探しておくこと。(90分)	フェイクニュース事例を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	異文化接触とカルチャーショック 海外生活に限らず、私たちは人生の節目ごとに新しい集団に接触し、適応が求められる。カルチャーショックの理論を学び、適応の過程期におこる心理状況を分析できるようにする。	各自の過去の異文化集団における不適応／適応期を振り返っておく。(90分)	課題を作成しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	異文化適応と自己効力感 各自のこれまでの異文化接触をアドラーやヤング、石井の理論に当てはめて振り返る。 異文化適応曲線から、何がその曲線の動きに影響したか、自己の適応／不適応を描写できる。	これまでの所属集団における不適応時期とその原因を振り返っておく。(90分)	課題を作成しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	多文化主義と複文化主義 移民を多く受入れている欧米諸国を事例に、ホスト国文化への移民統合問題を眺めながら、日本の外国人受入の在り方を考える。	カナダとオーストラリアの移民受入れ状況を調べておくこと。(90分)	日本の外国人生活者の現状をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	多文化社会のコミュニケーション 多様な価値観を持つ社会で、他者と「共生」していくためには、「わかってもらう」ための言語コミュニケーションの手法を考える。	アイヌの歴史と国内の外国人居住者の現状を調べておくこと。(90分)	課題を作成しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	アサーティブコミュニケーション 攻撃型や受け身型ではないコミュニケーションとして、「あなたもOK、わたしもOK」となるための伝え方を考える。	プリントを読んでおくこと。(90分)	プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	確認テスト 異文化コミュニケーションにおける専門用語とその具体的な行動事例が説明できる。	これまでの授業を復習をしておくこと。(90分)	確認テストの誤答修正と追加説明を記しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テストの講評と解説。 異文化間での問題を確認し、これからの多文化社会でどのような姿勢であるべきかを事例問題からディスカッションする。	確認テストの間違いを修正し、補足説明を記しておくこと。(90分)	これまでの異文化間で起こるコミュニケーションギャップやミスコミュニケーションを復習しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験はしない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(30%)、課題発表(40%)、確認テスト(30%)。	

その他	0	なし。
教科書		
教科書は使用しない。プリントを配布する。		
参考文献		
石井敏他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』2014、有斐閣選書。石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』2013、有斐閣選書ほか、授業で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		保育方法の理論と実践				ナンバリング	2220
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
「育方法の理論と実践」は、ディプロマ・ポリシーに基づき、教育・保育・子育て支援にかかわるものとして、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力の知識と技能を身につけるための科目である。また、この科目は変化する社会の中でニーズに対応し、より適切な保育・教育のあり方を理解して教育・保育・子育て支援者としての基本的な思考・判断・表現を身につけていく分野であり、「保育原理」「保育者論」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」にも関連する。							
授業の概要							
保育内容についての理解のうえに、子どもの発達援助に適した保育方法を学び、さらによりよい保育を実現できるように考察を深める。保育方法の原理、環境による保育、遊びを通しての総合的指導、一人ひとりへの発達援助について、具体例を取り上げながら解説する。また、指導計画を作成し、現場に立つための実践的学習を積み重ねる。							
到達目標							
・子どもの1人ひとりの自発性、主体性を尊重することの大切さが説明できる。 ・保育の人的環境として大切な、応答的な保育の基本を挙げることができる。 ・子どもとの遊びの技能や保育技術の基本を述べることができる。							
授業の方法							
教科書、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、グループワークを通して保育の方法、内容を検討する。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育士資格・幼稚園1種免許、短期大学保育学科の教員経験に基づき、保育内容・方法・こどもとの接し方・指導案の書き方保について、保育実習および幼稚園実習に向けて実践的授業の取り組みをする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要： 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。保育の方法について考えてみる。	保育原理の教科書を見返しておくこと。(90分)	実際に保育現場で行われている保育について確認をすること。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	保育方法とは何か： 保育方法とはなにか。保育方法のポイントとして「保育観」「子ども観」「発達観」「子ども理解」「自発性」などのキーワードをあげることが出来るだろう。キーワードからみえてくる保育方法を知る。	教科書pp1-16を読んでおくこと。(90分)	授業で扱った保育方法についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	子ども理解からはじまる保育方法： 保育の出発点としての子ども理解を知る。子どもの内面、子どもの内面の理解を支える発達を見る目などを知る。	教科書pp17-32を読んでおくこと。(90分)	子ども理解についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	環境を生かした保育方法： 環境を通しての保育とはどのような保育だろうか、環境構成にはどのような工夫が可能なのかについて知る。	教科書pp33-46を読んでおくこと。(90分)	環境を生かした保育についてまとめておくこと(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	遊びを通しての総合的な指導方法: 子どもの発達をふまえながら遊びが学びとはどういったことをいうのか、遊びを通しての総合的な指導(保育)とはどのようなものだろうか、遊びが豊になるための援助とはどういったものかについて知る。	教科書pp47-64を読んでおくこと(90分)	保育における遊びについてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	個と集団を生かした保育方法: 集団の育ちとはなにか、個の育ちとはなにか、他者への思い、育ちあう姿の深まりと広がりについて知る。(グループワーク)	教科書pp65--84を読んでおくこと(90分)	個と集団をいかした保育についてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	子どもにふさわしい園生活と保育形態: 子どもにふさわしい園生活とは何か、保育形態にはどのようなものがあるのか、1日の流れはどのようなものが望ましいのかについて考え、知る。	教科書pp85-100を読んでおくこと(90分)	子どもにふさわしい園生活と保育形態についてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法: 発達段階に応じた保育方法を考え、保育指導案(部分案・1日案)の作成に必要な内容を理解する。	教科書pp101-118を読んでおくこと(90分)	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法についてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法: 発達段階に応じた保育方法を考え、保育指導案(部分案・1日案)の作成に必要な内容を理解する。	教科書pp119-144を読んでおくこと(90分)	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法についてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	保育の計画・実践・評価: 保育の計画・実践・評価がなぜ必要なのか、保育の「計画」と「実践」の関係、子どもに即した保育の「計画」と「実践」を生み出す「評価」について知る。(グループワーク)	教科書pp145-176を読んでおくこと(90分)	保育の計画・実践・評価についてまとめること(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	家庭・地域との連携を生かした保育： 家庭との連携が生かされる保育とはどのような保育なのか、 地域に開かれ、地域との連携が生かされる保育とはどのよ うな保育なのかについて知る。	教科書pp177-198を読んでおく こと。(90分)	地域などとの連携についてまと めておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	小学校との交流活動のデザイン： なぜ小学校と交流活動を行うのか、小学校と連携を取るに はどのように連携を取るのかなど実際の取り組みを参考に して、小学校との交流活動を知る。	教科書pp199-214を読んでおく こと。(90分)	交流活動についてまとめておく こと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	配慮を要する子どもへの保育方法： 配慮を要する子ども(発達障害が疑われる子など)への保育 方法、園内の連携の必要性、保護者との連携、専門機関と の連携の必要性について知る	教科書pp215-242を読んでおく こと。(90分)	配慮を要する子どもへの保育に ついてまとめておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	保育者の成長と保育実践の深まり： 保育者が成長するとはどういうことか、保育者の専門性とは なにか、保育におけるカンファレンスの必要性などについ てを知る。	配布資料を読み、保育カンファ レンスについて調べておくこと。 (90分)	保育者の成長とはどのようなもの かまとめておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	まとめ:保育方法についての復習： 保育方法の授業を振り返り、保育方法について考える。	これまでまとめたものを振り返る こと。(90分)	保育の方法について全体像をま とめておくこと。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(50%)、保育指導案(40%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
「最新保育講座⑥ 保育方法・指導法」、大豆生田啓友ほか、ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」、文部科学省		
参考文献		
最新保育資料集」(1年次に購入したもの):本テキストに含まれる保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照のこと		
履修条件・留意事項等		
積極的な授業参加を望みます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		保育者論				ナンバリング	2224
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関連がある科目である。「保育原理」と関連し、「保育方法の理論と実践」へとつながる科目である。							
授業の概要							
保育者が子どもや保護者とともに日々努力し、研鑽していかなければならないことを理解する。社会の変化や政策動向の理解を深めつつ、保育者の職務内容を明確にし、保育者同士や保護者、地域の人々との連携重視の観点を持つ。倫理観をも含めた保育者としてのあり方を考え、実践的な態度を養う。							
到達目標							
(1) 保育者として、保育所・幼稚園・認定こども園・社会福祉施設での職務を理解し、説明することができる。 (2) 子育て支援の観点から、保護者との関わり、地域との連携の重要性を実践的に考えることができる。 (3) 子ども・子育て支援新制度など、政策動向から求められる保育者の資質について考えることができる。							
授業の方法							
テキスト、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。15回の内、2回程度、先進的な子育て支援に取り組む保育者をゲストスピーカーとして招き、保護者支援、地域連携の実際を学ぶ。第10回の授業でグループワークを行い、現代社会における子育て困難について理解を深める。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションとして授業展開、学生の到達(行動)目標、成績評価方法などについて知る。保育者に関する興味関心を明確化し、授業に取り組む意識を高める。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第2回	保育士・幼稚園教諭の1日とその役割を理解する。保育士・幼稚園教諭の1年とその役割を理解する。指導計画の立案と行事、会議・研修への参加から見た幼稚園教諭の仕事を理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第3回	認定こども園における保育者の仕事と役割について、幼稚園や保育所と比較しながら理解する。地域子育て支援センター、児童福祉施設における保育士の仕事と役割について理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第4回	幼稚園教諭免許状・保育士資格と教育実習・保育実習について理解する。保育の現場で学ぶ意義を考え、授業での学ぶ姿勢を「実践できる」レベルへと見直す。専門職としての観点へと転換する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第5回	子どもとのかかわりと保護者（親）とのかかわりにおいて求められる役割を理解する。保育者が社会から求められている役割、備えるべき資質について理解する。協働の態度の必要性を知る。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第6回	保育所における保育士の1日の仕事の流れと留意点について現場の動きに即して理解する。保育士として研鑽・研修していることなどを知り、保育士の力量形成を理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第7回	認定こども園における保育教諭の1日の仕事の流れと留意点について現場の動きに即して理解する。保育教諭になるために大学で重点的に学ぶべきことを検討する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第8回	児童福祉施設における保育士の1日の仕事の流れと留意点について現場に即して理解する。保育士（児童福祉施設）として日々、研鑽・研修していることなどを知り、実践的に理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第9回	チーム保育をすること、職員会議の重要性について、子どもや子育て家庭に共同に関わる視点から理解する。先輩保育者からのアドバイスをもとに、自分の保育について常にふりかえることの視点を持つ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第10回	親の子育て困難について、家族形態、地域の教育力、子育て・生活の個別化、ジェンダーなどの視点から理解する。子ども・子育て支援新制度など、子育て支援の政策動向を理解する。親の子育て困難について、グループワークによって理解を深める。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第11回	地域子育て支援拠点における保育士の仕事と留意点について理解する。子育てしやすい地域づくりの視点から、他機関・他職種との連携の視点もふまえ、実践的に理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第12回	近年の政策動向から保育者の専門性が広く、高いレベルで求められていることを理解する。地域社会がもつ教育力、子育て機能の可能性について理解する。幼小連携、保小連携について理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第13回	異文化理解教育(保育)の必要性を知り、保育をどうすすめるか、興味関心をもつ。男女共同参画理念とジェンダーフリーの概念、特別支援教育(保育)への期待を知り、保育実践への興味関心をもつ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第14回	職務の法的根拠を知り、服務宣言について、服務義務と園務分掌(役割分担)を知り、園の一員として責任をもって常に行動することを自覚する。保育倫理綱領宣言について理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第15回	保育者の職務に必要な知識を持ったか、保育者として実践的な態度で臨めることができるか、倫理観について、学生自身の観点の構築ができたか、まとめる。	保育者論に関わる自己課題を確認し、まとめる(90分)	保育者論の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、授業内のリアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
「アクティベート保育学②保育者論」、秋田喜代美ほか、ミネルヴァ書房		
参考文献		
「新時代の保育双書 今に生きる保育者論」、秋田喜代美編、(株)みらい 「保育者の地平—私的体験から普遍に向けて」、津守真、ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
授業内で配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		こどもの心理学 I				ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	川俣 智路						
授業の位置づけ							
幼児・児童の心と体の発達とその支援の理解に関する科目であり、『教育と保育の理解の科目』に属する。『保育原理(1年前期)』に続き、『乳幼児心理学(2年後期)』とともにこどもの精神的、身体的、社会的発達についてその基礎的な理論を学ぶ。その後に履修する『幼児の理解(2年前期)』の基礎的な知識を得て3年次以降のより専門的な学修の基盤を形成する。ディプロマポリシーの「乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識」、「成長・発達を支援するための基本的資質」を身につけ、「より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関係する科目である。							
授業の概要							
発達心理学、教育心理学およびその関連領域から、人間の生涯にわたる心身の発達の過程について、こどもの発達に関わる環境、身体的・運動的要因、感情や認知の発達、社会性などの様々な要因とその影響について学び、科学的な発達観、教育観、保育観、こども観を育成する。							
到達目標							
1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解している。							
授業の方法							
授業内では、前半に知識のレクチャーを実施し、後半はウェブ掲示板を活用しながら保育、教育に関する課題について心理学の視点からグループで議論する、課題解決型の授業を実施する。毎回の授業について事前学習、授業内容、事後学習を、次回の授業の開始時まで実施する。その他に15回の授業の中で毎回学習内容の確認問題の実施をする。また、授業の中で学習の定着度を測るための確認テストを実施する。なお、シラバスの実施回と実施内容は変更する場合があるが、その場合はその都度連絡する。							
ICT活用							
自身のデバイスによるクリッカーの活用、ウェブ掲示板による意見交流、ウェブフォームを使った確認問題の実施							
実務経験のある教員の教育内容							

公認心理師として、学校や保育所に勤務した経験を活かして、子どもの心理や発達について講義する

課題に対するフィードバックの方法

課題はウェブで提出として、質問への回答やコメントのフィードバックを実施する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育・教育のために心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ。	シラバスを通読して本科目のアウトラインを把握する。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第2回	こどもの心身の発達の变化的変化について「発達の順序性」「発達の方向性」「成熟優位説」「輻輳説」などについて、ゲゼルによる成熟優位説など様々な考え方からこども・保育・教育について理解する。	発達に関わる用語や理論について検索し、イメージを持っておく【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第3回	新生児は無能で白紙のような存在と考えられていた時代もあるが、胎児も学習する存在であり、個性がある。乳幼児の年齢別の言語発達の様相とその扱い方について学ぶ。	自分の赤ちゃん時代のことを調べてみたり、SNSやyoutubeで新生児に関わるコンテンツを視聴する【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第4回	この時期のこどもの発達とその扱い方について学ぶ。社会性の芽生えについても取り上げる。何が大人の愛情を引き出すカギになるのかといった点についても考察する。	自分の母子手帳や、SNSやyoutubeにあるコンテンツを視聴し、幼児期のイメージをつかむ。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			

第5回	こどもは赤ちゃんから親から自立した存在へと発達していく。その過程で生じる「反抗」や「うそ」なども成長の証しである。フロイトの精神分析理論などから学習する。	幼い時の養育者との関わりや、子どもと養育者に関するウェブサイト、SNS、youtubeなどのコンテンツを視聴しておく【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第6回	集団生活が可能になり、友達との間の社会的関係も形成できるこの時期は幼稚園や保育所で過ごす時期であり、学ぶべきことが多い時期である。この時期の発達について学ぶ。	保育所・幼稚園時代の自分に関する情報整理したり、ウェブサイトやSNS等で保育所・幼稚園・こども園の情報を整理しておく【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第7回	小学校に進んだこどもは新しい環境に適応できないことも多い。バンデュラの社会的認知理論を軸に、児童期の認知能力・情緒・人格・社会性の発達等について学ぶ。	自分の小学生時代について回想すると共に、現在の小学校の発達支援について調べて整理しておく【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第8回	生涯発達の中の青年期について、エリクソンの社会的発達理論を中心に学ぶ。精神的に親から自立しようとする時期である青年期について学び、幼児・児童との関わりについても検討する。	エリクソンの発達理論について、ウェブサイト等を検索して自分なりに整理しておくこと。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第9回	生涯発達の中の成人期・老人期 について学ぶ。社会的、経済的、精神的に自立した存在である老人への変化の過程を学ぶ。	自己の周辺の大人(親、祖父母、周囲の大人)の話、観察等から学んだことを整理する。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第10回	「生涯発達とは何か？」について学び、発達とは何かについて概要を学ぶことができる	本科目で今までに学んだ内容を整理・確認し、発達についてイメージを持つ【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			

第11回	現代のこどもの身体問題、運動発達の分類と方向性、乳幼児期の運動発達の様相、児童期の運動発達の様相、運動発達に影響するもの、について学ぶ。	こどもの運動の発達に関して、SNS、youtube、ウェブサイト等を検索して自分なりに整理しておくこと。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第12回	ピアジェの発達理論、各時期の認知発達の状況、発達における社会文化的視点について学ぶ。ピアジェの臨床法の例を取りあげて具体的に学ぶ。	ピアジェの発達理論・臨床法についてネット検索やyoutubeで調べてイメージを持つ【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第13回	①発達障がい、②身体的障がい、③精神障がい、④ 障がいのある子どもとの関わり、⑤インクルーシブ保育・教育等について学習する。	各種の障がいについてウェブ検索、SNS、youtube等を活用してどのようなものかイメージが持てるようにする。【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第14回	感情とその機能、感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会・文化の中での感情、感情の表現に問題と、心の表現としての感情表出とその対応について学習する。	ブリッジスの『感情の分化』の研究について調べ、そのイメージを持てるようにする【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
第15回	気質と性格、子どもの気質、性格をとらえる理論、性格を測定する方法、子どもの気質・性格の発達の保育について学ぶ。性格検査についても実践的な学習を行う。	各種の性格論・特性論についてウェブ検索やyoutubeなどを通して調べ、イメージを持つ【90分】	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義終了後の定着度確認問題13回(2%×13回) 授業内での確認テスト2回(24%、50%)	

その他	0	
教科書		
指定しない		
参考文献		
保育の心理学 2019年度 新保育士養成課程対応 本郷一夫、飯島典子編著 建帛社 その他、適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		こどもの心理学Ⅱ(2組)				ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	井内 聖						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることができる(思考・判断・表現)」とも関係する。 「こどもの心理学Ⅰ」を基礎とし、保育・教育に関わるより専門的な各科目と連続する。							
授業の概要							
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解するために、各種の学習理論とその教育への応用、主体的学習に関わる様々な要因、学習指導の基礎になる知識等について学ぶ。							
到達目標							
(1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明するための代表的理論の基礎を理解している。 (2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解している。 (3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動の指導と発達援助の基礎となる考え方を理解している。 (4) こどもの心身の発達と保育実践についての理解を深め、子どもの経験や学習の過程を理解している。							
授業の方法							
パワーポイントと視聴覚メディアを用いて理論を講義形式で説明したのち、演習を行う。 毎回の授業でグループワークとディスカッションを行う。							
ICT活用							
ウェブアプリを用いた双方向授業を取り入れる。 グーグルフォームのテスト作成機能を用いて自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

中学校教員、教育委員会、幼児教育および保育現場での勤務経験があり、教育全般について幅広い知識を有している。この経験を活かし、演習ではより現場に近い体験型の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポート提出後、課題に対しての解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育・教育のための心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ。	教科書のp1～p7を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第2回	発達アセスメントを通した子どもの理解について学とともに子どもの発達を理解する方法について学ぶ。	教科書のp9～p15を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第3回	思春期が抱える現代の問題を通して、育ちの連続性と思春期を見通した保育のあり方について検討する。	教科書のp17～p23を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第4回	子どもの身体感覚や運動発達について理解を深め、子どもの身体感覚を育てる教育と保育のあり方について学ぶ。	教科書のp25～p33を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			

第5回	ピアジェの認知発達理論を学び、言葉や数、自然や人に対する認識について、子どもの認識の発達と生活や遊びの中での学びについて学習する。	教科書のp35～p41を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	感情とその機能、感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会・文化の中での感情、感情の表現に問題と、心の表現としての感情表出とその対応について学習する。	教科書のp43～p49を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第7回	気質と性格、子どもの気質、性格をとらえる理論、性格を測定する方法、子どもの気質・性格の発達の保育について学ぶ。性格検査についても実践的な学習を行う。	教科書のp51～p57を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第8回	安定した土台を形成するための大人のかかわりや愛着形成などについて理解し、子どもの保育者の関係について学ぶ。	教科書のp59～p65を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第9回	集団生活が可能になり、友達との間の社会的関係も形成できるこの時期は幼稚園や保育所で過ごす時期であり、学ぶべきことが多い時期であることを確認する	教科書のp67～p73を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第10回	保育者の協働から導かれる保育について理解を深め、保育における「協働」の意義と意味について学習する。	教科書のp75～p82を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			

第11回	小1プロブレムや幼小連携の実践例などを学び、関係機関と連携して子どもを育てることについて検討する。	教科書のp84～p88を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	①発達障がい、②身体的障がい、③精神障がい、④障がいのある子どもとの関わり、⑤インクルーシブ保育・教育等について学習する。	教科書のp92～p99を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第13回	「気になる」子どもや障害のある子どもの特徴と支援について学ぶ。	教科書のp101～p107を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第14回	保護者と連携して保育を進める実践例について学ぶ。専門職として保護者に対する支援の基本について学ぶ。	教科書のp109～p115を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第15回	保育・教育のために心理学を学ぶことの意義について、これまでの授業を振り返り、総合的に検討する。	教科書全般を振り返り、まとめる(90分)	授業の全講義内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で実施するレポート(全体の30%) ・教科書課題(全体の30%) ・授業の参加態度(全体の40%)	

その他	0	
教科書		
保育の心理学ワークブック/本郷一夫編/建帛社		
参考文献		
適宜、参考文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		こどもの心理学Ⅱ(1組)				ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	井内 聖						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることができる(思考・判断・表現)」とも関係する。 「こどもの心理学Ⅰ」を基礎とし、保育・教育に関わるより専門的な各科目と連続する。							
授業の概要							
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解するために、各種の学習理論とその教育への応用、主体的学習に関わる様々な要因、学習指導の基礎になる知識等について学ぶ。							
到達目標							
(1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明するための代表的理論の基礎を理解している。 (2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解している。 (3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動の指導と発達援助の基礎となる考え方を理解している。 (4) こどもの心身の発達と保育実践についての理解を深め、子どもの経験や学習の過程を理解している。							
授業の方法							
パワーポイントと視聴覚メディアを用いて理論を講義形式で説明したのち、演習を行う。 毎回の授業でグループワークとディスカッションを行う。							
ICT活用							
ウェブアプリを用いた双方向授業を取り入れる。 グーグルフォームのテスト作成機能を用いて自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

中学校教員、教育委員会、幼児教育および保育現場での勤務経験があり、教育全般について幅広い知識を有している。この経験を活かし、演習ではより現場に近い体験型の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポート提出後、課題に対しての解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育・教育のための心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ	教科書のp1～p7を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第2回	発達アセスメントを通した子どもの理解について学とともに子どもの発達を理解する方法について学ぶ。	教科書のp9～p15を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第3回	思春期が抱える現代の問題を通して、育ちの連続性と思春期を見通した保育のあり方について検討する。	教科書のp17～p23を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第4回	子どもの身体感覚や運動発達について理解を深め、子どもの身体感覚を育てる教育と保育のあり方について学ぶ。	教科書のp25～p33を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			

第5回	ピアジェの認知発達理論を学び、言葉や数、自然や人に対する認識について、子どもの認識の発達と生活や遊びの中での学びについて学習する。	教科書のp35～p41を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	感情とその機能、感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会・文化の中での感情、感情の表現に問題と、心の表現としての感情表出とその対応について学習する。	教科書のp43～p49を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第7回	気質と性格、子どもの気質、性格をとらえる理論、性格を測定する方法、子どもの気質・性格の発達の保育について学ぶ。性格検査についても実践的な学習を行う。	教科書のp51～p57を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第8回	安定した土台を形成するための大人のかかわりや愛着形成などについて理解し、子どもの保育者の関係について学ぶ。	教科書のp59～p65を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第9回	集団生活が可能になり、友達との間の社会的関係も形成できるこの時期は幼稚園や保育所で過ごす時期であり、学ぶべきことが多い時期であることを確認する	教科書のp67～p73を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第10回	保育者の協働から導かれる保育について理解を深め、保育における「協働」の意義と意味について学習する。	教科書のp75～p82を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			

第11回	小1プロブレムや幼小連携の実践例などを学び、関係機関と連携して子どもを育てることについて検討する。	教科書のp84～p88を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	①発達障がい、②身体的障がい、③精神障がい、④障がいのある子どもとの関わり、⑤インクルーシブ保育・教育等について学習する。	教科書のp92～p99を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第13回	「気になる」子どもや障害のある子どもの特徴と支援について学ぶ。	教科書のp101～p107を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第14回	保護者と連携して保育を進める実践例について学ぶ。専門職として保護者に対する支援の基本について学ぶ。	教科書のp109～p115を読んでおく(90分)	教科書の演習課題に取り組む(90分)
担当教員			
第15回	保育・教育のために心理学を学ぶことの意義について、これまでの授業を振り返り、総合的に検討する。	教科書全般を振り返り、まとめる(90分)	授業の全講義内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で実施するレポート(全体の30%) ・教科書課題(全体の30%) ・授業の参加態度(全体の40%)	

その他	0	
教科書		
保育の心理学ワークブック/本郷一夫編/建帛社		
参考文献		
適宜、参考文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		教育基礎論				ナンバリング	2232
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、保育士資格、教育職員免許状取得(幼稚園教諭、小学校教諭)のための必修科目であり、「教育の基礎的理解に関する科目」でもある。加えて、「保育・教育の基礎的な知識と能力を身につける」科目として「教職原論」を基礎とし、「保育方法の理論と実践」につながる科目である。							
授業の概要							
教育についての主観的、常識的な概念を相対化し、社会における教育的事象についての検討をもとに、教育、とりわけ21世紀にふさわしい学校教育の改革の方向性を学ぶ。主として教育の根底にある民主主義の哲学、アクティブ・ラーニング、主体的な学び、探究と協同の学び、対話的な学びを実践できるようメタ的に学ぶ。							
到達目標							
1.21世紀にふさわしい学校教育の改革のあり方について、その背景を理解し、述べることができる。 2.教育の根底にある民主主義の哲学の重要性を理解し、表現できる。 3.アクティブ・ラーニング、主体的な学び、探究と協同の学び、対話的な学びをメタ的に思考し、概念を実践的に操作できる。							
授業の方法							
パワーポイントおよび配布印刷物を用いて、授業内容と方法を提示する。 テキスト理解を深め合いながら、グループ学習を豊富に取り入れ、アクティブラーニングを軸に授業を進める。							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを活用し、レポート提出等に際し、自主学習支援を行う。また学生のリポートを受講者全員に共有し、双方向型の授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

加藤は、公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。そしてこの間、演劇教育をテーマに、質的方法によって研究し、博士号を取得した。以上の経験を活かし、学校現場における具体的な子どもたちの姿を想定し、「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくり、活動づくりの方法を提案させ、全体での議論をファシリテートする。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が対話的に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	- ガイダンス: 授業のすすめ方、アクティブ・ラーニングのためのグループ編成、課題レポートの書き方、評価等について説明する。 - グループ内でレポート①の分担範囲を決める。 「21世紀にふさわしい学び」に向けた学校改革の背景について考える。	シラバスを読んでおく。(90分)	課題1(レポート①)に取り組む。(90分)
担当教員			
第2回	テキストp.2-5「学校改革の始まりと高まり」について考え、対話し、発表する。	テキストp.2-5を読み、「学校改革の始まりと高まり」について、内容を理解する。(90分)	テキストp.2-5を復習し、「学校改革の始まりと高まり」について、自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	テキストp.6-14「21世紀の社会と学校」の課題について考え、対話し、発表する。	テキストp.6-14を読み、「21世紀の社会と学校」について、内容を理解する。(90分)	テキストp.6-14を読み、「21世紀の社会と学校」について、自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	学校改革に向けた「学びの共同体のビジョンと哲学」について考え、対話する。	テキストp.15-20を読み、「学びの共同体のビジョンと哲学」について、内容を理解する。(90分)	テキストp.15-20を読み、「学びの共同体のビジョンと哲学」について、自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	学校改革に向けた「学びの共同体の活動システム」について考え、対話する。	テキストp.21-24を読み、「学びの共同体の活動システム」について、内容を理解する。(90分)	テキストp.21-24を復習し、「学びの共同体の活動システム」について、自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	学校改革のための「協同的学びによる授業改革」について考え、対話する。	テキストp.25-37を読み、「協同的学びによる授業改革」について内容を理解する。(90分)	テキストp.25-37を復習し、「協同的学びによる授業改革」について自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	新しいグループで、これまでの学習の中間的なふりかえりを行う。 取りこぼしたキーワードについて取り上げ、対話し、発表する。 新しいグループ内でレポート②の分担範囲を決める。	これまでの学習範囲(テキスト)を読み直す。(90分)	課題2(レポート②)に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	学校改革に向けた「教師間の同僚性の構築」について考え、対話する。	テキストp.38-43を読み「教師間の同僚性の構築」について内容を理解する。(90分)	テキストp.38-43を復習し、「教師間の同僚性の構築」について自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	学校改革に向けた「保護者との連帯、教育委員会との連携」について考え、対話する。	テキストp.44-49を読み「保護者との連帯、教育委員会との連携」について内容を理解する。(90分)	テキストp.44-49を復習し、「保護者との連帯、教育委員会との連携」について自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第10回	学校改革に向けた「国内外のネットワーク」について考え、対話する。	テキストp.50-53を読み、「国内外のネットワーク」について内容を理解する。(90分)	テキストp.50-53を復習し、「国内外のネットワーク」について自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			

第11回	学校改革に向けた、地域における「パイロット・スクール」について考え、対話する。	テキストp.54-57を読み、地域における「パイロット・スクール」について内容を理解する。(90分)	テキストp.54-57を復習し、地域における「パイロット・スクール」について、自分自身の考えをまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	学校改革に向けた、地域における「パイロット・スクール」の実践としての茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践を学ぶ。	学校改革に向けた、地域における「パイロット・スクール」としての茅ヶ崎市立浜之郷小学校実践についてICTを使い調べておく。	学校改革に向けた、地域における「パイロット・スクール」としての茅ヶ崎市立浜之郷小学校実践について復習し、自分自身の考えをまとめておく。
担当教員			
第13回	教育改革に向けた、北海道における実践について考え、対話する。	教育改革に向けた、北海道の実践についてICTを使い調べておく。	教育改革に向けた、北海道の実践について復習し、自分自身の考えをまとめる。
担当教員			
第14回	北海道におけるオルタナティブ・スクール(代替学校)の実践について、考え、対話する。	北海道におけるオルタナティブ・スクール(代替学校)の実践について、ICTを使い調べておく。	北海道におけるオルタナティブ・スクール(代替学校)の実践について、復習し自分自身の考えをまとめる。
担当教員			
第15回	これまでの授業をふりかえり、議論できなかった点についてとりあげ、考え、対話する。	これまでの授業をふりかえり、議論できなかった点について、考えておく。	今日の授業の中で対話、議論した点について、あらためて復習し、自分自身の考えをまとめる。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①課題提出・発表(50%程度)、挙手発言(30%程度)、グループ活動への積極性(20%程度)	

その他	0	
教科書		
佐藤学(2012)『学校を改革する』岩波ブックレット.		
参考文献		
授業中に適宜紹介します。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		
北海道内で教育改革を实践する実践者を招き、講演してもらうこともあります。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		肢体不自由者の心理・生理・病理				ナンバリング	2256
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子、白幡 知尋						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。 特別支援専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は必修である。肢体不自由児教育Ⅰ(2年前期)に接続し、重複障がい教育総論(4年)の基礎となる。							
授業の概要							
肢体不自由の定義やその原因となるさまざまな疾患損傷等について学び、通常の運動発達のプロセスや、身体各部位の名称、各関節の機能や運動及び心理について学ぶ。さまざまな身体の動きとその支援についての概要や補装具の種類など、肢体不自由者への対応の基礎的な知識について、視聴覚教材を活用しながら、また、パワーポイントと配布印刷物を用い、講義形式とグループ学習を通して、総合的に学ぶ。							
到達目標							
1. 肢体不自由の起因疾患(脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患)となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2. 観察や検査を通して、脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知的の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3. 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウト、肢体不自由者の多様な実態を視聴覚メディアを活用しながら肢体不自由の個々の事例について説明する。さらに、肢体不自由の心理・生理・病理についての理解を深めるための、グループ学習、学生によるプレゼンテーションを取り入れる。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。また、Google Formのテスト作成機能を用いて課題を提示し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験から、肢体不自由者の心理・生理・病理についての基礎的な知識を、総合的に学ぶ授業を提供する。(木谷岐子)
歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。(白幡知尋)

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに評価やコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	● オリエンテーション(木谷・白幡) 講義の目的や内容、進め方についての説明を行い、15回の授業の展開を理解する。映像資料視聴を通して、この授業で学ぶ肢体不自由の心理・生理・病理の概要を知る。	肢体不自由児の心理・生理・病理の状態について調べる。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	白幡 知尋、木谷 岐子		
第2回	● 「肢体不自由」を理解するための解剖生理学的基礎①～骨・関節・末梢神経(白幡) こどもの発達とその身体的障がいについて理解を深めることを目的に、基本的な人体の構造と機能について理解する。	理科, 保険体育・生物などの科目で高等学校までに学んだ人体に関する内容を簡潔に復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、人体についての理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第3回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携①～骨・関節疾患と末梢神経(白幡) 主に骨や関節に関連したものの基本的な病態を解説し、それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、主な骨と関節について復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第4回	● 「肢体不自由」を理解するための解剖生理学的基礎②～中枢神経・筋(白幡) 主に中枢神経(脳)と筋に関連したものの基本的な病態を解説し、それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、中枢神経(脳)と主な筋について復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第5回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携②～神経・筋疾患(白幡) 主に(抹消)神経と筋に関連したものの基本的な病態を解説し、それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、神経系について復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第6回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携③～脳性麻痺(白幡) 脳性麻痺についての基本的な病態を解説し、それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、中枢神経系と運動器系に復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第7回	● 肢体不自由児の日常生活動作の評価方法(白幡) 国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health)の意義と概要を基に、具体的に日常生活活動を評価する視点と方法について理解する。	第3～6回までの資料から、学んだ疾患に見られた生活・動作に関する項目について復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、日常生活動作の捉え方について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第8回	● バリアフリーと心のバリアフリーについて①(木谷) 映像資料視聴を通して、医療的ケアを必要とする重い障がいがある人とその人を支える家族の地域での生活について考える。	重複障がいについて調べる。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	● バリアフリーと心のバリアフリーについて②(木谷) 映像資料視聴を通して、重い障がいがある人が地域で生活することの困難と、そのことの意義、また家族への支援について考える。	映像から学んだことを話し合う。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	● 障がいと共に生きる①(木谷) 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べるためのオリエンテーションをおこなう。グループ活動の日程、活動の内容、到達目標を確認する。グループ内で役割分担をする。	パラリンピックスポーツについて調べる。(90分)	自分が割り当てられたパラリンピックスポーツについて調べる(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	● 障がいと共に生きる②(木谷) 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べる。スポーツの発症、ルール、注目選手をプレゼンテーション用のスライドにまとめていく。	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて調べたことを話し合う。(90分)	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて工夫してまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	● 障がいと共に生きる③(木谷) 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べる。スポーツの発症、ルール、注目選手についてまとめたスライドを確認し、発表の仕方を考える。	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて工夫してまとめたことを交流する。(90分)	自分が割り当てられた障がい者スポーツの魅力が伝わる発表となるよう練習する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	● 障がいと共に生きる④(木谷) パラリンピックスポーツを調べたグループごとに調べたことを発表し、そのスポーツの魅力や選手の魅力を伝え合う。	自分が割り当てられた障がい者スポーツの魅力を伝えられる発表となっているか交流する。(90分)	他のグループの発表に対する感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	● 障がいと共に生きる⑤(木谷) パラリンピックスポーツを調べたグループごとに調べたことを発表し、そのスポーツの魅力や選手の魅力を伝え合う。	他のグループの発表に対する感想を交流する。(90分)	他のグループの発表に対する感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	● まとめ(木谷・白幡) この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストを行う。	授業で配られた資料を振り返り、学んだ事を復習する。(90分)	この授業で配布された資料をファイリングしながら振り返り、今後も活用できる状態にする。(90分)
担当教員	白幡 知尋、木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%)グループ学習及び発表への積極性(20%) 授業参加態度(10%)	

その他	0	
教科書		
必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		
安藤隆男著『よくわかる 肢体不自由教育』ミネルヴァ書房 特別支援学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 文部科学省		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理				ナンバリング	2260
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	福山 紀枝子、佐藤 靖典						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】ことと関係する科目である。 専門基礎科目のこども支援分野であり、卒業必修である。また、保育士資格取得希望者は、選択必修、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。 特別支援教育総論(2年)、視覚・聴覚障がい教育(3年)の基礎となる。							
授業の概要							
本授業は、特別支援教育に関する視覚障がい児及び聴覚障がい児の心理、生理及び病理に関する科目として、視覚障がい及び聴覚障がいの定義と分類、視覚器及び聴覚器の構造・機能・疾患と見えや聞こえの仕組み、視覚障がい及び聴覚障がいの状況や程度に関する検査法などについての基礎的知識について身に付ける。また、心理面、生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用や家庭、医療機関との連携の在り方について理解する。							
到達目標							
①視覚障がい及び聴覚障がい児の心理特性とその発達、視覚器及び聴覚器の構造と機能、視覚障がい及び聴覚障がいに係る疾患について説明することができる。 ②視覚障がい及び聴覚障がいの状態や程度を調べる検査法などの基礎的知識・技能等について説明することができる。							
授業の方法							
スライドおよび配布物を用いて、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。 次時の予告をするなどしながら、教科書等を中心に授業内容の確認・整理に努める。フィードバックとして必要に応じて振り返りテストにコメント等を返す。							
ICT活用							
スライドを活用し、視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係る動画を視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

特別支援学校(視覚障がい・聴覚障がい)での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りのミニレポートなどによる理解度の確認を行う。また、全体にフィードバックした方がよい内容については、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜テーマ＞「聴覚障がいのある子どもの心理的特性」 講義予定、評価等について説明する。聴覚障がいによる学習上及び生活上の困難から生じる聴覚障がい児の心理的特性について、聴覚障がいへの配慮も合わせて学ぶ。	本講義のシラバス及び授業内容について確認する。 聴覚障がい児の心理的特性について、インターネットや手持ちの資料から調べる。(90分)	聴覚障がいの概要ある子どもの心理的特性についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第2回	＜テーマ＞「聴覚障がいの分類とオーディオグラム」 聴覚器の構造と機能及び聴覚障がいの生物学的基盤を学ぶ。また、オーディオグラムについて学ぶ。	インターネットや手持ちの資料から調べる。(90分)	スライド資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第3回	＜テーマ＞「補聴器、人工内耳、補聴システム」 補聴器や人工内耳の基本と聴力測定の概要について学ぶ。	インターネットや手持ちの資料から調べる。(90分)	スライド資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第4回	＜テーマ＞「聴覚障がいをめぐる社会・文化的背景と諸問題」 音声や手話などのコミュニケーションの方法について、文化・歴史的な理解を深める。 学んだ成果について、まとめのテストを実施する。	資料等を中心に、事前に授業に関わる事項を調べる。 聴覚障がいのまとめのテストに向けて聴覚の全体の学習内容について確認する。(90分)	スライド資料などにより、授業内容についてまとめる。 まとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		

第5回	＜テーマ＞「視覚障がいと認知の概要」 講義予定、教科書、評価等について、説明する。視覚障がいの定義や眼球の構造と機能及び主要な眼疾患の概要、視覚情報の認知について解説し、視覚霜害についての理解を深める。	講義内容について確認し、教科書を中心に授業内容に関わる箇所を事前に調べる。 (90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第6回	＜テーマ＞「眼疾患と視覚管理及び視機能と検査法」 眼疾患に対応した視覚管理のあり方や視力について考え、視力や視野等の視機能の各種検査法について解説する。	教科書を中心に、授業に関わる箇所を事前に調べる。(90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第7回	＜テーマ＞「視覚障がい児の発達と空間認知」 全盲児から弱視児までの視覚状況と知的発達の関係を考え、触察や触読の能力や空間認知の仕方などについての特性を理解する。	教科書を中心に、授業内容に関わる箇所を事前に調べる。(90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第8回	＜テーマ＞「ロービジョン児の見え方及び視覚支援」 弱視児の見え方を理解し、生活や学習の中での困難を考える。障がいを改善・克服するための支援器具としての視覚補助具等について、白杖や映像などを使って紹介する。視覚障がいについて学んだ成果について、まとめのテストを実施する。	教科書及び資料等を中心に、授業に関わる事項を事前に調べる。 視覚障がいのまとめのテストに向けて視覚の全体の学習内容について確認する。(90分)	スライド資料や配布資料などにより、授業内容についてまとめる。 まとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(20%) 授業への参加態度(20%)授業内での発表状況(15%) レポート提出(15%) 障がい別に、まとめのテストを実施する(30%)	
その他	0		
教科書			

新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアーズ教育出版
参考文献 視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育 改訂2版 監修 篠田達明 金芳堂
履修条件・留意事項等 卒業必修 保育士資格取得希望者は選択必修 特別支援学校教諭免許取得希望者は必修
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		障がい児保育Ⅱ（1組）				ナンバリング	2263
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」と特に関係する科目であり、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、障がい児を有することの基本的な知識を身につけることに関係する。 「発達障がい等教育総論」、「障がい児保育Ⅰ」と関連する科目である。							
授業の概要							
障害により生活のしづらさを持っている幼児に対して、障害特性を理解したうえで、どのように接することが本人や保護者に意味を持つのか、どのような支援が可能なのかを学ぶ。 障害がい児保育の実践、保護者の思い、保育者の役割、家族支援を学び、障がい児保育が保育の原点であるという考えも吟味して、一人一人のための発達支援の在り方を学ぶ。							
到達目標							
・保育者として子どもの支援にどのように関わるのかを考えながら、障害の理解と保育の在り方を論じることができる。 ・いわゆる「気になる子」の理解と保育を進めるための要点を挙げることができる。 ・保育の中で感じられる子どもへの手ごたえや喜びと共に困難さや辛さや切なさなどを知り、支援への姿勢を論じることができる。							
授業の方法							
基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。 調査後、発表を行い全体で内容を共有する。 講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	肢体不自由児について:グループ学習 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	肢体不自由についての文献を探しておくこと。(25分)	肢体不自由についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	肢体不自由児について:グループワーク 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第4回	肢体不自由児について:プレゼンテーション 肢体不自由とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	肢体不自由児について振り返ること。(20分)
担当教員			

第5回	知的障がい児について:グループ学習 知的障がいについて特徴や診断基準などについて知る。	知的障がい児についての文献を探しておくこと。(25分)	知的障がい児についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	知的障がい児について:グループワーク 知的障がいとはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第7回	知的障がい児について:プレゼンテーション 知的障がいとはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	知的障がい児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第8回	発達障害について:グループ学習 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	発達障害について文献を探しておくこと。(25分)	発達障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	発達障害について:グループワーク 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第10回	発達障害について③:プレゼンテーション 発達障害とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達障害について振り返ること。(20分)
担当教員			

第11回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループ学習 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについての文献を探しておくこと。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループワーク 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第13回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:プレゼンテーション 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	障害児保育の現状:講義 職員間や他機関との連携や保護者に対する理解、交流について	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など	

その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)
教科書		
特に指定なし。		
参考文献		
随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		障がい児保育Ⅱ（2組）				ナンバリング	2263
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」と特に関係する科目であり、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、障がい児を有することの基本的な知識を身につけることに関係する。 「発達障がい等教育総論」、「障がい児保育Ⅰ」と関連する科目である。							
授業の概要							
障害により生活のしづらさを持っている幼児に対して、障害特性を理解したうえで、どのように接することが本人や保護者に意味を持つのか、どのような支援が可能なのかを学ぶ。 障害がい児保育の実践、保護者の思い、保育者の役割、家族支援を学び、障がい児保育が保育の原点であるという考えも吟味して、一人一人のための発達支援の在り方を学ぶ。							
到達目標							
・保育者として子どもの支援にどのように関わるのかを考えながら、障害の理解と保育の在り方を論じることができる。 ・いわゆる「気になる子」の理解と保育を進めるための要点を挙げることができる。 ・保育の中で感じられる子どもへの手ごたえや喜びと共に困難さや辛さや切なさなどを知り、支援への姿勢を論じることができる。							
授業の方法							
基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。 調査後、発表を行い全体で内容を共有する。 講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	肢体不自由児について:グループ学習 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	肢体不自由についての文献を探しておくこと。(25分)	肢体不自由についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	肢体不自由児について:グループワーク 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第4回	肢体不自由児について:プレゼンテーション 肢体不自由とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	肢体不自由児について振り返ること。(20分)
担当教員			

第5回	知的障がい児について:グループ学習 知的障がいについて特徴や診断基準などについて知る。	知的障がい児についての文献を探しておくこと。(25分)	知的障がい児についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	知的障がい児について:グループワーク 知的障がいとはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第7回	知的障がい児について:プレゼンテーション 知的障がいとはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	知的障がい児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第8回	発達障害について:グループ学習 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	発達障害について文献を探しておくこと。(25分)	発達障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	発達障害について:グループワーク 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第10回	発達障害について③:プレゼンテーション 発達障害とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達障害について振り返ること。(20分)
担当教員			

第11回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループ学習 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについての文献を探しておくこと。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループワーク 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第13回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:プレゼンテーション 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	障害児保育の現状:講義 職員間や他機関との連携や保護者に対する理解、交流について	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など	

その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)
教科書		
特に指定なし。		
参考文献		
随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養Ⅱ(2組)				ナンバリング	3331
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。 関連科目は「こどもの食と栄養Ⅰ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
保育者として、食育の実践に必要な基本を学ぶ。食育の基本とその内容、食育を推進するため地域の関連機関や施設職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援などを学ぶ。家庭と児童福祉施設が栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを理解する。更に、特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養についても対応ができる力をつける。							
到達目標							
・食と栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを説明できる ・食育の演習・実習をグループで取り組むことができる ・食育推進の重要性を述べることができる ・食べることを楽しみながら、実践活動ができる							
授業の方法							
講義形式授業のほか、4回目・7回目・11回目・13回目にグループワークを、3回目・8回目・12回目・14回目には実習をおこなう。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
小テストは返却時に解説を行う。 課題に対しては、適宜指導・助言を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・家庭における食事と栄養について理解する ・児童福祉施設における食事と栄養について理解する	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポートを作成する(25分)
担当教員			
第2回	食育・栄養と保育(1) 乳児期の成長・発育と食生活 ・新生児、乳児の心身の成長と発達を理解する ・乳汁栄養の方法、調乳について学ぶ	教科書P62～75「乳児期の食生活」を読む(20分)	ワークシート課題を仕上げる(25分)
担当教員			
第3回	育・栄養と保育(2) 調乳法の実践 ・調乳、洗浄、消毒を体験し理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P65～68「人工栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第4回	食育・栄養と保育(3) 離乳食の実践 ・離乳食の意義についてグループで話し合う ・ベビーフードの試食を通して、離乳食の形状や味について説明できる ※調理実習室で授業を行う	教科書P68～75「離乳の意義とその実践」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第5回	保育所給食(1) 保育所給食の役割と意義 ・保育所給食の献立について学ぶ	教科書P77～83「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	課題「1～2歳児の栄養給与量をもとめ保育給食献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第6回	保育所給食(2) 保育施設に合う食事形態とは ・保育所給食の献立を立てられる	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第7回	保育所給食(3) 成長に合わせた幼児食の必要性 ・偏食の対策についてグループで話し合う	教科書P83～87「幼児期の栄養の問題」を読む(20分)	成長に合わせた幼児食の必要性」のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第8回	保育所給食(4) 給食の実践 ・幼児に適した食事と間食を調理実習から学ぶ ※調理実習室で授業を行う	配布資料を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第9回	食育・栄養指導と保育(1) 幼児に合った献立作成 ・食品の選択、調理方法を理解する ・お弁当献立について学ぶ	自分の幼児期のお弁当献立を振り返る(20分)	課題「3～5歳児の栄養給与量をもとめお弁当献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第10回	食育・栄養指導と保育(2) バランスのよいお弁当献立 ・食品の選択、調理法、喫食までに関する注意事項を学ぶ ・お弁当献立を立てられる	教科書P76～89「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	教科書P88演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第11回	食育・栄養指導と保育(3) 食に関する指導 ・栄養と食支援について保護者との連携の必要性を理解する ・幼児期の食生活上の問題についてグループで話し合う	教科書P117～131「食育の基本と内容」を読む(20分)	「幼児期の食生活上の問題」についてレポート作成をする(25分)
担当教員			
第12回	食育・栄養指導と保育(4) お弁当の実際 ・保育者の立場でお弁当の調理ができる ※調理実習室で授業を行う	教科書P133～143「児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第13回	小テスト 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1) 食物アレルギーのある子どもへの対応 ・アレルギーをもつ子どものおやつについてグループで話し合う	これまでの学習内容を復習する。 教科書P161～170「食物アレルギーのある子供への対応」を読む(30分)	エピペンに関するレポートを作成する(15分)
担当教員			
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 経口補液療法の実践 ・正しい手洗いの方法を学ぶ ・経口補液を作成し、理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P144～148「体調不良、疾病の子どもへの対応」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第15回	・乳児の調乳と離乳 ・幼児の食習慣 ・バランスのよいお弁当 ・食物アレルギー 授業のまとめ	1回～14回の授業を復習する(30分)	授業のまとめを見直す(15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト10%、課題レポート80%、授業の参加態度10%	

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養Ⅱ(1組)				ナンバリング	3331
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。
関連科目は「こどもの食と栄養Ⅰ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

保育者として、食育の実践に必要な基本を学ぶ。食育の基本とその内容、食育を推進するため地域の関連機関や施設職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援などを学ぶ。家庭と児童福祉施設が栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを理解する。更に、特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養についても対応ができる力をつける。

到達目標

- ・食と栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを説明できる
- ・食育の演習・実習をグループで取り組むことができる
- ・食育推進の重要性を述べることができる
- ・食べることを楽しみながら、実践活動ができる

授業の方法

講義形式授業のほか、4回目・7回目・11回目・13回目にグループワークを、3回目・8回目・12回目・14回目には実習をおこなう。

ICT活用

Google classroomを活用した双方向授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
小テストは返却時に解説を行う。 課題に対しては、適宜指導・助言を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・家庭における食事と栄養について理解する ・児童福祉施設における食事と栄養について理解する	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポートを作成する(25分)
担当教員			
第2回	食育・栄養と保育(1) 乳児期の成長・発育と食生活 ・新生児、乳児の心身の成長と発達を理解する ・乳汁栄養の方法、調乳について学ぶ	教科書P62～75「乳児期の食生活」を読む(20分)	ワークシート課題を仕上げる(25分)
担当教員			
第3回	食育・栄養と保育(2) 調乳法の実践 ・調乳、洗浄、消毒を体験し理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P65～68「人工栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第4回	食育・栄養と保育(3) 離乳食の実践 ・離乳食の意義についてグループで話し合う ・ベビーフードの試食を通して、離乳食の形状や味について説明できる ※調理実習室で授業を行う	教科書P68～75「離乳の意義とその実践」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第5回	保育所給食(1) 保育所給食の役割と意義 ・保育所給食の献立について学ぶ	教科書P77～83「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	課題「1～2歳児の栄養給与量をもとめ保育給食献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第6回	保育所給食(2) 保育施設に合う食事形態とは ・保育所給食の献立を立てられる	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第7回	保育所給食(3) 成長に合わせた幼児食の必要性 ・偏食の対策についてグループで話し合う	教科書P83～87「幼児期の栄養の問題」を読む(20分)	成長に合わせた幼児食の必要性」のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第8回	保育所給食(4) 給食の実践 ・幼児に適した食事と間食を調理実習から学ぶ ※調理実習室で授業を行う	配布資料を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第9回	食育・栄養指導と保育(1) 幼児に合った献立作成 ・食品の選択、調理方法を理解する ・お弁当献立について学ぶ	自分の幼児期のお弁当献立を振り返る(20分)	課題「3～5歳児の栄養給与量をもとめお弁当献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第10回	食育・栄養指導と保育(2) バランスのよいお弁当献立 ・食品の選択、調理法、喫食までに関する注意事項を学ぶ ・お弁当献立を立てられる	教科書P76～89「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	教科書P88演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第11回	食育・栄養指導と保育(3) 食に関する指導 ・栄養と食支援について保護者との連携の必要性を理解する ・幼児期の食生活上の問題についてグループで話し合う	教科書P117～131「食育の基本と内容」を読む(20分)	「幼児期の食生活上の問題」についてレポート作成をする(25分)
担当教員			
第12回	食育・栄養指導と保育(4) お弁当の実際 ・保育者の立場でお弁当の調理ができる ※調理実習室で授業を行う	教科書P133～143「児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第13回	小テスト 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1) 食物アレルギーのある子どもへの対応 ・アレルギーをもつ子どものおやつについてグループで話し合う	これまでの学習内容を復習する。 教科書P161～170「食物アレルギーのある子供への対応」を読む(30分)	エピペンに関するレポートを作成する(15分)
担当教員			
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 経口補液療法の実践 ・正しい手洗いの方法を学ぶ ・経口補液を作成し、理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P144～148「体調不良、疾病の子どもへの対応」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第15回	・乳児の調乳と離乳 ・幼児の食習慣 ・バランスのよいお弁当 ・食物アレルギー 授業のまとめ	1回～14回の授業を復習する(30分)	授業のまとめを見直す(15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト10%、課題レポート80%、授業の参加態度10%	

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養Ⅱ(3組)				ナンバリング	3331
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。 関連科目は「こどもの食と栄養Ⅰ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
保育者として、食育の実践に必要な基本を学ぶ。食育の基本とその内容、食育を推進するため地域の関連機関や施設職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援などを学ぶ。家庭と児童福祉施設が栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを理解する。更に、特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養についても対応ができる力をつける。							
到達目標							
・食と栄養の連携を深めることで、こどもの健やかな心身の成長が育まれることを説明できる ・食育の演習・実習をグループで取り組むことができる ・食育推進の重要性を述べることができる ・食べることを楽しみながら、実践活動ができる							
授業の方法							
講義形式授業のほか、4回目・7回目・11回目・13回目にグループワークを、3回目・8回目・12回目・14回目には実習をおこなう。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
小テストは返却時に解説を行う。 課題に対しては、適宜指導・助言を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・家庭における食事と栄養について理解する ・児童福祉施設における食事と栄養について理解する	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポートを作成する(25分)
担当教員			
第2回	食育・栄養と保育(1) 乳児期の成長・発育と食生活 ・新生児、乳児の心身の成長と発達を理解する ・乳汁栄養の方法、調乳について学ぶ	教科書P62～75「乳児期の食生活」を読む(20分)	ワークシート課題を仕上げる(25分)
担当教員			
第3回	育・栄養と保育(2) 調乳法の実践 ・調乳、洗浄、消毒を体験し理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P65～68「人工栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第4回	食育・栄養と保育(3) 離乳食の実践 ・離乳食の意義についてグループで話し合う ・ベビーフードの試食を通して、離乳食の形状や味について説明できる ※調理実習室で授業を行う	教科書P68～75「離乳の意義とその実践」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第5回	保育所給食(1) 保育所給食の役割と意義 ・保育所給食の献立について学ぶ	教科書P77～83「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	課題「1～2歳児の栄養給与量をもとめ保育給食献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第6回	保育所給食(2) 保育施設に合う食事形態とは ・保育所給食の献立を立てられる	教科書P132～143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	教科書P142演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第7回	保育所給食(3) 成長に合わせた幼児食の必要性 ・偏食の対策についてグループで話し合う	教科書P83～87「幼児期の栄養の問題」を読む(20分)	成長に合わせた幼児食の必要性」のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第8回	保育所給食(4) 給食の実践 ・幼児に適した食事と間食を調理実習から学ぶ ※調理実習室で授業を行う	配布資料を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第9回	食育・栄養指導と保育(1) 幼児に合った献立作成 ・食品の選択、調理方法を理解する ・お弁当献立について学ぶ	自分の幼児期のお弁当献立を振り返る(20分)	課題「3～5歳児の栄養給与量をもとめお弁当献立の作成」をおこなう(25分)
担当教員			
第10回	食育・栄養指導と保育(2) バランスのよいお弁当献立 ・食品の選択、調理法、喫食までに関する注意事項を学ぶ ・お弁当献立を立てられる	教科書P76～89「幼児期の心身の発達と食生活」を読む(20分)	教科書P88演習課題のレポート作成をする(25分)
担当教員			

第11回	食育・栄養指導と保育(3) 食に関する指導 ・栄養と食支援について保護者との連携の必要性を理解する ・幼児期の食生活上の問題についてグループで話し合う	教科書P117～131「食育の基本と内容」を読む(20分)	「幼児期の食生活上の問題」についてレポート作成をする(25分)
担当教員			
第12回	食育・栄養指導と保育(4) お弁当の実際 ・保育者の立場でお弁当の調理ができる ※調理実習室で授業を行う	教科書P133～143「児童福祉施設における食事と栄養」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第13回	小テスト 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1) 食物アレルギーのある子どもへの対応 ・アレルギーをもつ子どものおやつについてグループで話し合う	これまでの学習内容を復習する。 教科書P161～170「食物アレルギーのある子供への対応」を読む(30分)	エピペンに関するレポートを作成する(15分)
担当教員			
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 経口補液療法の実践 ・正しい手洗いの方法を学ぶ ・経口補液を作成し、理解する ※調理実習室で授業を行う	教科書P144～148「体調不良、疾病の子どもへの対応」を読む(20分)	調理実習のレポート作成をする(25分)
担当教員			
第15回	・乳児の調乳と離乳 ・幼児の食習慣 ・バランスのよいお弁当 ・食物アレルギー 授業のまとめ	1回～14回の授業を復習する(30分)	授業のまとめを見直す(15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト10%、課題レポート80%、授業の参加態度10%	

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容Ⅲ環境2(2組)				ナンバリング	3363
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	岡 健吾						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と強く関連する。							

該当なし。			
課題に対するフィードバックの方法			
①レスポンスカードを回収後、内容の解説を行う。 ②単元毎に学生各自の演習内容を総括する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび保育内容「環境」の全体構造解説。	保育内容「環境」に係る具体的な要素について調べておく。(30分)	配布資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第2回	領域「環境」のねらいと内容。～要点の理解とグループワーク	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第3回	保育内容「環境」における人的環境(1)コミュニケーション演習～意識共有カードゲーム実践	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第4回	保育内容「環境」における人的環境(2)「人的環境」としての自己理解と他者理解～ワークシート作成	自らの生活環境における個別的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第5回	保育内容「環境」における人的環境(3)「人的環境」と文化・社会・組織～グループとしての意思決定ワーク	自らの生活環境における社会的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第6回	保育内容「環境」における自然環境(1)ネイチャーゲームの実践と自然環境の理解～グループワーク	ネイチャーゲームの概要についてあらかじめ調べておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第7回	保育内容「環境」における自然環境(2)ネイチャーゲームの構想～指導案作成	ネイチャーゲームの具体的な内容についてあらかじめ調べておく。(30分)	構想したネイチャーゲームの展開内容について、グループ内で共有する。(30分)
担当教員			
第8回	保育内容「環境」における自然環境(3)ネイチャーゲームの実践と指導法～グループワーク	構想したネイチャーゲームの展開方法について、グループ内で役割を明確化しておく。(30分)	実践した内容について、成果と課題を明確にする。(30分)
担当教員			
第9回	保育内容「環境」における物的環境(1)生活環境における「空間」理解と五領域との関連～折り紙製作と遊びの展開方法	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第10回	保育内容「環境」における物的環境(2)生活環境における「文字・数・図形(アイコン)」とのかかわり～学内フィールドワーク	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第11回	保育内容「環境」における物的環境(3)SDGsと保育内容「環境」～生活環境にかかわる情報や施設への興味・関心を促すワーク	SDGsに関わる概要をあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第12回	保育内容「環境」における物的環境(4)子どもが感じる科学「熱」～プラバン製作	プラバン製作のためのデザインと意図を明確にしておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第13回	保育内容「環境」における物的環境(5)子どもが感じる科学「アルカリと酸のふしぎな反応」～ラムネ(炭酸)製作	「アルカリ」と「酸」の特性についてあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第14回	保育内容「環境」における物的環境(6)子どもが感じる科学「氷と塩のふしぎな反応」～雪中サッカーでアイスクリーム製作	「融解熱」「溶解熱」「凝固点」についてあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第15回	まとめと総括的フィードバック～まとめレポート作成	これまでの演習内容をふり返っておく。(15分)	これまでの配布資料およびワークシートを総括した上で、まとめレポートをふり返る。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元毎のレスポンスカード(20%)、主体的な参加態度(50%)、およびまとめレポート(30%)を総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
教科書は使用しません。適時資料を配付します。		
参考文献		
幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容Ⅲ環境2(1組)				ナンバリング	3363
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	岡 健吾						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と強く関連する。							
授業の概要							
子どもは、人や社会、自然など、さまざまな「環境」に取り巻かれて育つ。本講義では、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」に関する基本的・応用的な理論を学んだうえで、子どもの生活をとりまく周囲の「環境」に対する好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに主体的に関わり、その成長を促すための保育実践力を養う。併せて、幼稚園・保育所・認定こども園における環境整備の重要性について理解する。							
到達目標							
①領域「環境」のねらいと内容を理解・説明できる。 ②子どもの目線に立った保育環境について議論することができる。 ③身近な自然や環境と日常的に触れ合うことのできる指導計画を立案できる。 ④保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解し、実施できる。							
授業の方法							
①パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて方法を説明したのち、演習・実技を行う。 ②レスポンスカードを時間内に作成・集約する。 ③グループワーク・ワークショップ形式を用いる。 ④WebアプリのGoogleFoamを使用して意見を集約・討議する。							
ICT活用							
①Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。 ②授業資料および関連映像URLを提示し、予習復習の促進を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。			
課題に対するフィードバックの方法			
①レスポンスカードを回収後、内容の解説を行う。 ②単元毎に学生各自の演習内容を総括する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび保育内容「環境」の全体構造解説。	保育内容「環境」に係る具体的な要素について調べておく。(30分)	配布資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第2回	領域「環境」のねらいと内容。～要点の理解とグループワーク	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第3回	保育内容「環境」における人的環境(1)コミュニケーション演習～意識共有カードゲーム実践	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第4回	保育内容「環境」における人的環境(2)「人的環境」としての自己理解と他者理解～ワークシート作成	自らの生活環境における個別的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第5回	保育内容「環境」における人的環境(3)「人的環境」と文化・社会・組織～グループとしての意思決定ワーク	自らの生活環境における社会的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第6回	保育内容「環境」における自然環境(1)ネイチャーゲームの実践と自然環境の理解～グループワーク	ネイチャーゲームの概要についてあらかじめ調べておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第7回	保育内容「環境」における自然環境(2)ネイチャーゲームの構想～指導案作成	ネイチャーゲームの具体的な内容についてあらかじめ調べておく。(30分)	構想したネイチャーゲームの展開内容について、グループ内で共有する。(30分)
担当教員			
第8回	保育内容「環境」における自然環境(3)ネイチャーゲームの実践と指導法～グループワーク	構想したネイチャーゲームの展開方法について、グループ内で役割を明確化しておく。(30分)	実践した内容について、成果と課題を明確にする。(30分)
担当教員			
第9回	保育内容「環境」における物的環境(1)生活環境における「空間」理解と五領域との関連～折り紙製作と遊びの展開方法	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第10回	保育内容「環境」における物的環境(2)生活環境における「文字・数・図形(アイコン)」とのかかわり～学内フィールドワーク	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第11回	保育内容「環境」における物的環境(3)SDGsと保育内容「環境」～生活環境にかかわる情報や施設への興味・関心を促すワーク	SDGsに関わる概要をあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第12回	保育内容「環境」における物的環境(4)子どもが感じる科学「熱」～プラバン製作	プラバン製作のためのデザインと意図を明確にしておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第13回	保育内容「環境」における物的環境(5)子どもが感じる科学「アルカリと酸のふしぎな反応」～ラムネ(炭酸)製作	「アルカリ」と「酸」の特性についてあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第14回	保育内容「環境」における物的環境(6)子どもが感じる科学「氷と塩のふしぎな反応」～雪中サッカーでアイスクリーム製作	「融解熱」「溶解熱」「凝固点」についてあらかじめ調べておく。(30分)	配布資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第15回	まとめと総括的フィードバック～まとめレポート作成	これまでの演習内容をふり返っておく。(15分)	これまでの配布資料およびワークシートを総括した上で、まとめレポートをふり返る。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元毎のレスポンスカード(20%)、主体的な参加態度(50%)、およびまとめレポート(30%)を総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
教科書は使用しません。適時資料を配付します。		
参考文献		
幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		乳児保育Ⅱ（1組）				ナンバリング	3381
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	村松 良太						
授業の位置づけ							
本講は、「保育の内容と方法」の領域に該当した「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシーの乳幼児期のこどもについての基本的な知識、こどもの特徴と発達を見極め対応できる教育的能力、成長・発達を支援するための基本的資質を身につけることと、より適切な保育のあり方を考え、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連する科目である。「乳児保育I」「保育実習I-2」をふまえ、「保育実習II」の基礎となるものである。							
授業の概要							
本授業の目的は、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた乳児保育の基本的な知識と技術を学ぶことである。具体的には、以下の内容を授業の柱とする。 1)乳児保育の現状・課題とその基本的役割を学ぶ。 2)生活とあそびを豊かにする援助と環境構成の実際を学ぶ。 3)乳児保育における様々な配慮の実際について学ぶ。 4)乳児保育における記録と計画の実際について学ぶ。							
到達目標							
1)乳児保育の現状・課題、その基本的役割について説明できる。 2)乳児保育にふさわしい基本的な環境構成を準備できる。 3)多様な子どもの実態にあわせた配慮や援助の基本を説明できる。 4)乳児保育にふさわしい記録を理解し、計画を立案できる。							
授業の方法							
板書、配布資料、視聴覚教材を活用した講義形式とグループワーク形式を併用して進める。							
ICT活用							
・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。 ・教科書を基に、自らインターネットを活用した参考文献収集を通して、より内容を深める自主学習を促す							
実務経験のある教員の教育内容							

認定こども園を運営する学校法人において8年間の園長としての職務から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関り、保護者への支援、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等による質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(本講の概要や方法、および成績評価について) ・保育実習をふり返り、乳児保育の実際について考える。	保育実習I-2の実習ノートを読み返したり、0-2歳児のあそびと生活の姿を思いだし、メモをとる(30分)	保育のエピソード(15分)
担当教員			
第2回	乳児保育の現状と課題 ・子ども子育て支援新制度 ・保育所保育指針の改定と乳児保育 ・長時間保育 ・異年齢保育	テキストp162-172 (20分)	長時間保育(25分)
担当教員			
第3回	生活とあそびを豊かにする援助と環境構成(1) ・乳児保育にふさわしい生活環境とは ・環境を通した保育	テキストp77-80、配布資料 (20分)	乳児保育の環境構成(25 分)
担当教員			
第4回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(2) ・生活リズムと「ねる」「たべる」「あそぶ」の順序	テキストp77-80、配布資料 (20分)	乳児保育の環境構成(25 分)
担当教員			

第5回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(3) ・0歳の室内空間とあそび ・1歳の室内空間とあそび	p13-22、配布資料(20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			
第6回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(4) ・2-3歳の室内空間とあそび	テキストp22-27(20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			
第7回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(5) ・清潔に関する援助と環境 ・沐浴、清拭 ・手を拭く、顔を拭く、手を洗う ・鼻をかむ、うがい、歯みがき	配布資料(25分)	乳児保育の環境構成(20 分)
担当教員			
第8回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(6) ・食事の援助と環境 ・調乳、冷凍母乳 ・授乳 ・離乳食・食事の援助	配布資料(25分)	給食室との連携(20分)
担当教員			
第9回	生活と遊び豊かにする援助と環境構成(7) ・衣服の着脱に関する援助と環境 ・手づくりおもちゃの用意	手づくりおもちゃづくり準備(30分)	授業内容の復習(15分)
担当教員			
第10回	乳児保育における記録と計画(1) ・子どもの姿や活動の記録 ・保育日誌 ・エピソードの記録 ・連絡帳	テキストp88-95(25分)	保育実践記録(20分)
担当教員			

第11回	乳児保育における記録と計画(2) ・全体的な計画と指導計画 ・短期の指導計画と長期の指導計画 ・個別の指導計画と集団の指導計画	テキストp95-107(20分)	保育における「計画」とPDCA(25分)
担当教員			
第12回	乳児保育での様々な配慮(1) ・子どもの24時間を見通した保育 ・働く親の一日を想像する	テキストp126-137、配布資料(25分)	給食室(20分)
担当教員			
第13回	乳児保育での様々な配慮(2) ・集団での生活でも一人ひとりを大切に ・個人差や月齢差への配慮 ・一人ひとりの生活背景を知る	配布資料(25分)	インクルーシブ保育 (20分)
担当教員			
第14回	乳児保育における様々な配慮(3) ・環境の変化や移行における配慮 ・「一人」の必要を「みんな」のあそびを通して解決する	配布資料(25分)	巡回相談(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ	配布資料(25分)	授業のふり返し(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業中の課題や宿題の提出と内容(50%) ・授業中の作業や討議への参加度(50%)	

その他	0	
教科書		
乳児保育研究会編(2018)資料でわかる乳児の保育新時代(改訂5版).ひとなる書房		
参考文献		
松本峰雄監修(2019)乳児保育演習ブック(第2版).ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
「こどもの保健」「乳児保育I」を履修済みであることを原則とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		乳児保育Ⅱ(2組)				ナンバリング	3381
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	村松 良太						
授業の位置づけ							
本講は、「保育の内容と方法」の領域に該当した「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシーの乳幼児期のこどもについての基本的な知識、こどもの特徴と発達を見極め対応できる教育的能力、成長・発達を支援するための基本的資質を身につけることと、より適切な保育のあり方を考え、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連する科目である。「乳児保育Ⅰ」「保育実習Ⅰ-2」をふまえ、「保育実習Ⅱ」の基礎となるものである。							
授業の概要							
本授業の目的は、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた乳児保育の基本的な知識と技術を学ぶことである。具体的には、以下の内容を授業の柱とする。 1)乳児保育の現状・課題とその基本的役割を学ぶ。 2)生活とあそびを豊かにする援助と環境構成の実際を学ぶ。 3)乳児保育における様々な配慮の実際について学ぶ。 4)乳児保育における記録と計画の実際について学ぶ。							
到達目標							
1)乳児保育の現状・課題、その基本的役割について説明できる。 2)乳児保育にふさわしい基本的な環境構成を準備できる。 3)多様な子どもの実態にあわせた配慮や援助の基本を説明できる。 4)乳児保育にふさわしい記録を理解し、計画を立案できる。							
授業の方法							
板書、配布資料、視聴覚教材を活用した講義形式とグループワーク形式を併用して進める。							
ICT活用							
・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。 ・教科書を基に、自らインターネットを活用した参考文献収集を通して、より内容を深める自主学習を促す							
実務経験のある教員の教育内容							

認定こども園を運営する学校法人において8年間の園長としての職務から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関り、保護者への支援、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等による質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(本講の概要や方法, および成績評価について) ・保育実習をふり返り、乳児保育の実際について考える。	保育実習I-2の実習ノートを読み返したり、0-2歳児のあそびと生活の姿を思いだし、メモをとる(30分)	保育のエピソード(15分)
担当教員			
第2回	乳児保育の現状と課題 ・子ども子育て支援新制度 ・保育所保育指針の改定と乳児保育 ・長時間保育 ・異年齢保育	テキストp162-172 (20分)	長時間保育(25分)
担当教員			
第3回	生活とあそびを豊かにする援助と環境構成(1) ・乳児保育にふさわしい生活環境とは ・環境を通した保育	テキストp77-80、配布資料 (20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			
第4回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(2) ・生活リズムと「ねる」「たべる」「あそぶ」の順序	テキストp77-80、配布資料 (20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			

第5回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(3) ・0歳の室内空間とあそび ・1歳の室内空間とあそび	p13-22、配布資料(20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			
第6回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(4) ・2-3歳の室内空間とあそび	テキストp22-27(20分)	乳児保育の環境構成(25分)
担当教員			
第7回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(5) ・清潔に関する援助と環境 ・沐浴、清拭 ・手を拭く、顔を拭く、手を洗う ・鼻をかむ、うがい、歯みがき	配布資料(25分)	乳児保育の環境構成(20 分)
担当教員			
第8回	生活と遊びを豊かにする援助と環境構成(6) ・食事の援助と環境 ・調乳、冷凍母乳 ・授乳 ・離乳食・食事の援助	配布資料(25分)	給食室との連携(20分)
担当教員			
第9回	生活と遊び豊かにする援助と環境構成(7) ・衣服の着脱に関する援助と環境 ・手づくりおもちゃの用意	手づくりおもちゃづくり準備(30分)	授業内容の復習(15分)
担当教員			
第10回	乳児保育における記録と計画(1) ・子どもの姿や活動の記録 ・保育日誌 ・エピソードの記録 ・連絡帳	テキストp88-95(25分)	保育実践記録(20分)
担当教員			

第11回	乳児保育における記録と計画(2) ・全体的な計画と指導計画 ・短期の指導計画と長期の指導計画 ・個別の指導計画と集団の指導計画	テキストp95-107(20分)	保育における「計画」とPDCA(25分)
担当教員			
第12回	乳児保育での様々な配慮(1) ・子どもの24時間を見通した保育 ・働く親の一日を想像する	テキストp126-137、配布資料(25分)	給食室(20分)
担当教員			
第13回	乳児保育での様々な配慮(2) ・集団での生活でも一人ひとりを大切に ・個人差や月齢差への配慮 ・一人ひとりの生活背景を知る	配布資料(25分)	インクルーシブ保育 (20分)
担当教員			
第14回	乳児保育における様々な配慮(3) ・環境の変化や移行における配慮 ・「一人」の必要を「みんな」のあそびを通して解決する	配布資料(25分)	巡回相談(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ	配布資料(25分)	授業のふり返し(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業中の課題や宿題の提出と内容(50%) ・授業中の作業や討議への参加度(50%)	

その他	0	
教科書		
乳児保育研究会編(2018)資料でわかる乳児の保育新時代(改訂5版).ひとなる書房		
参考文献		
松本峰雄監修(2019)乳児保育演習ブック(第2版).ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
「こどもの保健」「乳児保育I」を履修済みであることを原則とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅰ 幼児音楽1(2組)				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育の在り方を考え続けることができるようになるための科目である。学生が将来、保育者・教育者として、子ども達と音楽活動を行うときに必要なピアノ演奏の基礎的な力を身につける科目である。子育て支援者として必要な基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。 「基礎音楽」の発展となり、「保育内容指導法(音楽表現1, 2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
この授業では、学生が将来保育者・教育者として子どもたちと音楽活動を行うときに必要となるピアノ演奏の基礎的な力を身につける。さらに、子どもの音楽遊びにおいてイメージをひろげ、感性を養うための保育の展開に必要な「弾き歌い」の知識や技術を実践的に習得する。授業は初級(鍵盤楽器未経験者)クラスと中・上級クラス(鍵盤楽器経験者)に分け、実技指導を行う。それぞれのレベルに合った教材を用い、初級クラスはグループレッスン、中・上級クラスは個人レッスンを中心として実技指導を行う。弾き歌いの練習も加え、豊かな表現力を養う。							
到達目標							
ピアノ(鍵盤楽器)の学習においては、初心者と経験者は個人差が大きいため、それぞれの到達目標を示す。 初級(初心者) ・バイエル1～80番を教材とし、基本的な読譜能力と演奏技術を習得できる。 ・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。 中・上級(経験者) ・バイエルの中で今まで弾いたことのない曲があれば弾くことができる。 ・ブルクミュラー 25の練習曲、ソナチネ・アルバム等を教材として演奏技術、表現力をつけることができる。 ・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。							
授業の方法							
ピアノ初心者(初級)の学生はML教室を使用してグループレッスンから始め、学習が進んだら必要に応じて個人レッスンを行う。 ピアノ経験者(中、上級)の学生は音楽室と練習室を使用して個人レッスンを行う。							
ICT活用							
google classroomを活用して演奏に関する情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして実技テスト後に担当教員から講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 担当教員との相談 初級(西野、押切、奥村)中上級(今井、三上、運野) ・鍵盤楽器の経験の有無、読譜能力を調べるために実施したアンケートに基づいてクラス分けをする。 ・授業に使用する楽器、練習室に関しての説明と注意。 ・それぞれのクラスの担当教官と今後の課題について相談する。	・ピアノ初心者バイエルが目次を読んでおく。 ・ピアノ経験者は1曲練習しておく。(25分)	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第2回	初級 ・ピアノ譜の読譜に関する基礎知識の説明 ・バイエル1番(音符の長さ、拍子、右手のみの演奏) ・バイエル2番(音符の長さ、拍子、左手のみの演奏) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第3回	初級 ・バイエル3～10番(両手でユニゾンの演奏、右手は旋律で左手は伴奏) ・バイエル11～15番(両手の練習、フレーズ感を持って弾く) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第4回	初級 ・バイエル16～18番(速度標語にあった演奏、レガート奏法) ・バイエル19～21番(レガート奏法) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		

第5回	初級 ・バイエル22～25番(対位法的な伴奏) ・バイエル26～31番(スラー、タイ) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第6回	初級 ・バイエル32～36番(レガート奏法、フレーズ感) ・バイエル37～40番(手のポジション移動) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第7回	初級 ・バイエル41～44番(手のポジション移動、全音符から8分音符までの練習) ・バイエル45～47番(8分音符の練習) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第8回	初級 ・バイエル51～54番(8分の6拍子) ・バイエル55～57番(へ音記号、強弱) ・「こどもの歌曲」より『かえるの合唱』『大きな栗の木の下で』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第9回	初級 ・バイエル58～59番(8分の3拍子) ・バイエル60～61番(対位法的な音楽、付点) ・「こどもの歌曲」より『むすんでひらいて』『きらきらぼし』 中上級 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第10回	初級 ・バイエル62～64番(スタッカート、4手連弾) ・バイエル65～66番(ハ長調の音階、指くぐり) ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』 中上級 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 後期実技試験の課題曲を発表。学生は課題曲の中からの選曲をする。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		

第11回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル67～69番(重音の練習) ・バイエル70～72番(ト長調) ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『森のくまさん』『たなばたさま』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第12回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル73～74番(臨時記号、三連符) ・バイエル75～76番(ニ長調) ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『ジングルベル』より『きよしこのよる』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第13回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル77～78番(さまざまな奏法) ・バイエル79番(イ長調) ・「こどもの歌曲」より 前回までの復習 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より 前回までの復習	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第14回	まとめ ・実技試験による確認 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。 試験日が次回にあたる学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第15回	まとめ ・実技試験による確認 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。 試験が終了した学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	・授業態度・予習復習等の自主的学習態度 ・毎授業での課題演奏の達成度	

その他	70	第14、15回の授業で実技試験を行う
教科書		
バイエル ピアノ教則本 New Edition 音楽之友社 ブルクミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社 ソナチネ・アルバム1 全音楽譜出版社 実用 こどもの歌曲200選 松山祐士編 ドレミ出版社		
参考文献		
ソナチネ・アルバム2 全音楽譜出版社		
履修条件・留意事項等		
各自、事前学習、事後学習に十分に取り組んで授業に臨むこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅰ 幼児音楽1(1組)				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育の在り方を考え続けることができるようになるための科目である。学生が将来、保育者・教育者として、子ども達と音楽活動を行うときに必要なピアノ演奏の基礎的な力を身につける科目である。子育て支援者として必要な基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。 「基礎音楽」の発展となり、「保育内容指導法(音楽表現1, 2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
この授業では、学生が将来保育者・教育者として子どもたちと音楽活動を行うときに必要となるピアノ演奏の基礎的な力を身につける。さらに、子どもの音楽遊びにおいてイメージをひろげ、感性を養うための保育の展開に必要な「弾き歌い」の知識や技術を実践的に習得する。授業は初級(鍵盤楽器未経験者)クラスと中・上級クラス(鍵盤楽器経験者)に分け、実技指導を行う。それぞれのレベルに合った教材を用い、初級クラスはグループレッスン、中・上級クラスは個人レッスンを中心として実技指導を行う。弾き歌いの練習も加え、豊かな表現力を養う。							
到達目標							
ピアノ(鍵盤楽器)の学習においては、初心者と経験者は個人差が大きいため、それぞれの到達目標を示す。 初級(初心者) ・バイエル1～80番を教材とし、基本的な読譜能力と演奏技術を習得できる。 ・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。 中・上級(経験者) ・バイエルの中で今まで弾いたことのない曲があれば弾くことができる。 ・ブルクミュラー 25の練習曲、ソナチネ・アルバム等を教材として演奏技術、表現力をつけることができる。 ・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。							
授業の方法							
ピアノ初心者(初級)の学生はML教室を使用してグループレッスンから始め、学習が進んだら必要に応じて個人レッスンをを行う。 ピアノ経験者(中、上級)の学生は音楽室と練習室を使用して個人レッスンをを行う。							
ICT活用							
google classroomを活用して演奏に関する情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして実技テスト後に担当教員から講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 担当教員との相談 初級(西野、押切、奥村)中上級(今井、三上、運野) ・鍵盤楽器の経験の有無、読譜能力を調べるために実施したアンケートに基づいてクラス分けをする。 ・授業に使用する楽器、練習室に関しての説明と注意。 ・それぞれのクラスの担当教官と今後の課題について相談する。	・ピアノ初心者バイエルが目次を読んでおく。 ・ピアノ経験者は1曲練習しておく。(25分)	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第2回	初級 ・ピアノ譜の読譜に関する基礎知識の説明 ・バイエル1番(音符の長さ、拍子、右手のみの演奏) ・バイエル2番(音符の長さ、拍子、左手のみの演奏) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第3回	初級 ・バイエル3～10番(両手でユニゾンの演奏、右手は旋律で左手は伴奏) ・バイエル11～15番(両手の練習、フレーズ感を持って弾く) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第4回	初級 ・バイエル16～18番(速度標語にあった演奏、レガート奏法) ・バイエル19～21番(レガート奏法) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		

第5回	初級 ・バイエル22～25番(対位法的な伴奏) ・バイエル26～31番(スラー、タイ) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第6回	初級 ・バイエル32～36番(レガート奏法、フレーズ感) ・バイエル37～40番(手のポジション移動) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第7回	初級 ・バイエル41～44番(手のポジション移動、全音符から8分音符までの練習) ・バイエル45～47番(8分音符の練習) 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第8回	初級 ・バイエル51～54番(8分の6拍子) ・バイエル55～57番(へ音記号、強弱) ・「こどもの歌曲」より『かえるの合唱』『大きな栗の木の下で』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第9回	初級 ・バイエル58～59番(8分の3拍子) ・バイエル60～61番(対位法的な音楽、付点) ・「こどもの歌曲」より『むすんでひらいて』『きらきらぼし』 中上級 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第10回	初級 ・バイエル62～64番(スタッカート、4手連弾) ・バイエル65～66番(ハ長調の音階、指くぐり) ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』 中上級 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 後期実技試験の課題曲を発表。学生は課題曲の中からの選曲をする。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		

第11回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル67～69番(重音の練習) ・バイエル70～72番(ト長調) ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『森のくまさん』『たなばたさま』	指導内容を確認して練習しておく。(20分)	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第12回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル73～74番(臨時記号、三連符) ・バイエル75～76番(ニ長調) ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『ジングルベル』より『きよしこのよる』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第13回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル77～78番(さまざまな奏法) ・バイエル79番(イ長調) ・「こどもの歌曲」より 前回までの復習 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・ソナチネ・アルバムより指定された曲 ・「こどもの歌曲」より 前回までの復習	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第14回	まとめ ・実技試験による確認 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。 試験日が次回にあたる学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
第15回	まとめ ・実技試験による確認 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。 試験が終了した学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員	西野 美穂、今井 由恵、押切 雄太、三上 絵里香、運野 朱美、奥村 果歩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	・授業態度・予習復習等の自主的学習態度 ・毎授業での課題演奏の達成度	

その他	70	第14、15回の授業で実技試験を行う
教科書		
バイエル ピアノ教則本 New Edition 音楽之友社 ブルクミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社 ソナチネ・アルバム1 全音楽譜出版社 実用 こどもの歌曲200選 松山祐士編 ドレミ出版社		
参考文献		
ソナチネ・アルバム2 全音楽譜出版社		
履修条件・留意事項等		
各自、事前学習、事後学習に十分に取り組んで授業に臨むこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅱ造形2(2組)				ナンバリング	3405
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育に必要な表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける。ディプロマポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」、「表現Ⅱ造形1」を基礎とし、「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
造形表現活動は色、形、素材と関わり働きかけながら自分の思い表現する活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にしながら創造性を育むことが大切であり、こどもの自由な表現活動を保障し援助できる保育者が求められる。ここでは、子どもの創造性を育む造形活動についての理解を深め、保育者の創造性にかかわる表現力を身につける。							
到達目標							
1造形表現と子どもの関係を理解し、子どもの状況に応じた造形表現を提案できる。 2それぞれの地域や環境の特質を考慮した造形表現のあり方を提案し、それを実行できる。 3.素材への理解を深め、様々な方法で立体に表すことができる。							
授業の方法							
配布物やDVDなどをおしてテーマへの理解を深め制作への動機付けをおこなう。 各テーマごとに作品を制作し発表する。制作したものはポートフォリオにまとめる。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、活動報告をお行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 後期授業の説明と前期活動の振り返り。こどもの造形活動と遊び、自由な発想の保障と創造性について再考しワークシートにまとめる。	教科書p56～p59まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	身近な素材を使った造形遊びの展開1 素材への理解を深めながら造形活動を展開する。活動の振り返りとして、工夫した点(形や色や素材の工夫、動きの工夫)をポートフォリオにまとめる。遊びの中の創造性について理解を深める。	ペープサートについて調べる。 教科書p145～p147を読んで置く(25分)	ペープサート実演にむけて準備する。(20分)
担当教員			
第3回	身近な素材を使った造形遊びの展開2 保育・教育の視点から活動ねらいや注意事項をポートフォリオにまとめる。遊びに展開する方法や作り方を習得する。	発表の準備をする。(25分)	活動内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	楽しい造形遊び 一空気で膨らむ造形① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では傘袋を使い膨らむ構造からイメージを膨らませ制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p59～p67まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			

第5回	楽しい造形遊び ―空気で膨らむ造形② 前回まとめたワークシートをもとに傘袋を使ったオリジナルの作品を制作をする。空気で膨らむ構造を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	材料を用意する。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	楽しい造形遊び ―空気で膨らむ造形③ 完成したオリジナルの作品を実際に膨らませてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作の作品のコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、ビニール袋を使った造形活動の指導案を作成する。	完成させた作品のコンセプトをまとめておく。(25分)	指導案、ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第7回	楽しい造形遊び ―新しいメガネで世界をのぞこう① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義ではユーモアを大切に普段の見方が変わるようなオリジナルの眼鏡を制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p156～p159まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	楽しい造形遊び ―新しいメガネで世界をのぞこう② 前回まとめたワークシートをもとにオリジナルのメガネを制作をする。メガネの構造を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。完成作品装着して撮影し、自作コンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などをまとめる指。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では「変身」をテーマに自分の欲求や自身の生活をみつめオリジナルの妖怪を制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p163～p168まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう② 前回まとめたワークシートをもとに新聞紙と風船を使ったオリジナル被り物の制作をする。被るための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	材料を準備する。(25分)	制作中に気づいたことをワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう③ 完成したオリジナルの被り物を実際に装着する。作品に合ったポーズを考え撮影し、自作の物語りと一緒にポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法など、指導案を作成する。	作品を完成させる。(25分)	指導案、ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形① 本講義では手袋や靴下、フェルトなどを元に各自テーマを決め手袋シアターやソフトスカルプチャーなど制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	手袋シアターについて調べておく。教科書p147～p148まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第13回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形② 前回まとめたワークシートをもとに手袋や靴下、フェルトなどを使ったオリジナルの作品を制作をする。布の特性を考慮しながら、形、色、素材を工夫する。	材料を用意する。(25分)	制作中に気づいたことをワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形③ 前回に引き続きオリジナルの作品制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。縫い合わせ方や手を入れた時の動きを確認する。	必要な素材の用意をする。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形④ 完成したオリジナルの作品を使って遊んでみる。活動の様子を撮影し、作品のコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、布を使った造形活動の指導案を作成する。	完成させた作品の遊び方、発表の仕方を考えておく。(25分)	一年間を通して学んだことをレポートにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品(期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容) レポート	

その他	50	ポートフォリオ(制作のまとめ、内容の報告) 指導案(ねらい、環境への配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
授業時に資料配布、参考作品を提示、文部科学省「幼稚園 教育要領」		
履修条件・留意事項等		
記録・保管のための指定されたクリアポケットファイルを用意する。保育内容指導法(造形表現1・2)表現Ⅱ造形1で使用したファイルを継続して使用する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅱ造形2(1組)				ナンバリング	3405
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育に必要な表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける。ディプロマポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」、「表現Ⅱ造形1」を基礎とし、「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
造形表現活動は色、形、素材と関わり働きかけながら自分の思い表現する活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にしながら創造性を育むことが大切であり、こどもの自由な表現活動を保障し援助できる保育者が求められる。ここでは、子どもの創造性を育む造形活動についての理解を深め、保育者の創造性にかかわる表現力を身につける。							
到達目標							
1.造形表現と子どもの関係を理解し、子どもの状況に応じた造形表現を提案できる。 2.それぞれの地域や環境の特質を考慮した造形表現のあり方を提案し、それを実行できる。 3.素材への理解を深め、様々な方法で立体に表すことができる。							
授業の方法							
配布物やDVDなどをおしてテーマへの理解を深め制作への動機付けをおこなう。 各テーマごとに作品を制作し発表する。制作したものはポートフォリオにまとめる。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、活動報告をお行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 後期授業の説明と前期活動の振り返り。こどもの造形活動と遊び、自由な発想の保障と創造性について再考しワークシートにまとめる。	教科書p56～p59まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	身近な素材を使った造形遊びの展開1 素材への理解を深めながら造形活動を展開する。活動の振り返りとして、工夫した点(形や色や素材の工夫、動きの工夫)をポートフォリオにまとめる。遊びの中の創造性について理解を深める。	ペープサートについて調べる。 教科書p145～p147を読んで置く(25分)	ペープサート実演にむけて準備する。(20分)
担当教員			
第3回	身近な素材を使った造形遊びの展開2 保育・教育の視点から活動ねらいや注意事項をポートフォリオにまとめる。遊びに展開する方法や作り方を習得する。	発表の準備をする。(25分)	活動内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	楽しい造形遊び 一空气で膨らむ造形① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では傘袋を使い膨らむ構造からイメージを膨らませ制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p59～p67まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			

第5回	楽しい造形遊び ―空気で膨らむ造形② 前回まとめたワークシートをもとに傘袋を使ったオリジナルの作品を制作をする。空気で膨らむ構造を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	材料を用意する。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	楽しい造形遊び ―空気で膨らむ造形③ 完成したオリジナルの作品を実際に膨らませてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作の作品のコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、ビニール袋を使った造形活動の指導案を作成する。	完成させた作品のコンセプトをまとめておく。(25分)	指導案、ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第7回	楽しい造形遊び ―新しいメガネで世界をのぞこう① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義ではユーモアを大切に普段の見方が変わるようなオリジナルの眼鏡を制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p156～p159まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	楽しい造形遊び ―新しいメガネで世界をのぞこう② 前回まとめたワークシートをもとにオリジナルのメガネを制作をする。メガネの構造を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。完成作品装着して撮影し、自作コンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などをまとめる指。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では「変身」をテーマに自分の欲求や自身の生活をみつめオリジナルの妖怪を制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p163～p168まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう② 前回まとめたワークシートをもとに新聞紙と風船を使ったオリジナル被り物の制作をする。被るための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	材料を準備する。(25分)	制作中に気づいたことをワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	楽しい造形遊び ―被り物を作ろう③ 完成したオリジナルの被り物を実際に装着する。作品に合ったポーズを考え撮影し、自作の物語りと一緒にポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法など、指導案を作成する。	作品を完成させる。(25分)	指導案、ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形① 本講義では手袋や靴下、フェルトなどを元に各自テーマを決め手袋シアターやソフトスカルプチャーなど制作をする。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	手袋シアターについて調べておく。教科書p147～p148まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第13回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形② 前回まとめたワークシートをもとに手袋や靴下、フェルトなどを使ったオリジナルの作品を制作をする。布の特性を考慮しながら、形、色、素材を工夫する。	材料を用意する。(25分)	制作中に気づいたことをワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形③ 前回に引き続きオリジナルの作品制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。縫い合わせ方や手を入れた時の動きを確認する。	必要な素材の用意をする。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ―やわらかい造形④ 完成したオリジナルの作品を使って遊んでみる。活動の様子を撮影し、作品のコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、布を使った造形活動の指導案を作成する。	完成させた作品の遊び方、発表の仕方を考えておく。(25分)	一年間を通して学んだことをレポートにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品(期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容) レポート	

その他	50	ポートフォリオ(制作のまとめ、内容の報告) 指導案(ねらい、環境への配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
授業時に資料配布、参考作品を提示、文部科学省「幼稚園 教育要領」		
履修条件・留意事項等		
記録・保管のための指定されたクリアポケットファイルを用意する。保育内容指導法(造形表現1・2)表現Ⅱ造形1で使用したファイルを継続して使用する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅲ身体表現2(1組)				ナンバリング	3409
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	未定						
授業の位置づけ							
教育者・保育者・子育て支援者に求められる、コミュニケーション能力・身体表現力を獲得するための科目です。ディプロマ・ポリシーの「一人一人のこどもの特徴や発達を見きわめ、それに対応する能力を身につける」「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続ける」とことに関連がある科目です。 これまでに学んだ他の表現領域「表現Ⅳ日本語表現」「表現Ⅱ造形」等との関連も意識しながら、前期「表現Ⅲ身体表現1」の応用編として位置づけられます。							
授業の概要							
教育者・保育者に必要なコミュニケーション能力、身体表現力を実践的に発揮できるように、自ら考え、他者と対話しながら、ワークショップ形式で学びます。グループワークにより、答えのない課題を探究する姿勢を身につけ、コミュニケーション・ゲームなど身体を使った表現の手法についても修得します。							
到達目標							
1 コミュニケーションの手段となる「身体」「表情」「声」を豊かに使うことができ、総合的な身体表現の可能性を広げることができる。 2 空間や距離を意識しながら「発信」したり「受信」したりすることができる。 3 コミュニケーションゲームを体験しながら、その目的を踏まえ、幼児・児童向けにプログラムを構成し、応用することができる。 4 グループワークにより、答えのない課題に対して批評的に物事を考察し、他者と協働しながら探求することができる。 5 客観的な視点から、自己や他者の表現について、実践的差異に言及することができる。							
授業の方法							
全回、実践型のワークショップ形式による授業です。口頭で実践内容を説明します。グループワークによるコミュニケーションゲームやアクティビティの体験をした後に、それを応用したプログラム構成を行ったり、タイプの異なる児童劇の創作・発表を行います。また、発表する側の表現がどのように伝わったのか、つどディスカッションを行い、どのようにすれば表現の可能性を高めることができるのか議論します。議論した結果を踏まえて、対話しながらステップアップさせて行きます。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

コミュニケーションワークショップ講師の実務経験を活かして、シアターゲームやグルーブワークの指導を行います。俳優養成所講師の実務経験を活かして、身体表現の指導を行います。劇作家の視点から、児童劇について共に考察し、アドバイスをいたします。

課題に対するフィードバックの方法

表現の専門家として一緒に授業に参加しながら、アクティビティごとに気づいたことを伝えます。質問や意見があったら、いつでも言ってください。その場で、みんなで考えます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 【コミュニケーションゲーム1】 ・授業計画と授業の進め方、ループリックによる評価の説明 ・授業を進めるための「対話を生み出す場」について考察する ・言語を用いないコミュニケーションを、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する	シラバスを事前に読んでおく(20分)	体験したシアターゲームを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第2回	【インプロヴィゼーション(即興)1】 ・インプロの協働原則を共有した上で、アクティビティを体験・考察する	1回目で考えた「対話を生み出す場」について、それぞれ準備する(20分)	体験したインプロを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第3回	【色々なものを読んでみる】 ・小説・童話・広告・詩など、色々なものを読んでみる ・どのように聞こえるか、声について考察を行う	読みたい言葉を探して持つてくる(20分)	他者の読み方を思い出し、色々な声を出してみる(25分)
担当教員			
第4回	【タブロー(静止画)を体験する】 ・身体を使ったタブローについての考え方を体験する ・日常生活や、写真を使ったタブローを表現してみる	自分の身体で動かせる部分を確認して、良く動かす部分とあまり動かさない部分を確認しておく(20分)	日常生活の中で、あまり動かししていない身体の部分を意識的に使ってみる(25分)
担当教員			

第5回	【立体紙芝居創作1】 ・グループに分かれて、童話や昔話などを4枚の紙芝居として、身体を使って表現する ・どのように見えたか、互いに検証する ・紙芝居の枚数を増やしてみる	好きな童話や昔話を考えてくる(20分)	想定する観客を変えると作品として変化する部分があるか、それはなぜかを考える(25分)
担当教員			
第6回	【立体紙芝居創作2】 ・前回作った立体紙芝居に、読み聞かせのパートを加え完成させる ・観客を想定し、楽しんでもらうための身体表現を加えてみる(歌・リズム・ダンスなど)	創作を深めるための身体表現を考えてくる(20分)	発表会のためのすり合わせ、次回準備してくるものをまとめる(25分)
担当教員			
第7回	【立体紙芝居創作3】 ・発表会を行う ・どのように伝わったのか、考察する	発表会の準備(20分)	発表会を対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第8回	【コミュニケーションゲーム2】 ・より複雑なコミュニケーションゲームを体験・考察する	コミュニケーションゲーム1の内容を思い出し、振り返っておく(20分)	体験したシアターゲームを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第9回	【インプロヴィゼーション(即興)2】 ・より高度なインプロのアクティビティを体験・考察する	インプロヴィゼーション1の内容を思い出し、振り返っておく(20分)	体験したインプロを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第10回	【童話劇の創作1】 ・グループに分かれて、童話や昔話などをもとに短編劇を創作する ・童話をいくつかのピースに分けて、グループで短編の創作台本を書いてみる ・読み合わせを行ない、意見交換する	好きな童話や昔話を考えてくる(20分)	書き言葉と話し言葉について、どんなことを感じたか振り替えておく(25分)
担当教員			

第11回	【童話劇の創作2】 ・前回の台本をリライトしてみる ・台本をもとに、短編劇として創作する	リライトのための準備をしてくる(20分)	次回の創作に向けて、決まっていなかったことをまとめて整理しておく(25分)
担当教員			
第12回	【童話劇の創作3】 ・グループ創作を行う ・中間発表を行う ・現時点でどのように見えているか、ブラッシュアップのための意見交換を行う	セリフを覚えてくる(20分)	やっていることと、見えていることの差異について考えてみる(25分)
担当教員			
第13回	【童話劇の創作4】 ・グループ創作を行う ・観客を想定し、楽しんでもらうための身体表現を加えてみる(歌・リズム・ダンスなど)	創作を深めるための身体表現を考えてくる(20分)	発表会のためのすり合わせ、次回準備してくるものをまとめる(25分)
担当教員			
第14回	【童話劇の創作5】 ・発表会を行う ・どのように伝わったのか、考察する	発表会の準備(20分)	発表会を対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第15回	【まとめ・ふりかえり】 ・コミュニケーション能力や身体表現について、要点をまとめる ・授業を通してどんなことを考えたか意見交換を行う	これまでを振り返り、どんなことを考えたか要点をまとめておく(20分)	幼児・児童指導にどのように応用できるか考えてみる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	各アクティビティ、創作グループワークへの参加意欲・態度 意欲・態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。演技の技術は問わない	

その他	20	小レポート、課題レポートの提出
教科書		
使用しない		
参考文献		
特になし		
履修条件・留意事項等		
全ての時間、身体を使った実践的な体験学修となるので、動きやすい服装(パンツスタイル)で参加してください。 筆記具を持参してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅲ身体表現2(2組)				ナンバリング	3409
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	未定						
授業の位置づけ							
教育者・保育者・子育て支援者に求められる、コミュニケーション能力・身体表現力を獲得するための科目です。ディプロマ・ポリシーの「一人一人のこどもの特徴や発達を見きわめ、それに対応する能力を身につける」「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続ける」とことに関連がある科目です。 これまでに学んだ他の表現領域「表現Ⅳ日本語表現」「表現Ⅱ造形」等との関連も意識しながら、前期「表現Ⅲ身体表現1」の応用編として位置づけられます。							
授業の概要							
教育者・保育者に必要なコミュニケーション能力、身体表現力を実践的に発揮できるように、自ら考え、他者と対話しながら、ワークショップ形式で学びます。グループワークにより、答えのない課題を探究する姿勢を身につけ、コミュニケーション・ゲームなど身体を使った表現の手法についても修得します。							
到達目標							
1 コミュニケーションの手段となる「身体」「表情」「声」を豊かに使うことができ、総合的な身体表現の可能性を広げることができる。 2 空間や距離を意識しながら「発信」したり「受信」したりすることができる。 3 コミュニケーションゲームを体験しながら、その目的を踏まえ、幼児・児童向けにプログラムを構成し、応用することができる。 4 グループワークにより、答えのない課題に対して批評的に物事を考察し、他者と協働しながら探求することができる。 5 客観的な視点から、自己や他者の表現について、実践的差異に言及することができる。							
授業の方法							
全回、実践型のワークショップ形式による授業です。口頭で実践内容を説明します。グループワークによるコミュニケーションゲームやアクティビティの体験をした後に、それを応用したプログラム構成を行ったり、タイプの異なる児童劇の創作・発表を行います。また、発表する側の表現がどのように伝わったのか、つどディスカッションを行い、どのようにすれば表現の可能性を高めることができるのか議論します。議論した結果を踏まえて、対話しながらステップアップさせて行きます。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

コミュニケーションワークショップ講師の実務経験を活かして、シアターゲームやグルーブワークの指導を行います。俳優養成所講師の実務経験を活かして、身体表現の指導を行います。劇作家の視点から、児童劇について共に考察し、アドバイスをいたします。

課題に対するフィードバックの方法

表現の専門家と一緒に授業に参加しながら、アクティビティごとに気づいたことを伝えます。質問や意見があったら、いつでも言ってください。その場で、みんなで考えます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 【コミュニケーションゲーム1】 ・授業計画と授業の進め方、ループリックによる評価の説明 ・授業を進めるための「対話を生み出す場」について考察する ・言語を用いないコミュニケーションを、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する	シラバスを事前に読んでおく(20分)	体験したシアターゲームを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第2回	【インプロヴィゼーション(即興)1】 ・インプロの協働原則を共有した上で、アクティビティを体験・考察する	1回目で考えた「対話を生み出す場」について、それぞれ準備する(20分)	体験したインプロを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第3回	【色々なものを読んでみる】 ・小説・童話・広告・詩など、色々なものを読んでみる ・どのように聞こえるか、声について考察を行う	読みたい言葉を探して持つてくる(20分)	他者の読み方を思い出し、色々な声を出してみる(25分)
担当教員			
第4回	【タブロー(静止画)を体験する】 ・身体を使ったタブローについての考え方を体験する ・日常生活や、写真を使ったタブローを表現してみる	自分の身体で動かせる部分を確認して、良く動かす部分とあまり動かさない部分を確認しておく(20分)	日常生活の中で、あまり動かししていない身体の部分を意識的に使ってみる(25分)
担当教員			

第5回	【立体紙芝居創作1】 ・グループに分かれて、童話や昔話などを4枚の紙芝居として、身体を使って表現する ・どのように見えたか、互いに検証する ・紙芝居の枚数を増やしてみる	好きな童話や昔話を考えてくる(20分)	想定する観客を変えると作品として変化する部分があるか、それはなぜかを考える(25分)
担当教員			
第6回	【立体紙芝居創作2】 ・前回作った立体紙芝居に、読み聞かせのパートを加え完成させる ・観客を想定し、楽しんでもらうための身体表現を加えてみる(歌・リズム・ダンスなど)	創作を深めるための身体表現を考えてくる(20分)	発表会のためのすり合わせ、次回準備してくるものをまとめる(25分)
担当教員			
第7回	【立体紙芝居創作3】 ・発表会を行う ・どのように伝わったのか、考察する	発表会の準備(20分)	発表会を対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第8回	【コミュニケーションゲーム2】 ・より複雑なコミュニケーションゲームを体験・考察する	コミュニケーションゲーム1の内容を思い出し、振り返っておく(20分)	体験したシアターゲームを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第9回	【インプロヴィゼーション(即興)2】 ・より高度なインプロのアクティビティを体験・考察する	インプロヴィゼーション1の内容を思い出し、振り返っておく(20分)	体験したインプロを対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いかを考える(25分)
担当教員			
第10回	【童話劇の創作1】 ・グループに分かれて、童話や昔話などをもとに短編劇を創作する ・童話をいくつかのピースに分けて、グループで短編の創作台本を書いてみる ・読み合わせを行ない、意見交換する	好きな童話や昔話を考えてくる(20分)	書き言葉と話し言葉について、どんなことを感じたか振り替えておく(25分)
担当教員			

第11回	【童話劇の創作2】 ・前回の台本をリライトしてみる ・台本をもとに、短編劇として創作する	リライトのための準備をしてくる(20分)	次回の創作に向けて、決まっていなかったことをまとめて整理しておく(25分)
担当教員			
第12回	【童話劇の創作3】 ・グループ創作を行う ・中間発表を行う ・現時点でどのように見えているか、ブラッシュアップのための意見交換を行う	セリフを覚えてくる(20分)	やっていることと、見えていることの差異について考えてみる(25分)
担当教員			
第13回	【童話劇の創作4】 ・グループ創作を行う ・観客を想定し、楽しんでもらうための身体表現を加えてみる(歌・リズム・ダンスなど)	創作を深めるための身体表現を考えてくる(20分)	発表会のためのすり合わせ、次回準備してくるものをまとめる(25分)
担当教員			
第14回	【童話劇の創作5】 ・発表会を行う ・どのように伝わったのか、考察する	発表会の準備(20分)	発表会を対象年齢を変えて行うにはどうしたら良いか考えてみる(25分)
担当教員			
第15回	【まとめ・ふりかえり】 ・コミュニケーション能力や身体表現について、要点をまとめる ・授業を通してどんなことを考えたか意見交換を行う	これまでを振り返り、どんなことを考えたか要点をまとめておく(20分)	幼児・児童指導にどのように応用できるか考えてみる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	各アクティビティ、創作グループワークへの参加意欲・態度 意欲・態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。演技の技術は問わない	

その他	20	小レポート、課題レポートの提出
教科書		
使用しない		
参考文献		
特になし		
履修条件・留意事項等		
全ての時間、身体を使った実践的な体験学修となるので、動きやすい服装(パンツスタイル)で参加してください。 筆記具を持参してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		総合表現音楽Ⅱ(1組)				ナンバリング	3417
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂、伊藤 庸子						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の基本的資質の向上と、人間的コミュニケーション能力を身に付け、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、鍵盤楽器を用いた音楽表現の総まとめとなる。							
授業の概要							
「総合表現音楽Ⅰ」に引き続き、総合的な音楽の理解や実践力を高めることを目的とする。学生は将来、保育・教育現場でこどもと共に音楽表現活動する上で、音楽の多様性についての理解を深め、更には複合的な音楽表現の活動も意識しなければならない。音楽表現とその周辺領域での手法を身に付け、こどもの視点から自己を見つめることができるよう、より深い実践を進める。							
到達目標							
弾き歌いにおけるより実践的なピアノ演奏法、歌唱法、指導法、及び対象者・聴き手を意識した演奏表現を学ぶことを目標とする。 ○ 読譜力を更に高め、楽曲分析に取り組むことができる ○ 演奏における音楽的表現を学び、表現する喜びを感じ、鍵盤楽器の演奏技術の向上を実感できる ○ 音楽を“遊び”と捉え、こどもを意識した演奏ができるようになる ○ こどもの視点から自らの行動を見つめることができるようになる							
授業の方法							
①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。 ③主に、レッスン時のディスカッション(聴講学生を含む)を行う。							
ICT活用							
タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。							
実務経験のある教員の教育内容							

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれてレッスンを開始する (注意点) 本日よりレッスンを開始するので、準備を怠らないこと	夏季休業中に練習したピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第2回	レッスン1: 弾き歌いの学習1 (幼保)【課題曲グループ3】の学習①～園生活・行事・季節(秋)の歌などを中心に学習 (小特) 中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第3回	レッスン2: 弾き歌いの学習2 (幼保)【課題曲グループ3】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特) 中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第4回	レッスン3: 弾き歌いの学習3 (幼保)【課題曲グループ3】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特) 高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第5回	声楽の特別講義:共に心地よく歌うために こどもと共に心地よく歌うための、呼吸法・発声法・歌唱法を学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意し、動きやすい服装と靴を準備すること	通常通り新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	講義で指導された内容を確認しながら、実践継続する。(最低15分)
担当教員			
第6回	レッスン4:弾き歌いの学習4 (幼保)【課題曲グループ3】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第7回	レッスン5:弾き歌いの学習5 (幼保)【課題曲グループ4】の学習①～園生活・行事・季節(冬)の歌の他、こどもの好きな楽曲などを中心に学習 (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第8回	レッスン6:弾き歌いの学習6 (幼保)【課題曲グループ4】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第9回	レッスン7:弾き歌いの学習7 (幼保)【課題曲グループ4】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第10回	レッスン8:弾き歌いの学習8 (幼保)【課題曲グループ4】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲 ※実技試験課題曲発表	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第11回	レッスン9:弾き歌いの学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第12回	レッスン10:弾き歌いの学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳と心を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第13回	レッスン11:弾き歌いの学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、対象者・聴き手を意識した演奏を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第14回	レッスン12:弾き歌いの学習12～対象者・聴き手を意識した演奏ができるよう、心がけること (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、対象者・聴き手を意識した演奏を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第15回	実技試験、まとめ	本番に向けた身体的・精神的自己管理を行い、伸びやかに演奏表現できるよう準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と耳と心を使った練習を継続すること。(最低15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み	

その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる
教科書		
(幼保系)こどものうた200／小林美実／チャイルド本社 (小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用するテキスト その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。		
参考文献		
明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／音楽之友社 音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他		
履修条件・留意事項等		
確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ」から継続して受講することを求める。ただし、進路変更などの事情がある場合は、申し出ること。 学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		総合表現音楽Ⅱ(2組)				ナンバリング	3417
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂、伊藤 庸子						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の基本的資質の向上と、人間的コミュニケーション能力を身に付け、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、鍵盤楽器を用いた音楽表現の総まとめとなる。							
授業の概要							
「総合表現音楽Ⅰ」に引き続き、総合的な音楽の理解や実践力を高めることを目的とする。学生は将来、保育・教育現場でこどもと共に音楽表現活動する上で、音楽の多様性についての理解を深め、更には複合的な音楽表現の活動も意識しなければならない。音楽表現とその周辺領域での手法を身に付け、こどもの視点から自己を見つめることができるよう、より深い実践を進める。							
到達目標							
弾き歌いにおけるより実践的なピアノ演奏法、歌唱法、指導法、及び対象者・聴き手を意識した演奏表現を学ぶことを目標とする。 ○ 読譜力を更に高め、楽曲分析に取り組むことができる ○ 演奏における音楽的表現を学び、表現する喜びを感じ、鍵盤楽器の演奏技術の向上を実感できる ○ 音楽を“遊び”と捉え、こどもを意識した演奏ができるようになる ○ こどもの視点から自らの行動を見つめることができるようになる							
授業の方法							
①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。 ③主に、レッスン時のディスカッション(聴講学生を含む)を行う。							
ICT活用							
タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。							
実務経験のある教員の教育内容							

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれてレッスンを開始する (注意点) 本日よりレッスンを開始するので、準備を怠らないこと	夏季休業中に練習したピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第2回	レッスン1: 弾き歌いの学習1 (幼保)【課題曲グループ3】の学習①～園生活・行事・季節(秋)の歌などを中心に学習 (小特) 中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第3回	レッスン2: 弾き歌いの学習2 (幼保)【課題曲グループ3】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特) 中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第4回	レッスン3: 弾き歌いの学習3 (幼保)【課題曲グループ3】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特) 高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第5回	声楽の特別講義:共に心地よく歌うために こどもと共に心地よく歌うための、呼吸法・発声法・歌唱法を学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意し、動きやすい服装と靴を準備すること	通常通り新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	講義で指導された内容を確認しながら、実践継続する。(最低15分)
担当教員			
第6回	レッスン4:弾き歌いの学習4 (幼保)【課題曲グループ3】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第7回	レッスン5:弾き歌いの学習5 (幼保)【課題曲グループ4】の学習①～園生活・行事・季節(冬)の歌の他、こどもの好きな楽曲などを中心に学習 (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第8回	レッスン6:弾き歌いの学習6 (幼保)【課題曲グループ4】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第9回	レッスン7:弾き歌いの学習7 (幼保)【課題曲グループ4】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第10回	レッスン8:弾き歌いの学習8 (幼保)【課題曲グループ4】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)高学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲 ※実技試験課題曲発表	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第11回	レッスン9:弾き歌いの学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第12回	レッスン10:弾き歌いの学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳と心を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第13回	レッスン11:弾き歌いの学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、対象者・聴き手を意識した演奏を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第14回	レッスン12:弾き歌いの学習12～対象者・聴き手を意識した演奏ができるよう、心がけること (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、対象者・聴き手を意識した演奏を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第15回	実技試験、まとめ	本番に向けた身体的・精神的自己管理を行い、伸びやかに演奏表現できるよう準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と耳と心を使った練習を継続すること。(最低15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み	

その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる
教科書		
(幼保系)こどものうた200／小林美実／チャイルド本社 (小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用するテキスト その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。		
参考文献		
明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／音楽之友社 音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他		
履修条件・留意事項等		
確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ」から継続して受講することを求める。ただし、進路変更などの事情がある場合は、申し出ること。 学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		国語科概論				ナンバリング	3440
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる【思考・判断・表現】」ための科目である。より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけ、国語科における「果たす役割」や「今日的な課題」をふまえながら、学習指導要領や教科書等を検討することで言語能力を高めていく。教職原論、教科教育法国語、教育実習指導Ⅱ、教育実習Ⅱの基礎として位置づけられる。							
授業の概要							
国語科がすべての教科の基本と言われる意味は何か。国語科の今日的な課題は何か。国語の教科書はどのような意図で編集され、扱う留意点は何か。そんな疑問や課題に答えていくような講義を展開する。国語科の果たすべき役割を系統的にたどりながら国語科の重要性を再認識する。また、2020年に学習指導要領が改訂になるため、具体的な授業場面と新旧の学習指導要領とを結び付け、主体的・対話的で深い学びとは何かを理解し学びを深める。なお、自己課題をもって積極的に自学を行うよう、図書館やメディアコーナー、コンピュータ・ラボラトリーの利用を習得する。							
到達目標							
1 国語科教育の目標についてしっかり捉えて、説明したり論じたりできる。 2 国語科がすべての教科の基本となる意味を自分自身の言語生活と結びつけて考えることができる。 3 学習指導要領は、言語生活の実態や社会的な要請をふまえ、こどもの発達段階にそって系統的、構造的に書かれていることを把握し、新学習指導要領の趣旨と内容を説明することができる。 4 学習指導要領の趣旨を生かして編集されている教科書について考えを深め、意見を述べることができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で進めるが、一部アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)も取り入れていく。講義の終わりには小課題を実施するとともに、感想・質問・内省の文等を書く。事前事後課題についての質問等を取り上げ、共通理解を図る。理解しやすいように実物投影機やデジタル教科書などを活用する。							
ICT活用							
国語教育に関する動画を視聴した上で、質疑応答を行う。また、デジタル教科書やパワーポイントを活用し、国語科学習指導要領についての解説を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

小学校教員として、35年勤務した経験を生かして、国語教育の今日的課題や国語の教育課程などについての授業を行う。
また、小学校国語教育における授業アドバイザーとして各学校に授業協力してきた経験があり、国語教育について幅広い知識、知見を有している。
この経験を生かした講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対して評価し、コメントを返す。
また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 国語教育とは何か、国語科学習指導要領とは何かについて知る。 「国語科概論」の目標、概要、評価についてや「国語科」のねらいについて学ぶ。 また、「国語教育」と「日本語教育」の違いとは何か、「言語能力」の基本的な押さえを理解する。	国語科学習指導要領を全体に目を通して頂くこと。(90分)	「小学校学習指導要領解説国語編」 第1章総説編(以後、「解説編」と記す)P1-P2を読み直しまとめる(90分)
担当教員			
第2回	【国語科教育の今日的な課題】 国語科教育の今日的な課題について考える。国語科教育の今日的な課題を話し合い、プリントにまとめ、その背景を理解する。 特に国際化、学力の低下、教育力の低下などについて問題意識を持ち、国語科の果たす役割について理解を深める。	国語科学習指導要領の「解説編」P1-P5を読んで頂くこと。(90分)	国語科学習指導要領の「総則の要点」やキーワードをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【国語科学習指導要領の趣旨】 学習指導要領「国語科」の趣旨を読み取ったり、学習指導要領のあゆみや趣旨を知る。 また、学習指導要領と教科書との関係について理解する。 一方で新学習指導要領と現行の指導要領を比較し、時代の要請と改定のあゆみ、不易としての言語能力、教科書の生かし方を学ぶ。	「解説編」P5-P10をしっかりと読み、考えをまとめて頂くこと。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第4回	【学習指導要領「国語科」の目標と内容】 新学習指導要領と現行の指導要領を比較しながら、目標及び内容、指導事項の概要をとらえる。 児童の発達段階と今日的な課題をふまえた目標と内容を理解する。 幼稚園教育、中学校教育との関連で学習指導要領を理解し、自分なりの考えをまとめる。	「解説編」P11-P40を読み自分の考えをまとめて頂くこと。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			

第5回	【低学年の目標と内容 ～教科書2年～】 低学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容 と指導事項とを結び付け、低学年の学習について理解を 深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。 また、実際にグループで単元構成や授業内容を検討し合う 。	解説編 P41-P75を読み自分の 考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			
第6回	【中学年の目標と内容 ～教科書4年～】 中学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容 と指導事項とを結び付け、中学年の学習についての理解 を深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。ま た、相手・目的意識、文の中心、段落相互の関係について 理解する。	解説編 P76-P113を読み自分の 考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			
第7回	【高学年の目標と内容 ～教科書6年～】 高学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容 と指導事項とを結び付け、高学年の学習についての理解 を深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。 また、形式的操作、広い視野、隠喩、メタ言語的思考につ いても理解する。	解説編 P115-P152を読み自分 の考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			
第8回	【「話すこと・聞くこと」の指導】 国語科の2年、4年、6年の教科書を活用しながら「解説編」 の話すこと・聞くことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる指導について考えを深め、教科 書と学習指導要領との関連性を考察する。	「解説編」P202及びP203を読ん でくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			
第9回	【「書くこと」の指導】 国語科の2年、4年、6年の教科書を活用しながら、「解説 編」の書くことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる書く指導について考えを深め、 学習指導案と学習指導要領との関連性を考察する。 また、他教科との関連も確認する。	「解説編」P204及びP205を読ん でくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			
第10回	【「読むこと」の指導】 国語科の2年、4年、6年の教科書を活用しながら、「解説 編」の読むことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる読む指導について考えを深め、 学習指導案と学習指導要領との関連性を考察する。 また、読書指導や並行読書との関連性も学ぶ。	「解説編」P206及びP207を読ん でくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマー キングしたり、要点をまとめたり すること。(90分)
担当教員			

第11回	【教科書の全体構成と系統性】 1年間の国語の学びと単元構成構築の仕方を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと3領域の関連指導について理解する。 また、話すこと・聞くこと・書くことの領域別特徴を知る。各学年間の系統性についてグループワークを行い理解を深める。	「解説編」P202からP207を読んでくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第12回	【デジタル教科書及び書写の指導(硬筆と毛筆)】 デジタル教科書が国語科学習の中でどのように活用されているかを知る。 また、書写における文字に関する指導が書くこととの領域の指導と結びついていることをモニターを見ながら交流し合い理解する。 「硬筆」と「毛筆」の特徴などに触れながら書写指導の意義について学ぶ。	デジタル教科書について調べてくること。 小学校の時に受けた書写指導についてまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第13回	【「伝統的な言語文化に関する事項」について】教科書2年、4年、6年の「解説編」について学び、単元の中にどのように位置付いているかを理解する。 また、古典、言葉の特徴やきまり、文字に関する事項についての指導の在り方について理解を深める。 小論文のテーマ確認と解説を通して小論文の書き方を理解する。	「解説編」p152-53 p88-90 p126-127までをしっかりと読んでくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。 小論文テストに備えること(90分)
担当教員			
第14回	【読書指導の充実】教科書2年、4年、6年の読書指導に関する単元について検討し、具体的な指導方法を学ぶ。 また、現在行われている読書指導とその課題について考察する。 並行読書のあり方や国語における読書の広がり、司書教諭の役割、他教科との関連、朝読書、地域図書館とのつながりなどについても理解を深める。	読書に関して調べてくること。事後これまでの授業をふりかえり、最終時の課題について構想を練ること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。 小論文テストに備えること。(90分)
担当教員			
第15回	【小論文として国語教育のあり方をまとめる】 これまでの講義を振り返り、国語科概論の趣旨を再確認する。講義からの学びを踏まえて小論文を書く。 小論文のテーマは「今日的課題と新学習指導要領を踏まえ、自分が教壇に立った時に、どのような授業や言語活動を行いたいのか自分の考えを具体的に述べよ」このテーマに沿って文章にまとめる。	学習指導要領を踏まえ、小論文についての構想や内容をまとめておくこと。(90分)	これまでに配布されたプリントの見直す。 学習指導要領を読み直すこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回のメモと小課題5点×14=70点(1-14) 小論文課題30点×1=30点(最終回)	

その他	0	なし
教科書		
・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省 ・小学校国語1年上 かざぐるま ・小学校国語2年上 はばたき(光村) ・小学校国語4年上 かがやき(光村) ・小学校国語6年 創造(光村)		
参考文献		
適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
・座席は列ごとに固定とする。 ・筆記用具は濃い鉛筆もしくはペンとする。 ・辞書の持ち込みは可。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		特別活動の指導				ナンバリング	3512
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員		相馬 哲也					
授業の位置づけ							
本科目は、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団活動における行動の仕方や合意形成を図って解決する力を身に付け、人間関係をよりよく形成しようとする態度を養うことを目標とする特別活動について、その教育的意義や指導の在り方を学び、教員に求められる指導力を身に付けることをねらいとしている。変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目であり、「道徳教育の指導法」と関連し、「生徒指導の意義と内容」の基礎となる。							
授業の概要							
本授業では、集団活動であること、実践的な活動であることを特質とする特別活動について、その目標や教育的意義を学習するとともに、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事のそれぞれについて、目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いについて学習する。また、特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画を作成する学習、学級活動の指導案を作成する学習及び模擬授業の実施、話し合い活動や係活動、集会活動を充実させる方法や家庭・地域・関係機関との連携についての学習を行い、教員に求められる実践的な指導力が身に付く学びとする。							
到達目標							
○特別活動の目標及び教育的意義を説明することができる。 ○学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標及び内容を説明することができる。 ○特別活動の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画の作成の仕方及び配慮事項を説明することができる。 ○学級活動の年間指導計画及び指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 ○話し合い活動、係活動、集会活動を充実させる方法について考えを述べるすることができる。 ○特別活動における家庭・地域・関係機関等との連携の意義を説明することができる。							
授業の方法							
プレゼンテーションソフトによる説明と配布資料により、講義形式を基本に進める。 グーグルクラスルームのフォームの機能を用い、学生の考えや意見を適時に集約し、反映させる。 グループワークとグループ発表、学生によるプレゼンテーションを取り入れて行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトを活用した事例研究を行うとともに、グーグルクラスルームのフォームの機能の活用により、学生の考えを把握し、タイムリーにフィードバックする。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行うとともに、集団の中で子どもたちが生き生きと活動するより充実した特別活動の実践について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、グーグルクラスルームを活用し、振り返りシートや課題レポートにコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎ オリエンテーション ・特別活動の概要を説明し、特別活動について学ぶ意義を確認する。 ・授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画等を把握し、学習に見通しをもつ。 ・自分が学んだ特別活動について振り返りを行う。	・教科書のp1～p10、シラバスを読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、特別活動について学ぶ意義をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎ 特別活動の目標、教育的意義について ・特別活動の目標、基本的な性格と教育的意義について学習する。 ・教育課程における特別活動の位置付け、各教科等との関連について学習し、考察する。 ・子どもが抱える課題について振り返りを行う。	・教科書のp11～p42を読んでおくこと。 ・今日の子どもたちが抱える課題について調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、特別活動の今日的な教育的意義をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎ 学級活動の目標、内容、指導計画について ・学級活動の目標、内容、育成を目指す力について学習する。 ・学級活動の指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱いにおける重点を学習し、考察する。	・教科書のp43～p61を読んでおくこと。 ・楽しい学級とはどのような学級かについて考えておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、学級活動の内容や育成を目指す力についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎ 児童会活動の目標、内容、指導計画について ・児童会活動の目標、内容、育成を目指す力について学習する。 ・児童会活動の指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱いにおける重点を学習し、考察する。	・教科書のp84～p101を読んでおくこと。 ・経験してきた児童会活動を想起しておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、児童会活動の内容や育成を目指す力についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎ クラブ活動の目標、内容、指導計画について ・クラブ活動の目標、内容、育成を目指す力について学習する。 ・クラブ活動の指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱いにおける重点を学習し、考察する。	・教科書のp102～p115を読んでおくこと。 ・経験してきたクラブ活動を想起し、楽しく取り組めるクラブ活動について考えておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、クラブ活動の内容や育成を目指す力についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎ 学校行事の目標、内容、指導計画について ・学校行事の目標、内容、育成を目指す力について学習する。 ・学校行事の指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱いにおける重点を学習し、考察する。	・教科書のp116～p127を読んでおくこと。 ・学校行事で印象深い活動について想起しておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、学校行事の内容や育成を目指す力についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎ 特別活動の全体計画、年間指導計画について ・特別活動の全体計画について、内容や構造、作成上の配慮事項を学習する。 ・各活動・学校行事の年間指導計画について、内容や構造、作成上の配慮事項を学習する。	・教科書のp136～p143を読んでおくこと。(60分)	・配布資料を復習し、全体計画や年間指導計画作成上の配慮事項をまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎ 学級活動の年間指導計画の作成について ・学級活動の年間指導計画の作成の仕方を学習する。 ・学級活動の年間指導計画を作成し、その内容について研究・交流する。(個人→グループ)	・教科書のp62～p68を読んでおくこと。(60分)	・グループでの研究をもとに、作成した年間指導計画を見直し、完成させること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎ 学級活動の指導案の作成について ・学級活動の指導案の作成の仕方を学習する。 ・学級活動の指導案を作成し、授業の展開、評価方法等について研究・交流する。(個人→グループ)	・教科書のp68～p70を読んでおくこと。作成する指導案の「題材」を考えておくこと。(60分)	・グループでの研究をもとに、作成した指導案を見直し、完成させること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎ 話し合い活動、係活動の充実について ・話し合い活動や係活動の意義、充実させる方法等について学習する。 ・話し合い活動や係活動を充実させる具体的な方法を出し合い、研究する。(個人→グループ)	・教科書のp70～p72, p78を読んでおくこと。経験した話し合い活動、係活動を想起しておくこと。(90分)	・配布資料を参考に、より充実した話し合い活動や係活動の在り方について考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎ 児童会活動の実施計画案の作成について ・委員会活動や集会活動の実施計画案の作成の仕方を学習する。 ・より楽しく充実した児童会活動について改善点を出し合い、研究する。(個人→グループ)	・教科書のp84～p101を読んでおくこと。(60分)	・配布資料を参考に、より楽しく充実した児童会活動の在り方について考えをまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎ 学校行事の実施計画案の作成について ・運動会、学芸発表会等の実施計画案の作成の仕方を学習する。 ・より楽しく充実した学校行事について改善点を出し合い、研究する。(個人→グループ)	・教科書のp127～p131を読んでおくこと。(60分)	・配布資料を参考に、充実した学校行事の在り方について考えをまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎ 特別活動におけるNIEの活用について ・新聞を活用した教育活動の概要を学習する。 ・特別活動等におけるNIEの実践事例について学習し、考察する。	・NIEについて調べておくこと(60分)	・配布資料を参考に、NIEの取組について考えをまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎ 家庭・地域・関係機関等との連携について ・特別活動における家庭・地域・関係機関との連携の意義について考察する。 ・活用できる人材、施設・設備等を出し合い、その活かし方を研究する。	・教科書のp142を読んでおくこと。 ・活用できる地域の人材、社会教育施設等を調べておくこと。(60分)	・配布資料を参考に、家庭・地域・関係機関との連携の意義についてまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎ 所属感、自己有用感を高める特別活動について ◎ 特別活動についての学習のまとめ ・特別活動の目標や内容、教育的意義についてまとめ、学習の成果を確認する。	・所属感、自己有用感を高める特別活動の案を考えておくこと。(60分) ・これまでの学習内容を整理し、課題に取り組むこと。(90分)	・これまでの学習を振り返り、学習成果の自己評価を行うこと。(30分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題(30%)	

その他	0	なし
教科書		
「小学校学習指導要領 特別活動編」文部科学省 / 東洋館出版社		
参考文献		
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動 国立教育政策研究所 / 東洋館出版社		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育相談論Ⅱ(1組)				ナンバリング	3517
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できる教育相談に関する基本的な理解の枠組を学習します。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。「教育相談論Ⅰ」において学んだことを基礎として、教育相談の理論と実際について学びを深めます。							
授業の概要							
学校現場はさまざまな課題を抱えています。この問題は教科指導の問題を超えて、児童生徒の心の問題として大きな比重を占めています。この演習では、将来、教師を目指す受講生が学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できる教育相談に関する基本的な理解の枠組みと姿勢を学習します。特に、ここでは、発達初期の子どもたちの抱えている心の問題に対する解決の糸口として、遊戯療法、音楽療法および家族療法の理論と方法を中心にして学習を深め、心理臨床的支援に関わる関係者(保護者も含む)との共通なベースを構築していくための手がかりを提供します。また、学習を深めていくために、①これらの療法についてのロールプレイ、②臨床実践を跡づけていくための分析法の実習、を組み入れて演習を進めていきます。							
到達目標							
1. 学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できるよう、教育相談に関する基本的な理解の枠組を身につけ、適用できるようになる。 2. 教育相談論Ⅰでの学習を基礎として、遊戯療法、音楽療法、家族療法の理論と方法を学ぶことを通して、教育相談場面における児童生徒および保護者とのかわり方について、自身の考えを述べるができる。 3. 集団遊戯療法に関する行動観察・分析方法に関する実習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。							
授業の方法							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。また、Microsoft PowerPoint 2016によって作成した資料をスクリーンに投影します。ここでは、講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クlickerを活用した分析体験、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションも行います。							
ICT活用							
この授業では、クlicker(反応収集提示装置)による行動分析を行います。ここでは、特に遊戯療法の理論に基づいたロールプレイ場면을クlickerを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。ここでは、教育相談論Ⅰとの関連性について説明します。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての説明を行います。	事前にシラバスを読み、授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、この演習を円滑に進めるためのベース作りを行います。ここでは、「私の対人地図」の作成を通して、これまでの対人関係を振り返り、視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解・他者理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること(25分)	私の対人地図を振り返り、自己理解を深めること(20分)
担当教員			
第3回	教育相談の対象者の特性(抱えている課題・関連する要因等)について、各受講生が描くイメージを交換し、教育相談の対象の輪郭を明らかにします。ここでは、KJ法を用いて、教育相談の対象となる人々の特性に関するイメージを出し合い、グループごとに分析します。この取組を通して教育相談の対象の理解を深めます。	KJ法について調べること(20分)	関連文献を参照しながら教育相談の対象について整理すること(25分)
担当教員			
第4回	子どもの発達と遊戯療法(1) 行動観察を通じた子どもの発達と遊戯療法の導入における理論と方法について学びます。ここでは、文献講読を通して、子どもの行動観察と遊戯療法に関する基本的知識を学びます。また、文献とあわせて、映像資料を視聴することを通じ、遊戯療法についての具体的・実践的なイメージを持つことを目指します。	遊戯療法というキーワードについて心理学的視点から整理すること(25分)	関連文献を読んで概要をまとめること(20分)
担当教員			

第5回	子どもの発達の理解と遊戯療法(2) 発達面に課題のある子どもへの遊戯療法に基づくアプローチに関する文献の講読を通して、対人・対物関係場面における子どもに対する環境の側の教育臨床的かかわりについて、討論を交えながら理解を深めます。ここでは、文献におけるテーマについて、グループでの意見交換を通して、子どもを取り巻く環境へのアプローチについて学びます。	集団遊戯療法というキーワードについて整理すること(20分)	配布した文献について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第6回	集団遊戯療法の理論と実際(1) 集団遊戯療法の実際について映像を視聴し、討論を通して共通理解を深めます。ここでは、関係力育成プログラムによる子どもたちへの指導場面に関する映像を視聴し、遊戯療法場面における行動観察のあり方について理解を深めます。	行動観察というキーワードについて整理すること(20分)	関係力育成プログラムに関する文献を読んでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第7回	集団遊戯療法の理論と実際(2) 集団遊戯療法の実際についてロールプレイを通して学習します。ここでは、具体的な相談事例を想定して、関係力育成プログラムに基づき、子ども役、父親役、母親役、指導者役、観察者役に分かれ、プレイルームで「ファミリーロールプレイ実習」を行います。このことを通して、子どもとその家族を対象とした遊戯療法の実践について学びを深めます。	事前に設定した子どもの発達段階について整理すること(20分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと(25分)
担当教員			
第8回	集団遊戯療法の理論と実際(3) 集団遊戯療法の指導場面について、クリッカーを用いた分析の方法を学習します。ここでは、関係力育成プログラムによる指導場面について、クリッカーを活用して分析することを学びます。また、心理学的手法を用いた遊戯療法場面の分析例について紹介します。	ロールプレイ実習を通して考えたことについてまとめること(20分)	関連文献を参照しながら遊戯療法に関する学習のまとめを行うこと(25分)
担当教員			
第9回	音楽療法の理論と実際(1) 心理臨床的場を構築するための音楽療法について学習を深めます。ここでは、教育相談・カウンセリングの世界と音楽療法の関係性について学びます。また、文献の紹介を通して、発達に課題のある子どもに対する音楽療法について理解を深めます。	音楽療法というキーワードについて整理すること(20分)	配布した文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第10回	音楽療法の理論と実際(2) 自己表現力を引き出す音楽療法について学習を深めます。ここでは、グループに分かれて「自己表現」をテーマとする曲の創作活動に取り組み、その発表に取り組みます。このように、音楽療法のセッションを体験することを通して、自己表現力を引き出す音楽療法について実践的に学びます。	配布した文献を専門用語を中心に整理すること(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			

第11回	音楽療法の理論と実際(3) 関係力の育成としての音楽療法について学習を深めます。ここでは、文献の講読を通して、子どものための「関係力育成プログラム」を下支えるBGMの構成を学びます。また、音楽療法のセッションに関する映像資料の視聴を通して、音楽療法の実際について理解を深めます。	遊戯療法と音楽療法の関係性について学んだことを整理すること(25分)	これまでの音楽療法に関する学習をまとめること(20分)
担当教員			
第12回	家族療法の理論と実際(1) 家族療法についての文献の講読を通して家族療法の考え方について理解を深めます。ここでは、ゲストスピーカーを招聘し、家族療法の基本的な考え方について学びます。家族療法の視点を通した子ども理解について学ぶことにより、子どもとその子どもを取り巻く保護者・家族全体への支援のあり方について理解を深めていきます。	家族療法というキーワードについて整理すること(20分)	参考文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第13回	家族療法の理論と実際(2) 家族療法における心理学的アセスメントの体験を通してこの療法の有用性について理解を深めます。ここでは、家族療法におけるアセスメント法として、家族イメージ法(FIT)に取り組み、この体験を通して家族療法的視点から見た教育相談のあり方について考えていきます。	配布した文献を専門用語を中心に整理すること(20分)	FITの臨床的な活用について自分の考えをまとめること(25分)
担当教員			
第14回	家族療法の理論と実際(3) 家族療法による発達の変容に関する分析法を通して、子どもを取り巻く環境のあり方について理解を深めます。また、教育相談を通した、保護者による家族イメージの発達の変容に関する追跡研究について、文献を通して学びます。	教育相談と家族療法の関係性について自分の考えをまとめること(20分)	これまでに学んできた家族療法に関する知識を整理すること(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認 ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、「教育相談」について考えたことについて、レポート作成及びスピーチによる意見交換を行います。	教育相談について学んだことについて、自分の考えを整理すること(20分)	配布資料及び関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験はありません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、およびレポート課題提出によって評価します。	

その他	25	遊戯療法に関しては「クリックカーを用いた行動分析」および所定の書式で作成した「ファミリーロールプレイ実習レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。必要な資料は、授業担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
家族のイメージ 亀口憲治著 河出書房新社 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林 ミュージックセラピー-対話のエチュード- 稲田雅美著 ミネルヴァ書房 高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会		
履修条件・留意事項等		
この授業では、教育相談に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育相談論Ⅱ(2組)				ナンバリング	3517
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できる教育相談に関する基本的な理解の枠組を学習します。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。「教育相談論Ⅰ」において学んだことを基礎として、教育相談の理論と実際について学びを深めます。							
授業の概要							
学校現場はさまざまな課題を抱えています。この問題は教科指導の問題を超えて、児童生徒の心の問題として大きな比重を占めています。この演習では、将来、教師を目指す受講生が学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できる教育相談に関する基本的な理解の枠組みと姿勢を学習します。特に、ここでは、発達初期の子どもたちの抱えている心の問題に対する解決の糸口として、遊戯療法、音楽療法および家族療法の理論と方法を中心にして学習を深め、心理臨床的支援に関わる関係者(保護者も含む)との共通なベースを構築していくための手がかりを提供します。また、学習を深めていくために、①これらの療法についてのロールプレイ、②臨床実践を跡づけていくための分析法の実習、を組み入れて演習を進めていきます。							
到達目標							
1. 学校現場で遭遇する児童生徒の心の問題に適切に対処できるよう、教育相談に関する基本的な理解の枠組を身につけ、適用できるようになる。 2. 教育相談論Ⅰでの学習を基礎として、遊戯療法、音楽療法、家族療法の理論と方法を学ぶことを通して、教育相談場面における児童生徒および保護者とのかわり方について、自身の考えを述べるができる。 3. 集団遊戯療法に関する行動観察・分析方法に関する実習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。							
授業の方法							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。また、Microsoft PowerPoint 2016によって作成した資料をスクリーンに投影します。ここでは、講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クlickerを活用した分析体験、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションも行います。							
ICT活用							
この授業では、クlicker(反応収集提示装置)による行動分析を行います。ここでは、特に遊戯療法の理論に基づいたロールプレイ場면을クlickerを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。ここでは、教育相談論Ⅰとの関連性について説明します。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての説明を行います。	事前にシラバスを読み、授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、この演習を円滑に進めるためのベース作りを行います。ここでは、「私の対人地図」の作成を通して、これまでの対人関係を振り返り、視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解・他者理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること(25分)	私の対人地図を振り返り、自己理解を深めること(20分)
担当教員			
第3回	教育相談の対象者の特性(抱えている課題・関連する要因等)について、各受講生が描くイメージを交換し、教育相談の対象の輪郭を明らかにします。ここでは、KJ法を用いて、教育相談の対象となる人々の特性に関するイメージを出し合い、グループごとに分析します。この取組を通して教育相談の対象の理解を深めます。	KJ法について調べること(20分)	関連文献を参照しながら教育相談の対象について整理すること(25分)
担当教員			
第4回	子どもの発達と遊戯療法(1) 行動観察を通じた子どもの発達と遊戯療法の導入における理論と方法について学びます。ここでは、文献講読を通して、子どもの行動観察と遊戯療法に関する基本的知識を学びます。また、文献とあわせて、映像資料を視聴することを通じ、遊戯療法についての具体的・実践的なイメージを持つことを目指します。	遊戯療法というキーワードについて心理学的視点から整理すること(25分)	関連文献を読んで概要をまとめること(20分)
担当教員			

第5回	子どもの発達の理解と遊戯療法(2) 発達面に課題のある子どもへの遊戯療法に基づくアプローチに関する文献の講読を通して、対人・対物関係場面における子どもに対する環境の側の教育臨床的かかわりについて、討論を交えながら理解を深めます。ここでは、文献におけるテーマについて、グループでの意見交換を通して、子どもを取り巻く環境へのアプローチについて学びます。	集団遊戯療法というキーワードについて整理すること(20分)	配布した文献について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第6回	集団遊戯療法の理論と実際(1) 集団遊戯療法の実際について映像を視聴し、討論を通して共通理解を深めます。ここでは、関係力育成プログラムによる子どもたちへの指導場面に関する映像を視聴し、遊戯療法場面における行動観察のあり方について理解を深めます。	行動観察というキーワードについて整理すること(20分)	関係力育成プログラムに関する文献を読んでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第7回	集団遊戯療法の理論と実際(2) 集団遊戯療法の実際についてロールプレイを通して学習します。ここでは、具体的な相談事例を想定して、関係力育成プログラムに基づき、子ども役、父親役、母親役、指導者役、観察者役に分かれ、プレイルームで「ファミリーロールプレイ実習」を行います。このことを通して、子どもとその家族を対象とした遊戯療法の実際について学びを深めます。	事前に設定した子どもの発達段階について整理すること(20分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと(25分)
担当教員			
第8回	集団遊戯療法の理論と実際(3) 集団遊戯療法の指導場面について、クリッカーを用いた分析の方法を学習します。ここでは、関係力育成プログラムによる指導場面について、クリッカーを活用して分析することを学びます。また、心理学的手法を用いた遊戯療法場面の分析例について紹介します。	ロールプレイ実習を通して考えたことについてまとめること(20分)	関連文献を参照しながら遊戯療法に関する学習のまとめを行うこと(25分)
担当教員			
第9回	音楽療法の理論と実際(1) 心理臨床的場を構築するための音楽療法について学習を深めます。ここでは、教育相談・カウンセリングの世界と音楽療法の関係性について学びます。また、文献の紹介を通して、発達に課題のある子どもに対する音楽療法について理解を深めます。	音楽療法というキーワードについて整理すること(20分)	配布した文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第10回	音楽療法の理論と実際(2) 自己表現力を引き出す音楽療法について学習を深めます。ここでは、グループに分かれて「自己表現」をテーマとする曲の創作活動に取り組み、その発表に取り組みます。このように、音楽療法のセッションを体験することを通して、自己表現力を引き出す音楽療法について実践的に学びます。	配布した文献を専門用語を中心に整理すること(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			

第11回	音楽療法の理論と実際(3) 関係力の育成としての音楽療法について学習を深めます。ここでは、文献の講読を通して、子どものための「関係力育成プログラム」を下支えるBGMの構成を学びます。また、音楽療法のセッションに関する映像資料の視聴を通して、音楽療法の実際について理解を深めます。	遊戯療法と音楽療法の関係性について学んだことを整理すること(25分)	これまでの音楽療法に関する学習をまとめること(20分)
担当教員			
第12回	家族療法の理論と実際(1) 家族療法についての文献の講読を通して家族療法の考え方について理解を深めます。ここでは、ゲストスピーカーを招聘し、家族療法の基本的な考え方について学びます。家族療法の視点を通した子ども理解について学ぶことにより、子どもとその子どもを取り巻く保護者・家族全体への支援のあり方について理解を深めていきます。	家族療法というキーワードについて整理すること(20分)	参考文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第13回	家族療法の理論と実際(2) 家族療法における心理学的アセスメントの体験を通してこの療法の有用性について理解を深めます。ここでは、家族療法におけるアセスメント法として、家族イメージ法(FIT)に取り組み、この体験を通して家族療法的視点から見た教育相談のあり方について考えていきます。	配布した文献を専門用語を中心に整理すること(20分)	FITの臨床的な活用について自分の考えをまとめること(25分)
担当教員			
第14回	家族療法の理論と実際(3) 家族療法による発達の変容に関する分析法を通して、子どもを取り巻く環境のあり方について理解を深めます。また、教育相談を通した、保護者による家族イメージの発達の変容に関する追跡研究について、文献を通して学びます。	教育相談と家族療法の関係性について自分の考えをまとめること(20分)	これまでに学んできた家族療法に関する知識を整理すること(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認 ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、「教育相談」について考えたことについて、レポート作成及びスピーチによる意見交換を行います。	教育相談について学んだことについて、自分の考えを整理すること(20分)	配布資料及び関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験はありません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、およびレポート課題提出によって評価します。	

その他	25	遊戯療法に関しては「クリックカーを用いた行動分析」および所定の書式で作成した「ファミリーロールプレイ実習レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。必要な資料は、授業担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
家族のイメージ 亀口憲治著 河出書房新社 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林 ミュージックセラピー-対話のエチュード- 稲田雅美著 ミネルヴァ書房 高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会		
履修条件・留意事項等		
この授業では、教育相談に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 国語				ナンバリング	3540
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						
授業の位置づけ							
「国語科概論」に続き、小学校における国語科教育を、授業実践の視点からより深化させる科目である。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育のあり方を考え続けることができる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。また「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。							
授業の概要							
・小学校国語科教育の目標、内容、指導方法、評価の理論と実際の指導に関する知識を「学習指導要領の理念」に基づき理解する。 ・プロフェッショナル教師の講話を聴講し、教育現場に臨む態度を身につける。 ・学習指導案の作成・模擬授業実施・自己評価・相互評価の経験による授業構築・実践技能を習得する。 ・オンラインによる模擬授業構築と実施を通して、児童へのICT機器操作指導技能を習得する。							
到達目標							
・学習指導要領の目標・内容の持つ理念を授業づくりに応用できる。 ・児童の発達段階と実態を考慮した指導案作成や授業実践ができる。 ・自己や他者の授業実践を正しくフィードバックし、授業づくりの改善に応用できる。 ・ICT機器操作に習熟し、児童への習得指導に応用できる。							
授業の方法							
・教材配信システムを用いて配信したハンドアウト教材、板書、OHC等の視聴覚メディア等を使用した講義 形式での説明に基づき、グループワーク(模擬授業)や自己・相互評価を行う。 ・授業後半は模擬授業の計画立案・実施のグループワーク中心に行う。 ・模擬授業は写真等の記録を取り、教材配信システム上に配信する。 ・自己・相互評価(フィードバック)を全模擬授業に対して行う。 ・オンラインによる模擬授業構築と実施を通して、児童にICT機器操作を習得させる技術を指導する。							
ICT活用							
オンラインによる模擬授業構築と実施を通して、児童にICT技術の習熟を促す教授法を修得する。							
実務経験のある教員の教育内容							

公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、学校教育特に国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かして多面的な視野に基づく初等国語教育指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した指導案と模擬授業の内容に関して教員・学生による相互評価・自己評価を行い、その内容を全員でシェアする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	学習指導要領を通じて国語科教育(書写を含む)を知ろう 小学校国語科の目標・内容・理念・歴史を具現する「学習指導要領」の理念を、[知識及び技能]、[思考力、判断力、表現力等]の目標や内容から理解する。	課題の事前予習(教科書の準備・一読)。(90分)	授業の要点・課題の整理(配信した次回教材の熟読) (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第2回	教育課程・年間指導計画について理解しよう 学習指導要領「総則」、「国語」(書写を含む)などから教育課程や年間指導計画(教育内容・方法・評価等)立案の意義と実際について理解する。	課題の事前予習(教科書の準備・一読)。(90分)	授業の要点・課題の整理(配信した次回教材の熟読) (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第3回	学習指導案について理解しよう 授業指導案の形式と書き方について理解する。	課題の事前予習(教科書の準備・一読)。(90分)	授業の要点・課題の整理(配信した次回教材の熟読) (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第4回	教材指導案立案(1) 「きつねのおきやくさま」(あまんきみこ作 第2学年教材)を対象に、様々な教材(デジタル教材等ICT含む)を活用した指導案づくりの初歩的方法を理解する。	課題の事前予習(教科書の準備・一読)。(90分)	授業の要点・課題の整理(配信した次回教材に基づき指導案作成を進める) (90分)
担当教員	矢部 玲子		

第5回	教材指導案立案(2) 様々な例や方法論に基づき指導案作成への理解を深める。	課題の事前予習(教科書の準備・配信教材の一読・指導案作成)(90分)	授業の要点・課題の整理 (配信した次回教材に基づき、完成に向けて指導案作成を進める)(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第6回	情報リテラシーガイダンス 指導案作成や授業づくりに実物投影機(書画カメラ)、デジタル教科書、電子黒板、アプリケーション、SNS、ウェブサイト等、児童にICT活用を指導した授業を紹介し、理解を深める。	課題の事前予習(教科書の準備・配信教材の一読・図書館への理解を深める)。(90分)	授業の要点・課題の整理 (配信した次回教材に基づき、図書館の資料やICTを授業に活かすという視点を持ち、指導案作成を進める)(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第7回	教材指導案立案(3) 情報リテラシーガイダンスで習得したスキルを活用し指導案を完成させる。	課題の事前予習。(教科書の準備・配信教材の一読・指導案の完成を目指す)(90分)	授業の要点・課題の整理(図書館の資料を活かすという視点を持ち、指導案作成を完成させる・外部講師への質問等準備。)(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第8回	プロから学ぼう 現役教師の出張授業の内容から国語科授業の実態を理解する。	課題の事前予習・外部講師への質問等準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・外部講師への礼状作成。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第9回	模擬授業の計画を立てる(グループワーク) 「きつねのおきやくさま」模擬授業のグループ分け、授業計画立案等グループワークの開始などの活動を通して授業構築能力(デジタル教材等ICT活用含む)を身につける。	課題の事前予習 グループワークに向けての準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・班毎の指導案作成。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第10回	模擬授業の計画を完成させる(グループワーク) 計画立案の完了、グループごとの役割分担の決定、模擬授業順の決定などの活動を通して、授業構築能力(デジタル教材等ICT活用や児童へICT活用技術指導含む)に習熟する。	課題の事前予習・班毎の指導案作成・役割分担に向けての話し合い。(90分)	授業の要点・課題の整理・班毎の指導案未完成情况の場合は完成させる。役割分担未定の場合は決定する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第11回	模擬授業(1)(グループワーク) 1回2班各10分ずつ。模擬授業と相互評価——授業者と学習者の役割演技を通して模擬授業を行い、発問・板書・評価観点・児童へのデジタル教材等ICT活用指導等について相互評価を行う。教育実習に対応できる実践的な授業力を身につける。	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第12回	模擬授業(2)(グループワーク) 1回2班各10分ずつ。模擬授業と相互評価——授業者と学習者の役割演技を通して模擬授業を行い、発問・板書・評価観点・児童へのデジタル教材等ICT活用指導等について相互評価を行う。教育実習に対応できる実践的な授業力を身につける。	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第13回	模擬授業(3)(グループワーク) 1回2班各10分ずつ。模擬授業と相互評価——授業者と学習者の役割演技を通して模擬授業を行い、発問・板書・評価観点・児童へのデジタル教材等ICT活用指導等について相互評価を行う。教育実習に対応できる実践的な授業力を身につける。	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第14回	模擬授業(4)(グループワーク) 1回2班各10分ずつ。模擬授業と相互評価——授業者と学習者の役割演技を通して模擬授業を行い、発問・板書・評価観点・児童へのデジタル教材等ICT活用指導等について相互評価を行う。教育実習に対応できる実践的な授業力を身につける。	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第15回	模擬授業(5)(グループワーク) 1回2班各10分ずつ。模擬授業と相互評価——授業者と学習者の役割演技を通して模擬授業を行い、発問・板書・評価観点・児童へのデジタル教材等ICT活用指導等について相互評価を行う。教育実習に対応できる実践的な授業力を身につける。	課題の事前予習・模擬授業準備・総フィードバックの準備(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・総フィードバック(90分)
担当教員	矢部 玲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指定された授業内課題:50%、模擬授業:50%。 出席率66%以上の者を評価対象とする。	

その他	0	なし
教科書		
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 ―平成30年2月28日初版発行／文部科学省／東洋館出版社		
参考文献		
ひろがることば 小学国語 2上 令和3年1月20日発行／田近洵一ら／教育出版 (上記は「国語科概論」で使用したものをを用いる) その他必要に応じて提示する。		
履修条件・留意事項等		
履修条件:小学校の教員免許状取得を目指す者。 留意事項等:状況に応じて、授業の順番や内容を変更する場合がある。 授業時間外にも、国語科指導に有益な問題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと。 出席率66%以上で、かつ模擬授業の構成・実施に参加し、上記課題等をすべて提出した者を評価対象とする。		
備考欄		
Empty space for the review column		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 社会				ナンバリング	3542
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
1 授業「教科教育法 社会」(以下、本授業)は、社会科における教育目標、育成を目指す資質能力を理解し、当該教科の学習内容について背景となる現代社会の持つ課題を認識し、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業を構想できる力を身につける科目である。 2 また、ディプロマポリシーの「不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度」や教育に関わる者としての「教育的能力」、「人間的コミュニケーション能力」を身につける科目である。 3 小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「生活科概論」、「社会科概論」、「小学校教育実習」と接続する科目である。							
授業の概要							
1 本授業は、現代における「社会科」の課題を探究し、豊かな授業実践を創造するための知見を学ぶ。(知識・理解) 2 そして、「主体的・対話的で深い学び」を実践するためのスキルを養成する。(技能) 3 さらに、教師自身が良き「学び手」となるため、探究的な活動に参加する意欲的態度を養成する。(意欲・態度)							
到達目標							
1 平成29年版小学校学習指導要領「社会科」の目標及び、主な内容、全体構造とそれに対応した授業方法について理解し、説明することができる。(知識・技能) 2 現代日本における「社会科」の課題に対応した授業づくりを構想できる。(技能) 3 現代日本における「社会科」の授業づくりへの探究的姿勢をもって参加できる。(態度)							
授業の方法							
1 パワーポイントと配布印刷物を用いて授業を進める。 2 小学校における社会科授業の具体例を示すため、模擬授業等の形を取り入れる。説明的な内容は講義形式で進める。 3 毎回の講義ではレスポンスシートの作成と紹介を行う。また小テストを2回行い、基礎的な知識の定着を図る。 4 実践的な内容理解を深め、実践力を身につけるため、第9回、第14回ではグループワークを行う。							
ICT活用							
1 資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。 2 レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。 3 小テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。 4 Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

リフレクションシートから、論点を選び、全体に紹介する。また、G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加えることで、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 授業方法、授業計画、評価、についての説明を行う。 2. 受講者の「社会科教育」の被教育経験について交流する。 3. 模擬授業を通し、この授業で身につけたい社会科教育の「技法」について提示する。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第2回	1. フィードバック: 前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 子どもの発達・認識の広がりかたと社会科の授業について、小学校3年生「町探検」の授業を通して概括する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第3回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答。 2. 地域産業の授業の計画実践～小学校中学年における、産業学習～① 主に、農業の学習について、北海道の農業について概括しながら模擬授業をして、授業方法を学習する。 3. レスポンスシートの作成・提出	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第4回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 地域産業の授業の計画と実践～小学校中学年における、産業学習～② 主に、工業の学習について、地域の工業について概括しながら模擬授業をして、授業方法を学習する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、小テストの準備をしておく。(90分)
担当教員			

第5回	1. 小テスト① 2. レスポンスシートの紹介と質疑応答 3. SDGsの視点からの、ライフラインの現状と課題、及び授業化について 小学校4年生ではゴミ・水道の学習単元がある。SDGsの視点から地域持続の問題を、ライフライン問題から掘り下げて授業をする方法について学習する。	小学校学習指導要領「社会科」を読み、小テストの準備をしておくこと。シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第6回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 社会科見学・体験学習の意義と授業方法 社会科においては見学・体験といった身体性を生かした学習が効果的であり、また必要である。その意義と方法について理解し、授業の構想を立てることができるようにする。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第7回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業① 小学校4年生の地域史の単元について、北海道の歴史の特性(続縄文文化・アイヌ民族・開拓史)を踏まえた授業の展開について考察する。 3. レスポンスシートの作成・提出	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第8回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業② アイヌ文化伝承者の方をゲストティーチャーに招き、北海道の歴史や文化の認識を深める。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第9回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業③ 北海道の産業史、アイヌ民族に関する授業を通して、社会認識を育む社会科教育について考察する。 3. 提出課題①の説明	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	提出課題①に取り組む。(90分)
担当教員			
第10回	地域を捉える教師の視点とその方法 自分のゆかりのある地域について、産業、歴史、数値データを調べ、教材研究を行う。(提出課題①)	提出課題①に向けて下調べを行っておく(90分)	提出課題①を作成し提出する(90分)
担当教員			

第11回	1. リスクを授業化する理論と方法①～防災教育～ 自然災害を想定した単元、授業作りの実践と方法について学習をする。 2. 社会科の指導計画作成の方法、学習指導案の作成方法について提示し、これまでの講義内容を踏まえて、指導計画案・学習指導案の作成を行う(提出課題②に向けた準備)	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。また、授業構想に向けた準備を行う。(90分)
担当教員			
第12回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. リスクを授業化する理論と方法②～現代的課題に即応する社会科授業づくり～ 感染症などの現代的課題に即応した単元、授業作りの実践と方法について学習をする。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第13回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 日本の産業学習の典型を捉える 小学校5年生の社会科で扱われる日本の産業学習について模擬授業などを踏まえながら、育成したい資質・能力とは何かについて考察する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する(90分)
担当教員			
第14回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 主権者教育をめざした小学校社会科の授業 小学校6年、日本国憲法の授業を通して、主権者教育の方法について学ぶ。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。小テスト②に向けてこれまでの内容を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	1. 小テスト② 2. フィードバック: 前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 3. 小学6年生の歴史学習における、歴史上の人物の扱いと、その授業方法についての考察。	小テストの準備をする。これまでの講義資料を読み返し、自身の社会科指導計画・指導案の構想を立てる(90分)	社会科指導計画・学習指導案の作成を行い期日までに提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト 20% 2回の提出課題 40% 授業後のレスポンスシートの提出度 30% 授業への参加態度 10%	

その他	0	
教科書		
授業内でテキスト及び必要な資料を印刷配布する。		
参考文献		
・文部科学省(2019)「小学校学習指導要領」(HPでダウンロード可能) ・文部科学省(2019)「小学校学習指導要領解説社会編」(HPでダウンロード可能) ・唐木清志編著(2016)「公民的資質とは何か」(東洋館出版) ・池田考司・杉浦真理他(2020)「感染症を学校でどう教えるか」(明石書店)		
履修条件・留意事項等		
レポートなどの課題は締め切りを守ること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 生活				ナンバリング	3548
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員		高桑 純					
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。事前に、生活科概論を履修していること。							
授業の概要							
本科目においては、生活科概論で学習した、小学校生活科の目標、内容の理解を踏まえて、生活科の教材について学習、研究することを中心とする。また、指導計画作りや模擬授業を通して、小学校生活科の授業づくりについて学ぶ。 ①教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現) ③教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
① 生活科教材の学習や研究を通して、生活科の目標・内容の理解を深める。 ② 指導計画作りや模擬授業を通して、生活科の実践的指導力を身につける。							
授業の方法							
学生が作成した指導計画に基づいて、模擬授業を行う学習を中心に授業を進める。指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、学生同士の相互評価も行わせる。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、教科指導に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校生活科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した指導計画を相互評価する。模擬授業について、優れている点や改善点を意見交換する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明)。生活科教育の特徴や重点であるフィールド学習の重視、自立への基礎や育てる能力・態度などの意義について再確認させる。 生活科学習における情報機器の活用やICT教育について説明する。	シラバスを読み授業内容を確認。(90分)	オリエンテーション資料の内容を復習。(90分)
担当教員			
第2回	指導計画についての学習と模擬授業の行い方の指導。 学習内容(1)～(9)について、実際に行う内容の選択。	学習指導要領を熟読し、模擬授業を行う内容・単元の検討。(90分)	模擬授業を行う内容・単元の検討。(90分)
担当教員			
第3回	学習内容(1)～(9)について、実際に行う内容の選択と指導計画の作成、模擬授業の準備。 指導計画の作成においては、ICT技術を効果的に活用するよう指導する。	模擬授業を行う内容・単元の検討。(90分)	模擬授業を行う班ごとに、指導計画の作成、模擬授業の準備にかかわる話し合い。(90分)
担当教員			
第4回	フィールド学習の模擬授業① 大学構内(学校内)を散策・探検する授業作りと模擬授業。30分を2コマ。	校舎を使ったフィールド学習の意義について、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			

第5回	フィールド学習の模擬授業② 近郊の原っぱや公園を散策・探検する(自然観察)授業作りと模擬授業。30分を1コマ。	近郊の自然を活用したフィールド学習の意義について、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第6回	フィールド学習の模擬授業③ 近郊の商店や公園を散策・調査する授業作りと模擬授業。30分を1コマ。	近郊の商店や公園などのフィールド学習について、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第7回	フィールド学習の模擬授業④ 地域の公共物、公共施設を活用した授業づくりと模擬授業。30分1コマ。	地域の公共物、公共施設を活用した授業づくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第8回	ここまで行われた模擬授業について、評価票を確認しながら、指導計画や模擬授業について、改善点を考えさせる。また、相互評価の交流などを通して、望ましい授業づくりについて考えさせる。交流にはICT機器の活用も行う。	これまでの模擬授業について、各班の指導計画の再読。(90分)	模擬授業の改善点のまとめ。相互評価に基づく指導案の改善。(90分)
担当教員			
第9回	ものづくりの模擬授業① 身近なものや材料を使った実際のものづくりや作ったものを使った遊びの模擬授業を行う。楽しく、数人で遊ぶ工夫点や安全面への配慮も考えさせる。30分を2コマ。	ものづくりにかかわる授業づくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第10回	ものづくりの模擬授業② 季節(秋)を考慮し、季節の素材を使ったものづくりや作ったものを使った遊びの模擬授業を行う。。安全面への配慮も考えさせる。30分を2コマ。	季節(秋)を考慮し、季節の素材を使ったものづくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			

第11回	ものづくりの模擬授業③ 身近なものや材料を使ったおもちゃづくりの模擬授業を行う。楽しく、数人で遊ぶ工夫点や安全面への配慮も考えさせる。30分を2コマ。	身近なものや材料を使ったおもちゃづくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第12回	自分の成長に関する模擬授業① 実際の自分の写真や日記の活用、手紙の作成やインタビューのシミュレーション等を行う。工夫点や配慮面も考えさせる。2年生に向かう気持ちを持たせる工夫を考える。30分を2コマ。	自分の成長に関する授業づくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の準備。(90分)
担当教員			
第13回	自分の成長に関する授業② 実際の自分の写真や日記の活用、手紙の作成やインタビューのシミュレーション等を行う。工夫点や配慮面も考えさせる。3年生に向かう気持ちを持たせる工夫を考える。30分を2コマ。	自分の成長に関する授業づくりについて、解説書の確認。(90分)	今回の模擬授業の評価と自分の模擬授業の改善。(90分)
担当教員			
第14回	後半の5回の模擬授業について、評価票を確認しながら、指導計画や模擬授業について、改善点を考えさせる。また、相互評価の交流などを通して、望ましい授業づくりについて考えさせる。交流にはICT機器の活用も行う。	後半の模擬授業について、各班の指導計画の再読。(90分)	自分たちの改善点の話し合いと他の班の改善点についてのまとめ。 相互評価に基づく指導計画の改善。(90分)
担当教員			
第15回	生活科の授業づくりについての要点整理をしながら、自分が作成した指導計画の改善を行う。改善した指導計画を全体でまとめ指導計画集を作成する。 単元の指導計画の作成、内容の留意点など、学習指導要領解説書の要点を説明する。	生活科の授業づくりについて、配布資料や各班の指導計画を確認。(90分)	単元の指導計画の作成、内容の留意点など、解説書の要点を復習する。 改善した指導計画の提出。指導計画集の作成。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導計画(20%) 模擬授業(40%) 相互評価の結果(10%) 相互評価票の提出(20%) その他授業への取組みの姿勢等(10%)	

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 音楽				ナンバリング	3550
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	今井 由恵						
授業の位置づけ							
①こどもの教育に関する専門科目「小学校教職科目」分野の科目であり、教育者としての教育的能力、成長・発達を支援するための基本的資質、より適切な教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度を身に付けるための科目である。 ②「教職原論」「基礎音楽」「表現Ⅰ 幼児音楽1・2」「保育内容指導法(音楽表現)1・2」と関連し、実技に関しては「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」に連続する。							
授業の概要							
小学校の教科音楽における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科音楽の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。あわせて、教員が音楽の楽しさを伝える授業を展開するために必要な、自身の豊かな感性を育むことを目指す。							
到達目標							
・学習指導要領における音楽科の目標、主な内容、全体構造などについて把握し、述べることができる ・指導上の留意点、および学習評価の方法について理解し、実践を想定した考察ができるようになる ・指導案作りや模擬授業を通し、表現と鑑賞、〔共通事項〕を関連付けた授業構成を考えるようになる ・歌唱共通教材の実技と指導法、及び身近な楽器の奏法と指導法を身に付け、積極的な実践ができる ・効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた、情報機器の活用や教材の工夫などを考察し、実践できるようになる							
授業の方法							
①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディア、ICTなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。							
ICT活用							
本学の環境に適した、タブレット端末(あるいはスマートフォンなど)や電子黒板を用いた実践を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストにおいてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬授業については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:授業の概説、および教育実習と教員採用試験までの見通しをたてる	ガイダンスまでに、テキストP8～11とP114～115、解説書P1～8を熟読する。(90分)	テキストを読み直し、これまでに会った教師について振り返り、自身が目指す教師像についてまとめる(次週提出)。(90分)
担当教員			
第2回	初等科音楽の概説1:音楽科の目標、指導内容 小学校における音楽科の目標と指導内容について、学習指導要領に沿って学ぶ	テキストと解説書の関連箇所を目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:うみ、かたつむり、日のまる(120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第3回	初等科音楽の概説2:[共通事項]、情報機器の活用と教材の工夫について [共通事項]、情報機器および教材の活用について、学習指導要領とテキスト、実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所を目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:ひらいたひらいた、かくれんぼ、春がきた(120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第4回	初等科音楽の概説3:学習指導計画・音楽学習の評価、および「今日的課題」について 学習指導計画、教育評価と他教科等との関連や校種間の連携などの諸課題について、テキストに沿って学ぶ	テキストと解説書の関連箇所を目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:虫のこえ、夕やけこやけ(120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第5回	表現1:歌唱について1 歌唱における意義や留意点、および児童の発達段階に準じた指導法を、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:うさぎ、茶つき (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第6回	表現2:歌唱について2 児童の歌う心を引き出す方法、伴奏の基本、および指揮について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:春の小川、ふじ山 (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、指揮法の復習と、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第7回	表現3:器楽について1 器楽における意義や留意点、および鍵盤ハーモニカ・打楽器の奏法の基本、指導法について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:さくらさくら、とんび (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、楽器奏法の復習と、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第8回	表現4:器楽について2 リコーダーの取り扱い、および奏法の基本、指導法について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、リコーダーの運指の確認を行う。伴奏付き歌唱:まきばの朝、もみじ (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、リコーダー運指の確認と、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第9回	表現5:音楽づくりについて 音楽づくりにおける意義や留意点、指導法について、視聴覚教材とテキストを用いて学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:こいのぼり、子もり歌 (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第10回	鑑賞について 鑑賞における意義や留意点、指導法について、テキストを用いて学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:スキーの歌、冬げしき (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第11回	学習指導案の作成 学習指導案の書き方を学び、模擬授業に備える ※ICTを活用した指導法を含む	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:越天楽今様、おぼろ月夜(120分)	テキストを読み返し、理解を深め、指導案を完成させることと、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第12回	和楽器への誘い:箏の特別講義 箏の取り扱い方、奏法の基本などについて、実践を通して学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストP74～75と、5・6年生教科書の箏に関するページに目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:任意曲(120分)	箏に関する資料を読み返し、ポイントをまとめ、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第13回	模擬授業1 作成した指導案をもとに模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:ふるさと、われは海の子(120分)	模擬授業を通して見つけた課題について、コメントをまとめる準備をする。(60分)
担当教員			
第14回	模擬授業2 前回に引き続き模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:任意曲(120分)	模擬授業を通して見つけた課題について、コメントをまとめる準備をする。(60分)
担当教員			
第15回	模擬授業3、振り返りとまとめ 前回に引き続き模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する 模擬授業全体の振り返りと、まとめるを行う	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:任意曲(120分)	実践に活かすために必要な基礎知識の補填を行い、模擬授業などは学生同士で更に経験を積むよう心がけること。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	35	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%)	

その他	65	学習指導案の作成(15%) 模擬授業と全体討議(20%) 歌唱共通教材の弾き歌い2曲(30%)
教科書		
最新初等科音楽教育法 2017年告示／音楽之友社 小学校学習指導要(平成29年告示)領解説 音楽編／東洋館出版社 小学校音楽教科書(1～6年)		
参考文献		
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】／東洋館出版社 その他の参考資料は、授業の中で適宜配布、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
・五線ノートと、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ(いずれも小学校で使用した楽器でよい)を準備のこと。 ・毎時実践する歌唱共通教材の弾き歌いの練習を欠かさないこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		特別支援教育総論				ナンバリング	3570
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
この授業はディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。児童の多様な実態に応じた発達支援について学び、成長・発達を支援するための基本的資質を身につけ、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるものである。この科目は知的障がい教育Ⅰ・Ⅱにつながるものであり、特別支援教育の重層化した全体像の理解を深めることができる。							
授業の概要							
この講義では、障害児教育の歴史的背景を俯瞰し、特別支援教育の意義や全体像を明らかにするものである。障害という個別的・事例的に捉える必要のある問題を構成している諸要因を明らかにし、それらに関わる基礎的知識を教育・医療・福祉など多方面から学ぶことにより、障害者個々のニーズに応じた発達支援のあり方(特別支援教育の基本的な枠組み)を理解する。							
到達目標							
(1) 特別支援教育の全体像を把握し、障害という現象を構成している諸条件を踏まえて学習し、記述することができる。 (2) 発達論・認知論的観点から特徴的な実践事例について学び、特別支援教育の現状について理解を深め、説明することができる。 (3) 特別支援教育に関わる諸問題ならびに解決に向けた具体的方策について理解し、説明することができる。							
授業の方法							
ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。							
ICT活用							
パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション:授業のテーマや到達目標を理解し、各自の目標を設定する	特別支援教育の目的について自分の考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第2回	ICD-10,DSM-5など医療的な視点から発達障害を学習し、診断名だけではなく個々の実態から必要な支援を構築していくことの大切さを理解する。	ICD-10,DSM-5について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	心理検査について学習し、WISC-IVやKABC-II等の知能検査の特徴や分析方法、客観的な実態把握の重要性や個別的教育支援計画・個別の指導計画作成への活用について理解する。	心理検査の目的や種類について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第4回	認知論、発達論、行動論に基づく子ども理解を学習し、より多面的な実態把握と個に応じた支援について理解する。	これまでに学習した教育学・教育心理学の概要についてまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第5回	自閉症について学習し、当事者の声をもとに支援のあり方について理解する。	自閉症の主な特徴について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	LD、ディスレクシアについて学習し、当事者の声をもとに支援のあり方について理解する。	LDの主な特徴について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第7回	ここまでの学習を振り返り、学校現場における特別支援教育推進のポイントについて整理する。(小テストの実施)	1～6回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	講義内容についてキーワードをもとに整理し、自身の作成した小レポートを振り返りながら自分の考えを整理する。(90分)
担当教員			
第8回	発達障がいのある二次障がいとしての少年犯罪について学習し、早期からの支援の重要性について理解する。	発達障がいのある二次障がいについて調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第9回	特別支援学級の実践(教育課程編成、教室環境、年間行事、交流及び共同学習)について具体例をもとに理解する。	特別支援学級の学級種について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第10回	通常学級における特別支援について学習し、学びのユニバーサルデザイン・合理的配慮について事例をもとに理解する。	学びのユニバーサルデザインについて調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第11回	認知機能を高める指導法(コグトレ、感覚統合、ビジョントレーニング)について学習し、目的や指導のポイントについて理解する。	認知機能について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第12回	関係機関との連携について学習し、各機関の役割や連携上の留意点について理解する。	特別支援教育における連携機関について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第13回	学ぶことが困難な状況にある生徒への支援の在り方を、資料映像視聴を通して理解し、考察することができる。(前編)	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学ぶことが困難な状況にある生徒への支援の在り方を、資料映像視聴を通して理解し、考察することができる。(後編)	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第15回	授業全体を振り返り、学習内容の定着を図る。(最終レポート作成)	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 第7回で実施する小テスト(10%) 毎回提出する振り返りシート(10%) 授業への参加度・出席態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
なし(適時資料を配布する)		
参考文献		
はじめての特別支援教育「あるある事例」の解決法98 青山真二監修 図書文化 2022		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得の必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		知的障がい教育Ⅱ				ナンバリング	3573
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
この授業はディプロマ・ポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)」に特に関連する科目である。理解面に困難さがある幼児・児童・生徒に対する基本的な知識、および適切な支援・指導のための基本的資質を身に付けつけ、それを土台に個別の教育的ニーズに対応している現場の取組に触れることで、共生社会を目指す上で教育について常に思考し「学びに困難さのある児童のよき理解者」になることができる科目である。知的障がいⅠをより発展させ、特別支援教育総論と合わせて受講することで特別支援教育についての理解をより深めることができ、3年次のこども学総合演習Ⅰ・Ⅱに続き、さらに4年次の卒業研究へと発展する科目として位置づけられる。							
授業の概要							
知的障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。							
到達目標							
知的障がいのある幼児、児童又は生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。							
授業の方法							
ICT機器や映像を多用しながら、知的障害について、よりわかりやすい授業を進めるように工夫し、特に、授業動画の視聴など実際例を紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導案作成、教材作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。							
ICT活用							
パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション:授業で何が学べるのかを理解し、各自の目標を確認する。	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築」に関する資料(中教申、平成24年7月)を調べておく。(90分)	授業の振り返りをしておく。(90分)
担当教員			
第2回	知的障がいのある児童生徒の発達と学習の特性(スモールステップ・繰り返し・具体物を使った活動)について、配布資料を基に学習する。	知的障がいについて自分の考えをまとめておく(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	知的障がいのある児童生徒の発達と学習の特性(スモールステップ・繰り返し・具体物を使った活動)について、実践例を基に学習する	特別支援学校、特別支援学級における授業のポイントについて調べておく。(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	知的障がいのある児童生徒の指導における配慮事項①～学習指導案作りのポイントについて、授業動画や作成例を基に学習する。	特別支援教育における指導案の様式について調べておく。(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	知的障がいのある児童生徒の指導における配慮事項②～個別目標、指導の手立ての策定について、授業動画や配布資料を基に学習する。	学習指導要領の該当箇所について読み込んでおく。(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計①(国語1)～国語科の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成する。	特別支援教育における国語科の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	自身の作った略案や教材を再検討し、改善を図る。(90分)
担当教員			
第7回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計②(国語2)～各自の作成した指導略案と教材を基に模擬授業ならびに事後検討会を行う。	自身の作った略案や教材を基に、模擬授業に向けた準備をする。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計③(算数1)～算数科の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成する。	特別支援教育における算数科の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	自身の作った略案や教材を再検討し、改善を図る。(90分)
担当教員			
第9回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計④(算数2)～各自の作成した指導略案と教材を基に模擬授業ならびに事後検討会を行う。	自身の作った略案や教材を基に、模擬授業に向けた準備をする。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第10回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計⑤(生活単元学習)～生活単元学習の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における生活単元学習の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			

第11回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計⑥(日常生活の指導)～日常生活の指導の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における日常生活の指導の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計⑦(自立活動)～自立活動の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における自立活動の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第13回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場면을想定した授業設計⑧(道徳)～道徳の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における道徳の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	特別支援学級のおかれている位置や意義について、交流及び共同学習を中心に学習する。	交流及び共同学習について調べておく。(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる(レポートの作成作業に着手する)。	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 毎回提出する振り返りシート(15%) 授業への参加度・出席態度(15%)	

その他	0	なし
教科書		
なし(適時資料を配布する)		
参考文献		
特別支援学校学習指導要領解説 総則編 平成30年3月 文部科学省		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得の必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		肢体不自由児教育Ⅱ				ナンバリング	3577
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下 秀樹、白幡 知尋						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「保育者・教育者・子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている【知識・技能】と特に関係する科目である。特別支援専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。肢体不自由児教育Ⅰ(2年前期)、を基礎とし、重複障がい教育総論(4年)の基礎となる。							
授業の概要							
特別支援学校や特別支援学級、医療機関等での肢体不自由児教育における教育方法や支援方法を学ぶことを目的とする。日々の授業が、肢体不自由のある幼児・児童・生徒の現在および将来の生活にとってより有意義なものとなるよう、個別的教育支援計画、個別の指導計画と授業づくりとの関連性について学ぶ。また、現在日常的に実施されている医療的ケアや摂食指導の取り組み、社会参加のためのキャリア教育や進路支援、情報機器、補助具等の活用等について学ぶ。							
到達目標							
① 通常学校や特別支援学校、医療機関等での肢体不自由児教育における様々な教育の現状を説明することができる。 ② 社会参加に必要な力を育むための授業づくりについて、関連する知識や指導法の基本を説明することができる。 ③ 基盤となる自立活動の指導や身体の仕組み、医療的ケア、摂食指導、センター的役割等の現状を知り、今後の課題について討議することができる。							
授業の方法							
パワーポイントおよび配布物を用いて、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。毎回、宿題・予習プリントを配布し、集中して授業に取り組めるようにする。 途中、5回目・10回目に小テストを実施し、授業内容の確認・整理に努める。 最終回に、まとめのテストを実施する。							
ICT活用							
毎時間パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいや医療的配慮等に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

肢体不自由特別支援学校及び医療機関での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的にわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。(山下)
理学療法士としての医療機関および養護学校勤務の経験から、臨床を基にした肢体不自由児への理解を図る。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、返却時に回答例を解説することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション、学校制度と特別支援教育】 講義の概要と今後の予定、及び受講上の注意について周知する。日本の学校制度における特別支援教育の歴史を振り返る。肢体不自由児の保育や教育の現状とその就学制度について解説し、障がいのある幼児、児童、生徒の就学の在り方について考える。(山下・白幡)	肢体不自由者について、教科書や図書などから調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	【通常学校での肢体不自由児教育】 通常学級や肢体不自由児学級での肢体不自由児教育の現状を調べ、通常学校での課題を整理する。また、インクルーシブ教育や特別支援教室を紹介し、通常学校での肢体不自由児教育の在り方を考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【特別支援学校での肢体不自由児教育】 全国や北海道の肢体不自由特別支援学校の配置や在籍数、障がい状況等を調べ、北海道の肢体不自由障がいのある子どもたちの就学や教育相談の在り方について考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	【授業づくりの工夫Ⅰ 授業について考える】 授業とは、授業づくりとは何かを今までの学習から考える。通常学級と特別支援学校での授業の共通点、違いや特徴を解説し、授業づくりの視点や学習課題を整理する。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	【授業づくりの工夫Ⅱ 授業の組み立てと学習指導案】 個別の指導計画や日常の観察から授業の組み立てに必要な情報を取り出し、目標や学習内容、方法指導を考え初歩的な指導案づくりを行う。指導案の評価や活用についてグループごとに考えて発表する。第1回小テストを実施する。(山下・白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【学級経営の在り方】 学級担任の役割をまとめ、学級経営の大切さを考える。学級経営案について解説し、学級づくりのための日常指導の要点や保護者との連携の在り方についての理解を図る。(山下)	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	【幼稚部、小学部の教育】 入門期となる幼稚部や小学部教育の基盤となるものは何かを指導事例から考える。豊かな感性を育み一人一人の持つ良さや可能性を伸ばす教育について解説し、そのために必要な指導の在り方について解説する。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	【中学部、高等部の教育】 社会の中でたくましく生きていくために必要な力は何かを指導事例を通して考え、ニーズに応じたキャリア教育や移行支援計画の活用の視点から、卒業までの教育の在り方を考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	【自立活動指導の実践Ⅰ 目標と内容、コミュニケーション】 自立活動の目標及び教育課程上のおさえについて解説し、6つの区分と27項目の内容について理解を図る。また、コミュニケーションに関する障がいや困難点を調べ、指導や補助具の活用を考えると共に、最新のコミュニケーション支援機器やIT関連機器を導入した指導について紹介する。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	【ICFと日常生活活動】 肢体不自由児の身体状況とICFの考え方に基づいた自主生活活動のとらえ方、社会参加について考える。(白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	【医療機関における医療的ケアの実情】 医療的機関における肢体不自由児に係る医療的ケアの実情と対応について紹介する。(白幡)	小テストの振り返り及び、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第12回	【医療的ケアと摂食指導】 肢体不自由児教育に携わる養護教諭より、特別食による摂食指導や学校での医療的ケアの歴史や現状の取り組みを学び、必要とする障がい児の実態や教育の場で身につけたい技能や知識についての初歩的な理解を図る。(白幡・山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第13回	【自立活動指導の実践Ⅱ 移動手段】 肢体不自由児の移動に関する様々な器具やその使用方法等について説明をし、体験活動等を通じて肢体不自由児の困難点などについて考え、理解を図る。(白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第14回	【自立活動指導の実践Ⅲ 姿勢や運動動作】 肢体不自由児教育に携わる自立活動教諭から特別支援学校での運動動作の指導やポジショニングについて学び、指導上の要点や配慮事項を理解し、医師をはじめとする関係者との連携の在り方について考える。(白幡・山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 肢体不自由教育の展望】 今回の講義を振り返り、キーワードから要点を整理する。さらに、肢体不自由児教育で学んだ感想や疑問点を出し合い肢体不自由児教育の未来について考える。 まとめのテストを実施する。(山下・白幡)	次回の学習内容に関わる箇所及びまとめのテストに向けて全体の授業内容について確認をしておくこと。(90分)	配布プリント及びまとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 2回の小テスト(20%) まとめのテスト(30%)	

その他	0	
教科書		
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部) 平成30年3月 文部科学省		
参考文献		
改訂版 肢体不自由児の教育 川間健之介・西川公司 放送大学教育振興会		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。 宿題・予習のプリントは、必ず提出すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		視覚・聴覚障がい教育				ナンバリング	3582
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	福山 紀枝子、佐藤 靖典						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会にと保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの 実態に即して成長・発達を支援する基本的な資質を身につけている【知識・技能】」ことと関係する科目であり、視覚及び聴覚に障がいのある幼児、児童生徒の特性などを理解し、基礎的・基本的な知識を修得する科目である。さらに、「特別支援教育総論」及び「視覚・聴覚 障がい者の心理・生理・病理」と関連し、「特別支援教育実習」の基礎となる。							
授業の概要							
本授業は、特別支援教育に関する視覚障がい児及び聴覚障がい児の教育課程及び指導法に関する科目として、視覚障がい教育及び聴覚障がい教育の 国内外の教育の歴史、就学制度を含む教育の制度、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成、重複障がい者等に関する教育課程の取扱い などによる教育課程編成について学ぶ。 視覚障がい及び聴覚障がいを教育する特別支援学校学習指導要領に示された配慮事項に基づく指導内容・方法、点字指導・歩行指導・視覚補助具の指導や聴覚口話法・指文字・手話、各種情報機器等の活用についての基礎的知識について学ぶ。							
到達目標							
視覚・聴覚障がい児の主たる疾患等や視覚・聴覚障がい教育の教育課程の編成、自立活動等に係る教育内容・方法の基礎的・基本的事項について理解できる。 視覚・聴覚障がい児教育の教育課程編成に係る基礎的知識を身に付けることができる。							
授業の方法							
スライド及び配布資料により、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。 フィードバックとして振り返りのミニレポートなどによる理解度の確認を行う。							
ICT活用							
毎時間スライドを活用し、視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係る動画を視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

特別支援学校(視覚障がい・聴覚障がい)での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的にわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして振り返りのミニレポートなどによる理解度の確認を行う。また、全体にフィードバックした方がよい内容については、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜テーマ＞「特別支援学校(聴覚障がい)の教育課程の編成」 教育課程の編成、対象と学びの場、特別支援学校(聴覚障がい)の現状を知り、聴覚障がい教育の概要を学ぶ。	1年次に履修した聴覚障がい者の心理・生理・病理」を復習する。(90分)	特別支援学校(聴覚障がい)の教育の特徴についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第2回	＜テーマ＞「聴覚障がいのある幼児・児童への学習援助」 発達段階に即した学習援助について、言語指導(日本語の指導)を中心に学ぶ。	聴覚障がいによる聞こえにくさと言語発達の遅れについて復習する。(90分)	聴覚障がいのある幼児・児童への学習援助についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第3回	＜テーマ＞「聴覚障がいのある生徒への学習援助」 発達段階に即した学習援助について、言語指導(日本語の指導)を中心に学ぶ。	聴覚障がいによる聞こえにくさと言語発達の遅れについて復習する。(90分)	聴覚障がいのある生徒への学習援助についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		
第4回	＜テーマ＞「聴覚障がい教育の課題」 聴覚障がい教育の今日的な課題を把握する。 ＜まとめのテスト＞ 聴覚障がい教育に関するまとめのテストを実施する。	講義内容を振り返る。 まとめのテストに向けて、聴覚の全体の学習内容について確認する。(90分)	聴覚障がい教育の課題についてまとめる。 まとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 靖典		

第5回	＜テーマ＞「視覚障がい教育の歴史と教育制度」 視覚障がい児教育の歴史から現行のインクルーシブ教育制度下での教育内容や学ぶ場について説明し、障がいの程度や状況を踏まえた就学や教育的ニーズへの支援の観点から必要な教育課程について考える。	視覚障がい教育の歴史について調べる。(90分)	視覚障がい教育の歴史と学ぶ場についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第6回	＜テーマ＞「視覚障がい児の教育的課題と個別の指導計画」 個別の指導計画の作成及び視覚障がい児(全盲児・弱視児)と重複障がい児の障がい特性や指導内容・方法の違いを踏まえ、学習や生活指導の基盤となる概念学習及び触察、空間認知などの技能について説明する。	触察について調べる。(90分)	触察指導と点字の関係についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第7回	＜テーマ＞「視覚障がい児指導の実践Ⅰ」 特別支援学校(視覚障がい)の配慮事項及び点字の構成や具体的な触読について紹介し、点字指導の内容や方法を学習する。また、弱視児のための拡大鏡や教科書等の視覚補助具について紹介する。	点字の構成について調べる。(90分)	弱視児への支援機器についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
第8回	＜テーマ＞「視覚障がい児指導の実践Ⅱ」 幼児期のボディイメージから白杖操作までの歩行指導の在り方、職業指導と進路指導及び視覚障がい児の情報機器の活用について説明する。 ＜まとめのテスト＞ 視覚障がい教育に関するまとめのテストを実施する。	歩行指導等について調べる。 まとめのテストに向けて、視覚障がい教育の全体の学習内容について確認する。(90分)	まとめのテストの振り返り及び視覚障がい者の社会参加についてまとめる。(90分)
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(20%) 授業への参加態度(20%) 授業内での発表状況(15%) レポート提出(15%) 各障がいごとの4回目にまとめのテストを実施する(30%)	
その他	0		
教科書			

なし
参考文献
新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアーズ教育新社 1年次の使用教科書
履修条件・留意事項等
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		発達障がい等教育総論				ナンバリング	3586
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係する科目である。 特別支援教育の専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。 特別支援教育総論の学びがベースになっている。							
授業の概要							
発達障がいに含まれる主なものとして、限局性学習症(LD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)などがあげられる。ここでは、障がいという問題を構成している諸要因の関連の枠組みの中で、こうした特徴を持つ人々の課題と解決の糸口を学ぶ。							
到達目標							
① LD、ADHD、ASDなど、多様なこどもの認知や行動特性を理解できる。 ② こうした特徴を持つ人々の認知や行動特性が社会的場の中で、どのようにして他者とのかかわりのひずみを生じさせているかを、関係論的観点からも理解を深め、支援の手がかりを発見する。 ③ 自分自身の認知や行動特性を知ることを通して、発達障がいのある児童生徒に対する理解を深め、説明することができる。							
授業の方法							
授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせで行う。アクティブな学習環境を提供し、受講学生中心の授業展開とする。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、発達障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	●オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や、研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。発達障がいに対してもっているイメージや、各自のこれまでの経験を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	●ASDについて① ASDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ASDの概念についてこれまでの学びを確認する。(90分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	●ASDについて② ASD当事者が書いた文章や、映像を通して、ASD当事者の内的な体験世界への理解を深める。	ASDの概念について調べる。(90分)	配布されたプリントを参考にして、ASDの特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	●ADHDについて ADHDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ADHDの概念についてこれまでに学んだことをまとめておく。(90分)	配布されたプリントを参考にして、ADHDの特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	●LDについて LDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	LDの概念についてこれまで学んだことをまとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、LDの特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●こどもがもつ多様なニーズ① 発達障がいの視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを知り、こどもの思いに寄り添うこととは、どのようなことなのかを学ぶ。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	●こどもがもつ多様なニーズ② 発達障がいの視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを学び、こどもを理解するための視野を広げる。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、こどもがもつ多様なニーズについてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	●障がいと共にある人への社会のサポート① 障がいと共にある人への社会のサポート体制について、乳幼児期から成人期まで整備されている様々なサポートの全体像を学ぶ。	障がいと共にある人への社会のサポートについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、社会のサポート機能についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	●障がいと共にある人への社会のサポート② 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。	児童発達支援について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、児童発達支援についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	●障がいと共にある人への社会のサポート③ 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。この回は特に、放課後等デイサービスについて学ぶ。	放課後等デイサービスについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	●障がいと共にある人への社会のサポート④ 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。この回は特に、放課後等デイサービスの具体的な支援内容について学びを深める。	様々な放課後等デイサービスの具体的な支援内容について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	●「できた」を増やす支援① 子どもの「できた」を増やす支援の道具の具体例を学び、自分で作成するための計画を立てる。	ユニバーサルデザインについて調べる。(90分)	子どもの「できた」を増やす支援の道具を作成するための計画書を完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	●「できた」を増やす支援② 子どもの「できた」を増やす支援の道具を作成する。	子どもの「できた」を増やす支援の道具の計画書を元に必要な道具を集める。(90分)	子どもの「できた」を増やす支援の道具を完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	●「できた」を増やす支援③ 自分で作成した、子どもの「できた」を増やす支援の道具を交流し合い、理解を深める。	子どもの「できた」を増やす支援の道具について、仲間に伝える準備をする。(90分)	他の学生が作った支援の道具について、自分の考えをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(50%) 制作活動、ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度(50%)	

その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		
続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる 金子書房		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		教育実習指導Ⅱ				ナンバリング	3850
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	森田 弘行、村越 含博						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる（思考・判断・表現）」ことを重視した科目である。 また、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている（思考・判断・表現）」ための科目である。小学校教育実習（4年前期）、教職実践演習（4年後期）の基礎的な資質能力を身につける科目として位置づけられる。							
授業の概要							
教員を目指す学生が、教育実習の基礎的理解、技術習得、要領等について学び、実習の心構えを確実なものとする。そのため教育実習の意義と目的、形態や方法、授業実践の基本や技能習得等について理解を深める。 教員としての資質を磨き、実践に結び付くように演習では様々な教育活動の場を想定して実践的に行う。							
到達目標							
指導案作りや模擬授業などの演習がメインとなるが、パワーポイントと配布物、そして視聴覚メディアを活用しながら行い、学生の質問や対話を多く取り入れていく。 毎回、小学校の教育現場における具体的な事例を提示し、「学級経営のあり方」とや「指導案や板書の重要性」に気付かせる。可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び(＝アクティブラーニング)ができるような工夫をする。課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。							
授業の方法							
毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいように教育課程や単元構成の構築について解説する。 また、デジタル黒板、実物投影機、スライド黒板などを連動させた、板書指導や模擬授業作りの場を設定する。							
ICT活用							
毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいように教育課程や単元構成の構築について解説する。 また、デジタル黒板、実物投影機、スライド黒板などを連動させた、板書指導や模擬授業作りの場を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

小学校教員として35年勤務した経験を生かして、学校教育の在り方や教育課程などの授業を行う。
また、教育実習生の指導担当教員としての経験も多くあり、教育実習における心構え、指導案作成、生徒指導、板書指導の知識、知見を有している。
この経験を生かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。
また、模擬授業や指導案作成については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【教育実習の意義や内容、要領について理解する】 大学の学びと実習、教員の資質、実践研究、実践的な能力、倫理性を高める基礎訓練について理解することが目的となる。 具体事例から、教職につくための要件や教育現場の実態と今日的な課題について学ぶ。(森田)	教育実習ハンドブックをひと通り、しっかり読んでおくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第2回	【教育実習の心構え】 介護等体験をふまえて、教員として求められる資質や実習の心構えについて話し合い課題意識を持つことの大切さを理解する。 特に使命感、責任感、教育的愛情、知識・理解、指導力、コミュニケーション力の重要性について学ぶ。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第3回	【学校教育と教育法規】 本P46-P49 法規により教員は校長を中心とした学校組織の一員として教育に当たっていることを理解する。 特に法令の体系、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、政令、省令、校務分掌などについて学ぶ。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第4回	【学校教育と教育課程】 学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を考慮した教育課程によって教育活動が行われていることを学ぶ。 日本各地の小学校の教育課程が今日的な教育課題を踏まえていることを主体的に対話しながらか深く理解する。(森田)	事前に配布された幼小と発達に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第5回	【今日の教育課題】 グループ討議を行い、学力・いじめ・不登校・虐待・ICT活用・危機管理等について深く学ぶ。 また、教育課題ごとに、現状と対策、意見を交流することで、新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的・深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」などを理解する。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第6回	【小学校における1年間の学校行事・活動と担任としての役割】 今時の学校校舎・子供の様子を知り、楽しい授業の作り方を学ぶ。実際に子どもが意欲的になる各教科の授業を再現し、理解を深める。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第7回	【指導案作りに向けてその1】 「指導案の作り方と板書計画の関連性を理解する。これまでの各教科教育法、各教科指導論を踏まえ、子どもの実態に即した指導案作りの基礎基本を確かめる。従来型の指導案と構造型の指導案を比較し、その違いを理解する。	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第8回	【授業作りに向けてその2】 従来型指導案から板書計画を立て、望ましい板書の仕方を学ぶ。 授業デザインと板書計画の関連から板書の意図や子どもの思考の流れをについて検討し、理解を深める。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第9回	【授業作りに向けてその3】 構造型指導案から板書計画を立て、望ましい板書の仕方を学ぶ。 授業デザインと板書計画の関連から板書の意図や子どもの思考の流れをについて検討し、理解を深める。 (色々なタイプの板書を知る) また、アクティブラーニング型の授業についてもグループワークで検討しながら理解する。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第10回	【指導案の構成と単元計画】 実際の指導案作りを通して、従来型と構造型の違いについて不明な点や指導案と板書をリンクさせていく方法について議論を深めながら理解する。また、単元計画の再検討や教師の児童への支援の在り方についても検討し、理解を深める。(森田)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第11回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその1 作成してきた指導案をもとに一人14分間の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (森田・村越)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。 (25分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員			
第12回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその2 作成してきた指導案をもとに一人14分間の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (森田・村越)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。 (25分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員			
第13回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその3 作成してきた指導案をもとに一人14分間の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (森田・村越)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。 (25分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員			
第14回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその4 作成してきた指導案をもとに一人14分間の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (森田・村越)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。 (25分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員			
第15回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその5 作成してきた指導案をもとに一人14分間の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (森田・村越)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読むこと。 (25分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物 ・5点(小課題)×10回＝50点 ・小テスト10点 ・模擬授業10点・模擬授業指導案10点 ・3教科全体指導案10点 相互評価10点	

その他	0	なし
教科書		
・保育実習、教育実習ハンドブック(すでに配布済み) ・小学校国語(光村)1年上 かざぐるま: ・小学校国語(光村)3年上 わかば ・小学校国語(光村)4年下 はばたき ・小学校国語(光村) 5年 銀河		
参考文献		
各教科概論や各教科教育法で使用した教科書やノート、資料を活用する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅱ(1組)				ナンバリング	3806
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、保育・教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることのできる基礎力を得るための科目である。保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2を体験し、更に実践的実習である保育実習Ⅱへの準備を行う。							

保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障碍児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の実習に向かう姿勢を支えていく。(小田)

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育士としての必要なことを伝え、保育の重要性と楽しさを指導する。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。
提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、保育実習Ⅰ-2の評価 保育実習の意義と目的を確認し、実践的な学びの重要性について改めて理解する。保育実習Ⅰ-2に対しての自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。	保育実習Ⅰ-2の振り返り(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一、渡邊 堯宏		
第2回	保育士の専門性と職業倫理、「子どもの最善の利益」について 「保育所保育指針解説」や関連法規等に示された保育士の専門性、職業倫理について学ぶ。また、「子どもの最善の利益」を考慮した保育について具体的に学び、理解を深める。	「保育所保育指針解説」pp17～18の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領等)についての確認を行い、その概要についての理解を深める。	「保育所保育指針」の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	保育の観察と記録、評価について 保育における観察や記録、評価の意義について理解し、それらに基づく保育の改善の重要性について学ぶ。	保育実習Ⅰ-2で記述した実習日誌についての改善点の検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	「保育環境」への配慮について 保育環境を構成する上で配慮すべき点について学び、保育における環境の重要性について理解を深める。	「環境を通して行う教育」についての確認(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第6回	保育の計画と実践について① 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践について学ぶ。	保育指導案の作成法(保育実習指導Ⅰ)の復習(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第7回	保育の計画と実践について② 指導計画の作成、検討を通して、保育の計画の意義についての理解を深める。	保育指導案の作成(25分)	保育指導案の改善(20分)
担当教員	小田 進一		
第8回	保育の具体的な計画と実践① グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	小田 進一		
第9回	保育の具体的な計画と実践② グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第10回	保育の具体的な計画と実践③ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第11回	保育の具体的な計画と実践④ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第12回	保育の具体的な計画と実践⑤ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第13回	保育の具体的な計画と実践⑥ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	保護者支援について 保育士と保護者との関係性について理解し、保育所における保護者に対する支援の内容と関わり方について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2において学んだ保護者支援についてのまとめ(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第15回	実習課題の明確化 これまでの実習や学びについて振り返り、保育実習Ⅱに向けての自己課題を明確にする。	実習課題の内容検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ、実習課題の設定(20分)
担当教員	小田 進一、渡邊 堯宏		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(30) 指導計画(30)とその実践(20) 提出物(20)	

その他	0	なし
教科書		
ワークシートで学ぶ保育所実習 同文書院 2010年4月		
参考文献		
必要に応じて指定する。		
履修条件・留意事項等		
保育実習Ⅰ－1及び保育実習Ⅰ－2の単位を取得していること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅱ(2組)				ナンバリング	3806
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、保育・教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることのできる基礎力を得るための科目である。保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2を体験し、更に実践的実習である保育実習Ⅱへの準備を行う。							
授業の概要							
保育実習Ⅰ－2に対する自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。新たな実習課題の設定と共に、既習の保育の知識・技術を土台とした実践力の習得を図る。実習後は、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行ない、保育に対する課題や認識の明確化を図る。							
到達目標							
1. 保育について総合的な理解が深まり、既習の知識・技術を土台とした保育の実践ができる。 2. 保育の観察、記録等を生かした保育の改善についての理解が深まり、望ましい保育計画について考えることができる。 3. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。 4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。							
授業の方法							
保育実習の枠組みの理解については、パワーポイントと配布印刷物を使用した講義形式で実施する。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育(全6回)を中心に行う。毎回の授業において、コメントシートの記述を行う。							
ICT活用							
幼児たちの生活を知り、保育実践の理解を深めるためには、実践場面についての情報収集が必要である。写真のみならず映像なども活用するとともに、実践の場におけるポートフォリオの導入についても取り組む。 そのほか、提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。 また、適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障碍児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の実習に向かう姿勢を支えていく。(小田)

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育士としての必要なことを伝え、保育の重要性と楽しさを指導する。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。
提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、保育実習Ⅰ-2の評価 保育実習の意義と目的を確認し、実践的な学びの重要性について改めて理解する。保育実習Ⅰ-2に対しての自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。	保育実習Ⅰ-2の振り返り(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一、渡邊 堯宏		
第2回	保育士の専門性と職業倫理、「子どもの最善の利益」について 「保育所保育指針解説」や関連法規等に示された保育士の専門性、職業倫理について学ぶ。また、「子どもの最善の利益」を考慮した保育について具体的に学び、理解を深める。	「保育所保育指針解説」pp17～18の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領等)についての確認を行い、その概要についての理解を深める。	「保育所保育指針」の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	保育の観察と記録、評価について 保育における観察や記録、評価の意義について理解し、それらに基づく保育の改善の重要性について学ぶ。	保育実習Ⅰ-2で記述した実習日誌についての改善点の検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	「保育環境」への配慮について 保育環境を構成する上で配慮すべき点について学び、保育における環境の重要性について理解を深める。	「環境を通して行う教育」についての確認(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第6回	保育の計画と実践について① 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践について学ぶ。	保育指導案の作成法(保育実習指導Ⅰ)の復習(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第7回	保育の計画と実践について② 指導計画の作成、検討を通して、保育の計画の意義についての理解を深める。	保育指導案の作成(25分)	保育指導案の改善(20分)
担当教員	小田 進一		
第8回	保育の具体的な計画と実践① グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	小田 進一		
第9回	保育の具体的な計画と実践② グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第10回	保育の具体的な計画と実践③ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第11回	保育の具体的な計画と実践④ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第12回	保育の具体的な計画と実践⑤ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第13回	保育の具体的な計画と実践⑥ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	保護者支援について 保育士と保護者との関係性について理解し、保育所における保護者に対する支援の内容と関わり方について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2において学んだ保護者支援についてのまとめ(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第15回	実習課題の明確化 これまでの実習や学びについて振り返り、保育実習Ⅱに向けての自己課題を明確にする。	実習課題の内容検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ、実習課題の設定(20分)
担当教員	小田 進一、渡邊 堯宏		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(30) 指導計画(30)とその実践(20) 提出物(20)	

その他	0	なし
教科書		
ワークシートで学ぶ保育所実習 同文書院 2010年4月		
参考文献		
必要に応じて指定する。		
履修条件・留意事項等		
保育実習Ⅰ－1及び保育実習Ⅰ－2の単位を取得していること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅲ				ナンバリング	3810
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
この科目はディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行使用とする意欲・態度を身につける」に関連する科目である。 保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1と関連し、保育実習Ⅲの基礎となる。							
授業の概要							
本講義では、保育士として必要な資質・能力・技術の習得を目的としている保育実習Ⅲにむけた専門的、実践的な事前指導を行う。保育実習は、大学で学んでいる子ども観や保育観、講義等で習得した知識・技術・技能を実習という体験を通して、具体的、総合的に身につける。そして、これから更に学ばなければならない理論や身につけなければならない技能を実習現場の指導によって深く学ぶ。							
到達目標							
・ 保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、現場体験にむけて現実の「福祉」の意味を知り、説明することができる。 ・ 学内で習得した専門的知識・技術・技能を踏まえ実践力に応用できる。 ・ 観察、記録自己評価などを踏まえ実践の場の改善に適用できる。 ・ 実習を通して学ばなければならない理論、専門性や倫理綱領について述べることができる。 ・ 身につけなければならない技術を適用することができる。							
授業の方法							
パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式とグループ学習を進めていく。 また、福祉施設や福祉サービス事業などに関して、調査学習によってレポートをまとめる。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題などにコメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・福祉施設実習の目的と意義について学ぶ。 ・保育実習(福祉施設)の概要(実習の位置づけ、実施基準、保育実習Ⅲの内容等)について学ぶ。	本講義の内容(シラバス)を確認する。(25分)	実習の概要についてまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	福祉施設における実習内容について理解する。(グループ学習) ・社会的養護施設(児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童自立支援施設など)の法的な位置づけ、子どもの最善の利益について、施設の現状、道内の施設を知る。	福祉施設の種類について調べる。(25分)	社会的養護施設についてまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	福祉施設における実習内容について理解する。(グループ学習) ・社会的養護施設での実習の特徴や実習のポイントについて理解する。 ・児童養護施設実習の一日の流れについて考え、子どもとの関わりについて考える。	福祉施設での実習内容について調べる。(25分)	実習の特徴・ポイントについてまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害児支援施設の種類(入所型支援施設と通園型支援施設)について知る。 ・障害児入所施設、児童発達支援センター(福祉型・医療型)等について知る。	障害児(者)施設について調べる。(25分)	入所型・通園型支援施設をまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害者支援施設(指定障害者福祉サービス事業所)の種類について知る。 ・障害児(者)施設での実習の特徴や各施設の現状と特徴について知る。	障害者福祉サービスについて調べる。(25分)	各施設の現状についてまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害児(者)施設での実習のポイントについて考える。 ・障害児(者)支援施設の一日の流れを考える。	障害児(者)支援施設の実習内容について調べる。(25分)	実習のポイントをまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	身体障害児(者)福祉施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・医療型障害児入所施設と医療型児童発達支援施設について知る。 ・身体障害児(者)福祉施設での実習のポイントについて考える。	身体障害児(者)福祉施設を調べる。(25分)	医療型入所施設・発達支援施設をまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	障害福祉サービスの概要について理解する。 ・障害者総合支援法に基づくサービスの概要について知る。 ・地域生活支援事業の概要について知る。	障害福祉サービスについて調べる。(25分)	自立支援法に基づくサービスについてまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	保育実習Ⅲの目標と内容について理解する。 ・保育実習Ⅰ(Ⅰ-1、Ⅰ-2)と保育実習Ⅲの違いについて考える。 ・施設における支援の具体的な内容について知る。	保育実習Ⅰ-1を振り返る。(25分)	保育実習ⅠとⅢの違いをまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	保育実習Ⅲにむけた事前学習に取り組む。 ・各施設、入所対象児(者)についての理解を深める。 ・保育士と権利保障(児童の権利に関する条約)の関係を考える。	児童の権利条約について調べる。(25分)	保育士と権利保障の関係をまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	保育実習Ⅲにむけた事前学習に取り組む。 ・保育士とソーシャルワーカーとの連携について考える。 ・保育士と地域社会との関わりを考える。	ソーシャルワーカーについて調べる。(25分)	保育士と地域社会と関わりをまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	福祉施設実習に関するQ&Aに取り組む。 ・社会的養護施設の実習に関する内容について考える。 ・障害児(者)系施設の実習に関する内容について考える。	社会的養護施設について調べる。(25分)	社会的養護施設・障害児者施設の実習についてまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	保育実習Ⅲへの諸準備を行う。 ・保育実習日誌や個人調査票の記入の仕方について考える。 ・個人調査票、出席簿、施設実習評価票の必要箇所への記述を行う。	実習日誌・調査票について確認する。(25分)	日誌・調査票等の記入について整理する。(20分)
担当教員			
第14回	保育実習Ⅲへの諸準備を行う。 ・先輩の「研究課題レポート」を参考事例とし、自分の感想をまとめる。 ・保育実習Ⅲにむけた実習課題や研究課題を整理し実習日誌に記述する。	実習課題・研究課題について確認する。(25分)	実習課題・研究課題を整理する。(20分)
担当教員			
第15回	保育実習Ⅲへの抱負(決意)を発表する。 ・保育実習Ⅰ－1、Ⅰ－2の体験(経験)を生かした内容を考える。	保育実習Ⅰ－1、Ⅰ－2を振り返る。(25分)	保育実習Ⅲへの抱負をまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業における課題(配布資料、レポート)への取り組み状況	

その他	40	実習課題・研究課題への取り組み状況
教科書		
使用しない。		
参考文献		
「保育実習・教育実習ハンドブック」(北海道文教大学人間科学部こども発達学科編)		
履修条件・留意事項等		
保育実習Ⅰ－1及びⅠ－2を履修していること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習Ⅰ－1				ナンバリング	3802
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」に関連する科目である。また、福祉施設での実習における体験で、施設の役割や生活支援のあり方などを理解し、保育士としての基本的な専門性を修得する科目である。保育実習指導Ⅰのスキルを生かすとともに、保育実習Ⅰ－2(保育所実習)へとつながる。							
授業の概要							
保育実習Ⅰ－1(福祉施設での実習)は、これまでに学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。利用者に対する直接的な働きかけによって、保育の理論と実践の関係について理解する。つまり、福祉施設における実習を通して、施設の役割や活動内容を理解すると共に、保育士と利用者とのかかわり等についても学ぶ機会となる。							
到達目標							
・児童福祉施設の役割や機能を具体的に説明できる。 ・観察や関わりを通して対象の理解や実習の意義や目的、内容などが説明できる。 ・児童福祉施設での実習における様々な体験やふれ合いの中で、保育士としての業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。 ・児童福祉施設での実習を通して計画・観察・記録・自己評価について理解すると共に、自らの課題を明確にすることができる。							
授業の方法							
基本的に児童福祉施設において2週間(実日数10日)以上の実習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、実習終了後に事後指導を行なう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・児童福祉施設における2週間(10日間)の実習である。 ・実習形態としては参加実習を中心とし(状況によっては責任実習を行うこともある)、実習先の実態把握をしながら、利用者との関わり等について学ぶ。実習内容については実習先によって異なるが、大まかには次の通りである。	なし	なし
担当教員			
第2回	事前指導:「保育実習指導Ⅰ」 (保育者としての基礎を培い、保育の質の向上に役立てることをテーマとし、保育実習Ⅰ－1が円滑にまた効果的に進められるよう、必要な知識・技術・実習にかかわる実務などを具体的に習得する。)	なし	なし
担当教員			
第3回	事前訪問 (実習先に出向き、実習のスケジュール等について確認したり、実習にむけた諸注意等の指導を受ける。)	なし	なし
担当教員			
第4回	見学観察実習、参加実習 (利用者の中に入って活動や生活を共にしながら、観察をしたり援助に関わったりする。)	なし	なし
担当教員			

第5回	部分実習 (実習先の施設から短い時間をいただいて、指導、援助、介護などに関わったりする。)	なし	なし
担当教員			
第6回	分的な責任実習 (実習生の状況によって、実習先の施設からある程度の時間をいただいて、指導計画に沿った活動を行う。)	なし	なし
担当教員			
第7回	・巡回指導 実習の状況などについて施設担当者と情報交換すると共に、実習課題等をもとに学生指導を行う。	なし	なし
担当教員			
第8回	事後指導 (施設実習の体験を整理すると共に自己評価を行い、課題レポートをもとに保育士としての資質に関する今後の課題を明らかにする。)	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・実習先による評価(40%) ・実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞	

その他	30	・実習日誌(30%)＜記載内容、実習後の反省・考察＞
教科書		
なし		
参考文献		
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
履修条件・留意事項等		
・2年次への進級条件を満たしていることを履修条件とする。 ・保育実習指導Ⅰを修得していることを履修条件とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習Ⅱ				ナンバリング	3808
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
より良い教育・保育環境及び教育・保育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。これまで履修した専門科目の総まとめとして、保育実習Ⅰにおける経験を基礎にして保育現場で実習を行う。							
授業の概要							
保育実習Ⅰの成果を踏まえて、具体的な計画に基づく保育実践を学ぶとともに、自らの保育を評価し、保育を改善することも体験的に学ぶ。保育所における実習の総括として、保育所の役割・機能への理解、保育の理解、保育士の職務への理解等を深めるとともに、必要とされる保育の知識・技術の習得を図る。							
到達目標							
1. 保育所の役割や機能について、また、子ども、保育、子育て支援等について、具体的、総合的な理解が深まり、実践に繋げることができる。 2. 保育の計画・観察・記録・自己評価等について実施、改善することができる。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について、実践的な理解が深まり、適用することができる。 4. 自己評価を行うことにより、今後の学びにおける課題を適切に設定することができる。							
授業の方法							
保育所(園)において10日間の実習を行う。実習の実施前に「事前指導」、実施後に「事後指導」を行う。							
ICT活用							
該当なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育士の資格、短期大学保育学科の教員経験を活かし、保育実習に必要な知識と技術の専門性について、実践的な取り組み方を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

実習終了後に実施するアンケートに対しコメントを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育所において10日間の実習を行う。保育の場における具体的な実践を通して、「保育所の役割や機能の具体的展開」「観察に基づく保育の理解」「子どもの保育及び保護者支援、地域社会との連携」「指導計画の作成・実践・観察・記録・評価」「保育士の業務と職業倫理」「自己の課題の明確化」等について理解を深める。	なし	なし
担当教員			
第2回	○事前訪問 実習先と、実習のスケジュールについて確認を行い、オリエンテーションを受ける。	なし	なし
担当教員			
第3回	○観察実習、参加実習 保育に参加し、子どもと生活や遊びを共にする中から、保育について実践的、総合的に学ぶ。	なし	なし
担当教員			
第4回	○部分実習 実習指導案を作成し、それに基づく実践、評価、改善を行う。	なし	なし
担当教員			

第5回	○全日実習 実習指導案を作成し、それに基づく実践、評価、改善を行う。	なし	なし
担当教員			
第6回	○巡回指導 巡回指導教員から、実習課題を基に面談指導を受け、助言を今後の実習に生かす。	なし	なし
担当教員			
第7回	○事後訪問 実習終了に係る挨拶をかねて実習先を訪問し、実習日誌を提出する。	なし	なし
担当教員			
第8回	○お礼状の作成、郵送	なし	なし
担当教員			
第9回	○事後指導 実習について自己評価を行い、自らの課題を整理し、今後の学びに向けての課題を明確にする。	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習の参加態度及び自己評価(30) 実習日誌等提出物(30)	

その他	40	実習施設による評価(実習評価票)
教科書		
「保育実習・教育実習ハンドブック」北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
・学外実習履修要件を満たしていること ・保育実習Ⅰ－１、及び保育実習Ⅰ－２の単位を取得していること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習Ⅲ				ナンバリング	3812
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている」に関連する科目である。 また、社会福祉施設での実習をととして、自己評価をもとにして保育士に関する自己課題を明確にするとともに、保育士の職業倫理について習得する科目である。 保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2、保育実習指導Ⅲのスキルを基礎としている。							
授業の概要							
保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ－1(入所型施設での実習)をふまえて、施設養護にたずさわる保育士としてさらに高いレベルの養護技術と知識を習得することを目的とする。あらゆる社会福祉関係諸法令に基づき設置される施設での実習を通して保育士に関する自己課題を明確化すると共に、保育士の職業倫理に関して学ぶ。							
到達目標							
・既知の教科目や保育実習の経験を踏まえ、福祉施設等(保育所以外)の役割や機能に関して、実習を通して理解を深め、説明することができる。 ・利用者の最善の利益や保育士としての職業倫理を具体的に学び、説明することができる。 ・福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し、説明することができる。							
授業の方法							
基本的に社会福祉施設(成人の施設)において2週間(実日数10日)以上の実習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、事後指導を行なう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・児童福祉施設、あるいは社会福祉施設において、2週間(原則10日間)の実習を行う。 ・事前訪問 (実習先に出向き実習のスケジュール等について確認したり、実習にむけた諸注意等の指導を受ける。)	なし	なし
担当教員			
第2回	・養護活動全般に参加し、養護技術を習得する。 - 実習先の実態把握をしながら、利用者との関わり等について学ぶ。 - 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を理解する。	なし	なし
担当教員			
第3回	・利用者(子ども等)の個人差やニーズについて理解し、その対応方法を習得する。 - 利用者(子ども等)に共感し、受容する態度を身につける。 ・利用者(子ども等)の個人差や発達の違いに応じた対応方法を身につける。 - 生活環境などに伴う利用者(子ども等)のニーズを理解する。	なし	なし
担当教員			
第4回	・家族との意思疎通の方法を具体的な事例を通して学ぶ。 - 日常の保護者との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。 - 子どもと保護者(家族)のコミュニケーションの在り方について学ぶ。	なし	なし
担当教員			

第5回	・地域社会との連携について具体的に学ぶ。 ・地域の子育て支援のニーズを理解し、施設の役割について学ぶ。 ・地域支援事業等の実際に触れ、その地域の保育ニーズを理解する。 ・地域の社会資源との連携について理解を深める。	なし	なし
担当教員			
第6回	・利用者(子ども等)の最善の利益への配慮を学ぶ。 ・受け入れ先の施設の理念、目標などから、配慮点を理解する。 ・保育士の援助の方法や対応から、その姿勢について学ぶ。 ・利用者(子ども等)の権利擁護の実践について理解する。	なし	なし
担当教員			
第7回	・施設の保育士としての職業倫理を理解する。 ・守秘義務の遵守について、实际的に理解する。 ・保育士の具体的な職業倫理を理解する。	なし	なし
担当教員			
第8回	・巡回指導 ・実習の状況や就職(採用)の見込みなどについて施設担当者との情報交換すると共に、実習課題等をもとに学生指導を行う。	なし	なし
担当教員			
第9回	・事後指導 ・施設実習の体験を整理すると共に自己評価を行い、課題レポートをもとに保育士としての資質に関する今後の課題を明らかにする。	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	実習先による評価(40%) 実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞	

その他	30	実習日誌(30%)＜記載内容、実習後の反省・考察＞
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
保育実習Ⅰ－1及びⅠ－2を履修していることを履修条件とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ(高桑 純)				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会や学校に長年間勤務した経験を生かして、理科教育、環境教育、HR指導、生活指導、学校経営をはじめとする実践経験を有する。これらの経験を活かし、教育や学校の在り方について、具体的に指導する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の3点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①環境教育 ②理科教育 ③ICT教育について幼児教育との連携をテーマとし、指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①環境教育 ②理科教育 ③ICT教育について、幼児教育との連携をテーマとし、テーマに係る資料収集、活動計画、フィールド・ワーク等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより、必要に応じてグループまたは個人の活動単位を編成する。グループの場合リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第6回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第7回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第8回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第9回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第10回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第11回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、プレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ（西野 美穂）				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		西野 美穂					
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、google classroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。プレゼンテーションや演奏においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	研究計画について予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			
第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			

第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ(美馬 正和)				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			
第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			

第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ（笠見 康大）				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			
第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			

第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ（吉岡 亜希子）				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		吉岡 亜希子					
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
こども学総合演習Ⅰでまとめた中間報告書の検討を行い、発展・深化させる。そのための文献検討、補足調査等を行う。受講生全体での検討を行い、最終報告書を完成させる。後半は、保育・教育に関連する文献の講読を行う。各回、レポーターを決めて報告を行いながら議論する。文献講読で得られた成果を各自まとめる。こども学総合演習ⅠとⅡの成果をまとめ「研究成果報告書」として冊子に集約する。							
ICT活用							
Google classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。			
課題に対するフィードバックの方法			
課題に対しては、コメントを返します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	前期の「こども学総合演習Ⅰ」でまとめた中間報告書の検討を行う。中間報告書をさらに発展・深化させるための文献検討や補足調査等の意見交換を行う。	中間報告書の振り返り(20分)	中間報告書の検討(25分)
担当教員			
第2回	中間報告書を最終報告書として完成させるための検討を引き続き行う。	中間報告書の検討(20分)	中間報告書の検討(25分)
担当教員			
第3回	最終報告書を完成させるための活動を各グループで行う。必要に応じて、補足調査を行う。	中間報告書の検討。(20分)	最終報告書のまとめ。(25分)
担当教員			
第4回	グループで最終報告書をまとめる。	最終報告書のまとめ。(20分)	最終報告書のまとめ。(25分)
担当教員			

第5回	グループで最終報告書をまとめ、提出する。	最終報告書のまとめ。(20分)	文献講読の候補になる本を探す。(25分)
担当教員			
第6回	文献講読の文献を決める。講読は、毎回、レポーターを決め、担当するページのレジюмеを作成して報告する。レポーター以外の受講生は、該当するページをあらかじめ読んでおく。文献講読の初回に担当するページと日にちを確定する。	文献の候補になる本を探す。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第7回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第8回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第9回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第10回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			

第11回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第12回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	文献の担当部分の報告レジюмеを作成する。(25分)
担当教員			
第13回	文献講読。各回レポーターを決め、担当ページのレジюмеを作成、報告を担当する。レポーターは、文献の内容に関連した議論のテーマを提示し、受講生全員で討議する。	文献の該当箇所を読んでおく。(20分)	他のグループ・個人の発表を振り返り、報告書作成の参考にする。(25分)
担当教員			
第14回	文献講読で得られた成果を受講生全員で振り返り、各自まとめる。	文献講読で得られた成果をまとめる。(20分)	1年間の研究成果を振り返る。(25分)
担当教員			
第15回	1年間の研究成果を振り返る。「こども学総合演習Ⅰ」の報告書と「こども学総合演習Ⅱ」の文献講読による成果のまとめを「研究成果報告書」として冊子に集約する。	1年間の研究成果を振り返る。(20分)	本科目で学んだ内容を卒業研究Ⅰ、Ⅱに活かし、結び付けるためのまとめを行う。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.最終報告書(40%) 2.授業参加の態度(20%) 3.文献講読レポーターとしての報告(40%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
適宜紹介する。 講読の文献は、話し合いで決定する。		
履修条件・留意事項等		
積極的な授業参加を望みます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ（木谷 岐子）				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		木谷 岐子					
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンを活用し、報告書や発表資料を作成する。また、Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容(①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援)に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	【テーマごとのグループの編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	後期の具体的活動内容について検討する。(25分)	テーマ、活動計画等の細目を検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	【保育現場の取材活動の実施Ⅰ】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施Ⅱ】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合う。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業までに収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析する。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考える。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 授業参加姿勢50% 2. 課題25% 3. 発表25%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ(小椋 佐奈衣)				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		小椋 佐奈衣					
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、戸外活動を実施することもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

短期大学保育学科の教員経験に基づき、子どもを対象とした実践的教育など視覚的教材を通した幼児教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ(村越 含博)				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や取材、編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、発表物に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の3点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①社会科教育 ②授業方法 ③教育課程と幼児教育との連携をテーマとし、指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①社会科教育 ②授業方法 ③教育課程と幼児教育との連携をテーマとし、テーマに係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第6回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第7回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第8回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第9回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第10回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第11回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、プレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅱ(村田 敏彰)				ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		村田 敏彰					
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰを基礎とし、卒業研究に接続する。							
授業の概要							
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点について必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第5回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第6回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第7回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第8回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第9回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第10回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第11回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、プレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすいわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する 資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(渡邊 堯宏)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識させるできるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修に励ませるできる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(村田 敏彰)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員		村田 敏彰					
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修にできる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(相馬 哲也)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修できる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合がある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び 教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び 教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(高桑 純)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修に励むための環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(小田 進一)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	小田 進一						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識させるできるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修に励ませるできる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員	小田 進一		
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員	小田 進一		
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	小田 進一		
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員	小田 進一		
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員	小田 進一		

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員	小田 進一		
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員	小田 進一		
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	小田 進一		
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び 教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び 教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員	小田 進一		
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員	小田 進一		
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員	小田 進一		

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(山口 宗兼)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員		山口 宗兼					
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識しながら学修できる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(山下 秀樹)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修できる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合がある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		教職実践演習(幼・小)(森田 弘行)				ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。							
授業の概要							
教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。							
到達目標							
こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することを到達目標とする。							
授業の方法							
・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかりと認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。 ・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識しながら学修できる環境を提供する。 ・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合がある。 ・インターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。 ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。
 小学校教員として35年勤務した経験を生かして、学校教育の在り方や教育課程などの授業を行う。
 また、教育実習生の指導担当教員としての経験も多くあり、教育実習における心構え、指導案作成、生徒指導、板書指導の知識、知見を有している。
 この経験を生かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
 インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。 ※小学校・特別支援学校系をAグループ ※幼稚園系をBグループとする。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第2回	◎今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題と教師の資質や能力について、教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「実習を終えて」、小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(25分)
担当教員			
第3回	◎視察・講話① A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第4回	◎視察・講話② A 恵庭市内の小学校を訪問して、校内の見学と現職教員による講話を行う。 B 恵庭市内の幼稚園の現職教員による講話を行う。	・訪問先の小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。 ・講話する講師が所属する園の資料を調べ、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			

第5回	◎特別支援学校視察① ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第6回	◎特別支援学校視察② ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第7回	◎特別支援学校視察③ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第8回	◎特別支援学校視察④ ・視察の視点に沿った観察と記録 小グループや個人への支援についての学習を行う。	・視察先のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員			
第9回	◎保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			
第10回	◎保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校や園における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読。授業内容に関する課題。(25分)
担当教員			

第11回	◎インターンシップオリエンテーション① ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第12回	◎インターンシップオリエンテーション② ・心構え、取り組む姿勢、準備、提出物、発表会等について確認する。	・「保育実習・教育実習ハンドブック」で、インターンシップに関連する項目を確認しておく。(20分)	・インターンシップに向け心構えを確立し、目標を設定する。また、必要な準備を行う。(25分)
担当教員			
第13回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第14回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			

第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員			
第25回	◎事例研究及び発表会準備① A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法について学習する。 B インターンシップの発表会の進め方を理解する。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションを構想する。(25分)
担当教員			
第26回	◎事例研究及び発表会準備② A 教育現場における実際の業務内容(校務分掌、作成書類、危機管理、児童の健康安全等)とそれぞれに関する事例研究及び教職におけるICT技術の実践的活用法 B インターンシップの発表会の段取りを確認する。 ・プレゼン資料の構想を考える。	・インターンシップの記録のまとめを作成しておく。(20分)	・発表用プレゼンテーションの具体的なイメージを作る。(25分)
担当教員			
第27回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備① A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させる準備をしておく。(20分)	・プレゼン資料にインターンシップのまとめを反映させ、体裁を整える。(25分)
担当教員			
第28回	◎学習支援体験及びインターンシップの発表会準備② A 小学校における冬季休業中の学習支援を行う。 B インターンシップの発表会の準備を行う。	・プレゼン資料を完成させ、説明原稿を準備する。(20分)	・説明原稿を含め、プレゼン資料を完成させる。(25分)
担当教員			

第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲(視察や講話の記録)30%、・表現力(授業の課題)30%、 ・指導力(インターンシップ記録・発表)40%	
その他	0	特になし。	
教科書			
使用しない。			
参考文献			
保育実習・教育実習ハンドブック			
履修条件・留意事項等			

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(小田 進一)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		小田 進一					

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。

②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)

②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)

③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)

②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)

③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)

②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)

③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようにアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

保育園25年、幼稚園20年、こども園2年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担うと共に「実習生の受け入れプログラム作り」、「障碍児の受け入れ体制づくり」と充実のための取り組み、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の研究に向かう姿勢を支えていく。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(相馬 哲也)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。特に「国際理解教育」、「生徒指導」、「総合的な学習の時間」、「学級経営」、「教育行政」に関する知識を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

-google-クラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(吉岡 亜希子)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法 ・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(森田 弘行)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		森田 弘行					

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。

②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)

②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)

③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)

②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)

③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)

②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)

③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようにアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

・授業担当者(森田)は、公立小学校に36年間勤務し、教科指導、生徒指導、進学指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、心理臨床活動にも従事し、児童の心理的な発達を専門的に研究し、修士を取得した。以上の経験を活かし、教育実践の具体的な現場をリアルに想定すること、とりわけ具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍 ・松井豊(2010) 改訂新版 心理学論文の書き方 ・山田剛史・村井潤一郎(2005) よくわかる心理学統計		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(加藤 裕明)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		加藤 裕明					

授業の位置づけ

- ①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
- ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

- ①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
- ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
- ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

- ①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)
- ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

- すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
- ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)
- ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)
- ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

- ・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

・担当者(加藤)は、公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を活かし、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士号を取得した。以上の経験を活かし、子どものリアルな姿や言葉をとらえながら、具体的な子どもの学びの姿をもとにした実践的研究が展開できるよう、有効な支援を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(高桑 純)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		高桑 純					
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
検索機能を活用した資料や先行研究の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。研究テーマに応じて、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有化やWeb会議機能を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者(高桑)は、理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、学校経営、教育課程、理科教育、環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に進捗状況を報告させ、直接あるいはICTを活用した間接的なアドバイスをを行う。論文の作成においては、随時内容を確認して、必要に応じて文言整理、先行論文の確認、データの検定等の指示をおこなう。また、学生相互に論文に対するアドバイスをを行い、完成度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(笠見 康大)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧に、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識とスキルを有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ（白幡 知尋）				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡 知尋						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧に、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(木谷 岐子)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧に、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認する。また教員から学生へのフィードバックのために活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(小椋 佐奈衣)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		小椋 佐奈衣					

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。

②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)

②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)

③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)

②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)

③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)

②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)

③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

・児童相談所で発達相談および支援業務、大学の研究機関で発達障害の研究に従事、短期大学の教員など、こども発達学に関する実践的経験を有する。以上の経験を活かし、学生が目指している発達支援や教育について、そのニーズに基づく卒業研究の調査、論文作成の支援および指導をする。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(美馬 正和)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		美馬 正和					
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法 ・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(今井 由恵)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(村越 含博)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		村越 含博					

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。

②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)

②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)

③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)

②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)

③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)

②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)

③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(山口 宗兼)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		山口 宗兼					
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(山本 愛子)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		山本 愛子					
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧に、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	なし
教科書		
教科書は使用しない。各授業において、論文完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(村田 敏彰)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		村田 敏彰					

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。

②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)

②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)

③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解)

②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現)

③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能)

②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現)

③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようにアドバイスする。(関心・意欲・態度)

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

・eラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ（西野 美穂）				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ（渡邊 堯宏）				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

大学卒業後は、民間幼稚園で担任、管理職業務。また、保育所での園長業務と民間学童保育の代表の実務を経験。その後、修士(教育学)を取得のため大学院に進学。修了後は、保育現場での経験をもとに、保育の環境、保育者の働き方についての研究を主に行う。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ(山下 秀樹)				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マボリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実なものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。 ②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現) ③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。(知識・理解) ②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。(知識・技能) ②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。(思考・判断・表現) ③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

・授業担当者(山下)は、複数の障がい種の特別支援学校に38年間勤務し、特別支援教育における教科等を合わせた授業やHR指導、生徒指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、管理職(教頭、副校長、校長)としてカリキュラムマネジメントの研究・実施を進めてきた。以上の経験を活かし、教育実践の具体的現場をリアルに想定すること、とりわけ障がいのある子どもの特性や具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。 卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅱ（平岡 英樹）				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)は、保育者、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭等をめざす者として、これまで学んできた知識・技能・態度をより確実にし、更なる展望を見出す発展的視野を身につけるための科目である。 ②「卒研Ⅱ」は、「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学に関わるすべての科目の集大成として位置づけられるものである。							
授業の概要							
①卒研Ⅱでは、「先行研究」の批判的な読み、フィールドワークや質問紙調査の方法、また論文の構成などに関する知識を習得する。(知識) ②フィールドワークや質問紙調査などデータ収集の方法に関する技能を身につける。(技能) ③卒研Ⅰにもとづき、論文(作品)完成まで、粘り強く努力する姿勢、さらには卒業研究発表会に意欲的に参加する態度を身につける。(態度)							
到達目標							
①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できる。(知識・理解) ②データ収集のためのフィールドワークや質問紙調査等を「研究計画」にもとづきながら実施できる。(技能) ③論文(作品)完成のため、指導教員や他の学生との対話・討議に継続的に参加し、最後までやり遂げるよう責任をもって行動できる。卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく伝わるよう発表し、質問に対しては真摯に応答できる。また、他の発表者に対しては積極的に質問し、発表会の活性化に貢献できる。(態度)							
授業の方法							
①パワーポイントや印刷配布物を用いて、卒業研究完成までに必要な知識や技能を説明する。 ②少人数のゼミ形式であり、学生の「卒業研究要旨」及び「卒業論文」の執筆に向け、指導教員や他の学生との対話・討論を軸にすすめる。 ③フィールドワークや、調査、実験等の活動を遂行しながらすすめる。成果発表の際の質疑に対しては、丁寧かつ真摯な対応ができるよう、発表のリハーサルを学生自身が行う。							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学习支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 ・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で立てた「研究計画」にもとづき、フィールドワークや実験等を遂行し、データ収集を開始する。	論文作成に向けて、具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークや実験等、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆(1) 執筆した論文の「はじめに」(問題意識と研究の目的)を、指導教員や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文の「はじめに」(問題意識と研究の目的)を下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆(2) 執筆した「先行研究の論点整理」を提出し、指導教員や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第4回	論文の執筆(3) 執筆した「研究の課題」を指導教員や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第5回	論文の執筆(4) 執筆した「研究の方法」を指導教員や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆(5) 執筆した「研究の対象」を指導教員や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに推敲する。(25分)
担当教員			
第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、指導教員や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげる。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容をレジュメにまとめ、発表し、指導教員や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を遂行する。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を推敲する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文(作品)の執筆(製作)(1) 論文(作品)の構成について、指導教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	論文構成の章立てを考え、説明できるよう準備する。(20分)	アドバイスを参考に、論文の構成を具体的に書いてみる。(25分)
担当教員			
第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	卒業論文(作品)の執筆(製作)(3) 執筆した「考察」を、指導教員や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員			
第12回	卒業論文(作品)の執筆(製作)(4) 執筆した「今後の課題」を、指導教員や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	卒業論文(作品)の執筆(製作)(5) 執筆した「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」(下書き)を、指導教員や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文(作品)の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文(作品)を完成させる。	指導担当教員から受けた最終アドバイスをもとに本論の文章を推敲する。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考する。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文(作品)の発表 卒業論文(作品)について発表する。質疑に対して真摯に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)	

その他	0	なし
教科書		
・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
「卒業研究Ⅰ」をふまえ、卒業論文(作品)完成まで、粘り強くやり遂げる、誠実で力強い意思を持つことが切に望まれる。		
備考欄		
Empty space for the reference column		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	1135
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。							

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など	
教科書			

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- ・講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- ・講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツA				ナンバリング	1198
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。 スポーツ・運動することの重要性を学ぶための科目である。 また、生涯スポーツを通して、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を高めるための科目である。 「保育内容指導法（健康1・2）」と関連する。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について理解する。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、生涯スポーツとは何か、生涯スポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ③生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。 ④生活習慣病について理解を深め、予防の方法を知ることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、小テストの解答及び解説 レポートのコメント記入後返却			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	前期の学習内容と健康との関りを調べておくこと(90分)	スポーツ・運動と健康の関りについて理解しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	生涯スポーツとは何か。 生涯スポーツの必要性和意義を解説する。	スポーツ・運動の必要性を調べておくこと(90分)	スポーツ・運動の必要性をよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	運動能力とは何かを解説する。	運動能力とはどのようなものかを調べておくこと(90分)	運動能力にはどのようなものがあるかをまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	熱中症予防について、水分補給についての重要性や方法等を解説する。	熱中症について調べておくこと(90分)	熱中症の危険性、水分補給の重要性をよく理解しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	生活習慣病とは何かを解説する。	生活習慣病について調べておくこと(90分)	生活習慣病とはどのようなものかをまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	生活習慣病(高血圧症・脂質異常症・糖尿病)の危険性を解説する。	高血圧症・脂質異常症・糖尿病とはどのようなものかを調べておくこと(90分)	高血圧症・脂質異常症・糖尿病についてよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	生活習慣病(メタボリックシンドローム)について解説する。いくつかのグループに分け、生活習慣病を予防するために効果的な運動を実際に行う。	メタボリックシンドロームについて調べておくこと(90分)	メタボリックシンドロームについてよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	カロリー・糖質について理解し、ダイエットとの関係について解説する。	自分なりの「ダイエット」について考えておくこと(90分)	ダイエットとカロリーや糖質との関係について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・後片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	
その他	0	なし	
教科書			

なし
参考文献
特になし、必要に応じて資料を配付
履修条件・留意事項等
講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。 講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育の理解					
科目名		子育て支援(2組)				ナンバリング	3304
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
この授業は「保育の理解」にかかわる専門科目であり「社会的養護Ⅰ」「こども家庭支援論」と関連を持っています。ディプロマポリシーにおいては、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている」に関わる科目として位置付けています。							
授業の概要							
この授業では、子育てに関する相談・援助のための基本的な理解の枠組みと姿勢を学びます。対象者のニーズを理解して適切な援助ができるよう、子育て支援のための基礎知識を身に着け、応用できる力を修得します。また、ここでは、学習を深めるために、子育て支援にかかわるロールプレイおよび分析法の実習を組み入れて、演習を進めていきます。							
到達目標							
1. 子育て支援にかかわる基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。 2. 子育て支援にかかわるロールプレイや行動観察の体験学習を通して、子ども・保護者の理解のための観察力を高めることができる。 3. 子育て支援における関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。							
授業の方法							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。							
ICT活用							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の子育て支援に関する臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは「長所マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、保育・子育て支援に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自身の特性について「長所」という視点から整理すること(25分)	完成した長所マップをふりかえって自己理解を深めること(20分)
担当教員			
第3回	保育所における子育て支援：保育所における子育て支援の役割と保育士の専門性について学びます。また、保育所保育指針における子育て支援の位置付けについて理解を深めます。	関連文献を読んで内容をまとめること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第4回	保護者との相互理解と信頼関係の構築：保護者との相互理解を図り、信頼関係を構築するための基礎理論について学びます。また、ケースワークの視点から、バイステックの7原則について理解を深めます。	バイステックの7原則について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			

第5回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解： 社会において保護者や家庭が抱えている多様な支援のニーズについて、文献講読を通して学びます。さらに、こどもの置かれている状況を多面的に理解することの必要性について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第6回	子育て支援にかかわる制度と社会資源： 子育て支援にかかわる制度について学び、保育所以外での子育て支援の機会と場についても理解を深めます。子育て支援の社会資源・人材について把握し、多様なニーズに対応するための方策について考えます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第7回	子育て支援のフィールド理解(1)： 本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)の実践について学びます。ここでは、関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づく親子参加型の子育て支援の理論と実際について理解を深めます。	関係力育成プログラムについて調べること(20分)	指定文献を読んでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第8回	子育て支援のフィールド理解(2)： 関係力育成プログラムに基づいて、親子参加型の子育て支援に関するロールプレイ実習を行います。また、ロールプレイ場面の映像については、クリッカーを用いて行動分析を行い、全体でふりかえりを実施します。	指定文献を読んでレポートを作成すること(25分)	ロールプレイ実習の体験報告レポートを作成すること(20分)
担当教員			
第9回	子育て支援の理論と実際(1)： ペアレントサポートプログラムに基づく子育て支援の理論と方法について学びます。ペアレントサポートプログラムのロールプレイ体験を通して、保護者の心理について理解を深めます。	ペアレントサポートプログラムというキーワードについて調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第10回	子育て支援の理論と実際(2)： 絵本を用いた子育て支援の理論と実際について学びます。ここでは、ゲストティーチャーを招聘した特別講義を通して、絵本を用いた子育て支援の実践と研究について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			

第11回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(1): 支援の対象者について、心理的側面、社会・環境的側面、身体的側面など多様な視点からのアセスメントについて学びます。アセスメントに基づいた支援計画の作成についても学びを深めます。	アセスメントというキーワードについて調べること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第12回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(2): 子育て家庭の事例に基づいてグループごとにアセスメントを行い、支援計画を立案して、発表・意見交流を行います。各グループによる発表・意見交流を通して、支援の方策について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	アセスメント・支援計画を見直し課題を整理すること(20分)
担当教員			
第13回	社会資源の活用および関係機関や専門職との連携・協働: 問題の内容に応じて適切に社会資源を活用できるよう、関係機関や専門職の役割、支援の内容について学びます。また、関係機関や専門職との連携・協働について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第14回	子育てに関する相談・援助の実際: 子育てに関する相談・援助の実際について、事例を通して学びます。ここでは、グループに分かれて、事例に基づいてディスカッションを行い、相談・援助の在り方について検討します。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること(25分)	配布資料および関連文献を読んで、これまでの学習のまとめを行うこと(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況および授業内容に関するレポート作成によって評価します。	

その他	25	子育て支援のロールプレイ実習に関しては、所定の書式で作成した「ロールプレイ実習体験報告レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
新保育ライブラリ 子育て支援 李木明德編著 北大路書房 保育者のためのペアレントサポートプログラム 高山恵子著 学研プラス 保育所保育指針 厚生労働省		
履修条件・留意事項等		
この演習では、子育て支援に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育の理解					
科目名		子育て支援(1組)				ナンバリング	3304
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						

授業の位置づけ

この授業は「保育の理解」にかかわる専門科目であり「社会的養護Ⅰ」「こども家庭支援論」と関連を持っています。ディプロマポリシーにおいては、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている」に関わる科目として位置付けています。

授業の概要

この授業では、子育てに関する相談・援助のための基本的な理解の枠組みと姿勢を学びます。対象者のニーズを理解して適切な援助ができるよう、子育て支援のための基礎知識を身に付け、応用できる力を修得します。また、ここでは、学習を深めるために、子育て支援にかかわるロールプレイおよび分析法の実習を組み入れて、演習を進めていきます。

到達目標

1. 子育て支援にかかわる基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。
2. 子育て支援にかかわるロールプレイや行動観察の体験学習を通して、子ども・保護者の理解のための観察力を高めることができる。
3. 子育て支援における関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

ICT活用

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の子育て支援に関する臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは「長所マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、保育・子育て支援に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自身の特性について「長所」という視点から整理すること(25分)	完成した長所マップをふりかえって自己理解を深めること(20分)
担当教員			
第3回	保育所における子育て支援：保育所における子育て支援の役割と保育士の専門性について学びます。また、保育所保育指針における子育て支援の位置付けについて理解を深めます。	関連文献を読んで内容をまとめること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第4回	保護者との相互理解と信頼関係の構築：保護者との相互理解を図り、信頼関係を構築するための基礎理論について学びます。また、ケースワークの視点から、バイステックの7原則について理解を深めます。	バイステックの7原則について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			

第5回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解： 社会において保護者や家庭が抱えている多様な支援のニーズについて、文献講読を通して学びます。さらに、こどもの置かれている状況を多面的に理解することの必要性について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第6回	子育て支援にかかわる制度と社会資源： 子育て支援にかかわる制度について学び、保育所以外での子育て支援の機会と場についても理解を深めます。子育て支援の社会資源・人材について把握し、多様なニーズに対応するための方策について考えます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第7回	子育て支援のフィールド理解(1)： 本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)の実践について学びます。ここでは、関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づく親子参加型の子育て支援の理論と実際について理解を深めます。	関係力育成プログラムについて調べること(20分)	指定文献を読んでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第8回	子育て支援のフィールド理解(2)： 関係力育成プログラムに基づいて、親子参加型の子育て支援に関するロールプレイ実習を行います。また、ロールプレイ場面の映像については、クリッカーを用いて行動分析を行い、全体でふりかえりを実施します。	指定文献を読んでレポートを作成すること(25分)	ロールプレイ実習の体験報告レポートを作成すること(20分)
担当教員			
第9回	子育て支援の理論と実際(1)： ペアレントサポートプログラムに基づく子育て支援の理論と方法について学びます。ペアレントサポートプログラムのロールプレイ体験を通して、保護者の心理について理解を深めます。	ペアレントサポートプログラムというキーワードについて調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第10回	子育て支援の理論と実際(2)： 絵本を用いた子育て支援の理論と実際について学びます。ここでは、ゲストティーチャーを招聘した特別講義を通して、絵本を用いた子育て支援の実践と研究について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			

第11回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(1): 支援の対象者について、心理的側面、社会・環境的側面、身体的側面など多様な視点からのアセスメントについて学びます。アセスメントに基づいた支援計画の作成についても学びを深めます。	アセスメントというキーワードについて調べること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第12回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(2): 子育て家庭の事例に基づいてグループごとにアセスメントを行い、支援計画を立案して、発表・意見交流を行います。各グループによる発表・意見交流を通して、支援の方策について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	アセスメント・支援計画を見直して課題を整理すること(20分)
担当教員			
第13回	社会資源の活用および関係機関や専門職との連携・協働: 問題の内容に応じて適切に社会資源を活用できるよう、関係機関や専門職の役割、支援の内容について学びます。また、関係機関や専門職との連携・協働について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第14回	子育てに関する相談・援助の実際: 子育てに関する相談・援助の実際について、事例を通して学びます。ここでは、グループに分かれて、事例に基づいてディスカッションを行い、相談・援助の在り方について検討します。	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること(25分)	配布資料および関連文献を読んで、これまでの学習のまとめを行うこと(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関するレポート作成によって評価します。	

その他	25	子育て支援のロールプレイ実習に関しては、所定の書式で作成した「ロールプレイ実習体験報告レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
新保育ライブラリ 子育て支援 李木明德編著 北大路書房 保育者のためのペアレントサポートプログラム 高山恵子著 学研プラス 保育所保育指針 厚生労働省		
履修条件・留意事項等		
この演習では、子育て支援に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こども家庭支援の心理学				ナンバリング	3334
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「保育者論」「乳幼児心理学」「こども家庭支援論」「子育て支援」に関連する。							
授業の概要							
子どもは社会に生まれ、社会の中で育つ。その中で子どもが最初に出会う最も身近な社会が家庭である。本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解すること、さらに家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の理解する。近年の社会の変化に伴う子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、包括的にとらえる視点を習得する。							
到達目標							
1心理学の基礎的な知識を生涯学習の観点から習得し、乳幼児期の重要性について各時期への移行と発達課題などを挙げることができる。 2家族・家庭の意義と機能について発達をふまえて理解し、子どもと家族を包括的に捉える視点について説明できる。 3子育て家庭を中心とした現代社会の課題を述べることができる。 4子どもの精神保健と課題を述べることができる。							
授業の方法							
教科書(または動画)を用い、講義形式ですすめる(1~7回目・9~14回目) グループ学習を通じて、家庭支援に関する課題を見出しプレゼンテーションをする(6~8回目)							
ICT活用							
webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Webアプリを活用して意見、感想へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「乳幼児期から学童前期までの発達」 乳幼児期から学童前期までの心理的発達を保育の視点から理解する。	教科書P.1～11を読む(90分)	教科書を復習し、身近な家族の様子を学んだことをもとに再考する(90分)
担当教員			
第2回	「学童期後期から青年期までの発達」 学童期後期から青年期までの心理的発達の特徴を幼児期からの継続として理解する。	教科書P.12～24を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第3回	「成人期・老年期までの発達」 成人期・老年期までの心理的発達の特徴を理解し生涯発達の観点をもつ。	教科書P.25～36を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第4回	「家族・家庭とは」 家庭・家族の定義について再確認し、現代家族の機能と理解を深める。子育て支援の基本をふまえ、家庭支援の目的と必要性について理解を深める。	教科書P.37～48を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			

第5回	「親子関係・家族関係」 親になるプロセスを発達の視点を持って理解する。乳幼児にとっての家庭の役割と子育てを支える重要性を理解する。	教科書P.49～61を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第6回	「家庭における生活課題の捉え方・考え方」 これまでの子育ての歴史と子育てに関する多様な事柄を知る。社会問題としての少子化対策としての保育を理解し、さらに家庭や地域における課題を理解する。新聞、雑誌、書籍などから家族の実情についてグループごとに調べてきたことを整理する。	教科書P.62～66を読む 新聞、雑誌、書籍などから家族の実情について調べる(90分)	グループワークの課題についてさらに深める(90分)
担当教員			
第7回	「子育て経験と親の育ち」 育児不安、育児ストレスと親になっていくプロセスを知る。親の子どもへの教育期待を知る。保育士に期待される役割と基本的な支援を理解する。調べた課題を『家族としての肯定的な内容と疑問視する内容、客観的な内容』の3視点に分ける。(グループワーク)	教科書P.62～66を読む グループでの課題を整理しておく(90分)	課題発表の準備をする(90分)
担当教員			
第8回	「子どもを取り巻く社会環境」 家族をシステムとしてとらえ、多様な子育てスタイルを理解して子どもを育てる機能を社会の重要な部分であることを理解する。調べた課題を発表(プレゼンテーション)する。	課題発表の準備をする(90分)	各発表について自分の考えをまとめる(90分)
担当教員			
第9回	「ライフコースと仕事・子育て」 家庭支援と養護性の関係を考え、現代の家庭・家族の多様性と人々の価値観の多様性を理解する家族のライフコースを理解する。	教科書P.72～77を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第10回	「男女共同参画社会とワークライフバランス」 男女共同参画社会について理解し、仕事と子育てをワークライフバランスの考えを基に深める。	教科書P.78～82を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			

第11回	「多様な家族とその理解」 ひとり親家庭などの多様な家庭について福祉対策とその課題を知り、保育士の役割を理解する。子育て支援を基本とした家庭支援の目的と必要性について理解を深める。子育て支援者をゲストスピーカーとして招き、困難を抱える子どもと保護者への支援と配慮事項の実際について学ぶ。(予定)	教科書P.83～102を読む(90分)	発表内容を考察し、自分の考えをまとめる(90分)
担当教員			
第12回	「特別な配慮を要する家族」 障がいのある子どもの家庭の親の思いを知り、その家庭を支援するサービスについて理解する。孤立させないような保育士の支援を各機関の連携を含めて理解する。	教科書P.126～135を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第13回	「子どもの生活・生育環境とその影響」 虐待的な環境の家庭の状況を子どもと家族の視点で理解する。その問題を抱える家族に関わる機関・施設・サービスを知り、保育者として子どもを守るための考えを深める。	教科書P.103～113を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第14回	「子どもの心の健康に関わる問題」 子どもの心の健康を保つため、さらに子どもの力を伸ばすために非認知能力を育てるための基本的な考え方を身につける。	教科書P.136～146を読む(90分)	教科書を復習し、具体例を探す(90分)
担当教員			
第15回	「家庭支援のための保育者としての心がけること」 カウンセリングマインドを保育者として理解する。共有・共感の重要性と日常の保育の重要性を理解する。支援対象の守秘義務を十分に理解する。 「家庭支援論を学んでの考えをまとめる」 家庭支援に必要な知識と考えをふりかえり、まとめの文章を提出する。	14回までの学びを復習する(90分)	到達目標を確認し振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート40%・発表30% 授業内のリアクションペーパー15% 第15回授業で実施するまとめの小レポート15%	

その他	0	なし
教科書		
芝野松次郎ほか『事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版、2023年8月発行予定		
参考文献		
父親ネットワーク北海道『シングルファザー ハンドブック』2018年、 リンク https://fathers-net-hokkaido.org/		
履修条件・留意事項等		
レポートの参考・引用文献を明確にすること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育の計画と評価				ナンバリング	3350
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
「保育の計画と評価」は、ディプロマ・ポリシーに基づき、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解、乳幼児期のこどもについての知識を身につけるための科目である。さらに、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目でもある。保育方法の理解に関わる分野であり、保育内容へとつながる科目である。							
授業の概要							
保育は一人ひとりの子どもを理解し、見通しをもちながら、その時期にふさわしい環境を用意し、援助を構成する必要がある。子どもたちの豊かな育ちを実現するためには、その根幹となる保育の計画を理解することが求められる。子どもたちがどのように育ってほしいのかという目標に基づき、その目標を実現するためにどのような活動を展開し、環境を構成するのか。また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、保幼連携型認定こども園教育・保育要領の歴史的変遷、全体的な計画から指導計画までの計画の基本を確認する。さらに保育の評価が保育の質を高め、計画をより豊かなものへと変容させる循環構造についても学ぶ。							
到達目標							
全体的な計画を作成する意義と構造を説明できる。全体的な計画を基にした、長期的な指導計画と短期的な指導計画の意義やつながりについて説明できる。保育の評価を適切に行うことで、保育実践の改善が図られるという循環構造を説明できる。							
授業の方法							
教科書、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。15回の内、1～2回程度、保育者・子育て支援者をゲストスピーカーとして招き、保育の計画や評価の実際を学ぶ。第7回の授業でグループワークを行い、「全体的な計画」の編成過程を学ぶ。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育士資格・幼稚園1種免許、短期大学保育学科の教員経験に基づき、保育内容・方法・こどもとの接し方・指導案の書き方保について、保育実習および幼稚園実習に向けて実践的授業の取り組みをする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育における計画の意義について学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	カリキュラムの基礎理論と構成について学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	保育観と保育の計画・方法の変遷について歴史的な考え方を知る。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	子どもの理解に基づく保育過程と循環計画(・実践・記録・省察・評価・改善)と保育の質の向上および子どもの発達段階に基づく計画を考える。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の位置づけと改定内容を学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的な考え方を学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	全体的な計画の編成における基本原理を理解して実践的に学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	長期指導計画の種類と作成上の留意事項を理解して実践的に学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	短期指導計画の種類と作成上の留意事項を理解して実践的に学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	3歳以上児の特徴に基づく指導計画を実践的に学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	乳児ならびに1歳以上3歳未満児の特徴に基づく保育の指導計画を実践的に学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	保育の記録・省察の重要性と方法について具体的事例を通して学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	保育者の自己評価の方法について具体的事例を通して学ぶ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	保育の質を高めるための取り組みについて考えを深める。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	家庭・地域との連携、小学校との連携の必要性について知り、考えを深める。	保育の計画と評価の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)	学習内容を振り返りまとめる(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、授業内のリアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
「保育の計画と方法」、小笠原圭ほか、同文書院		
参考文献		
「幼児教育へのいざない 円熟した保育者になるために」、佐伯胖、東京大学出版会		
履修条件・留意事項等		
授業内で配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		教育制度論				ナンバリング	3500
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						
授業の位置づけ							
本科目である教育制度論は教職課程に位置づけられ、教員免許を取得するための必修教科である。また本科目は 教職科目のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う授業である。教職を希望する者にとって、教育制度を理解することは不可欠であり、教育課程の編成、教育方法の理論と実践との関連を重視し教職課程の総合知を獲得できるよう授業を位置づける。							
授業の概要							
近年、国際化グローバル化の進展に伴い、我が国の次代を担う人材の育成のため、教育制度の改革がなされてきた経緯がある。特に教育制度の改革による学習指導要領の改訂により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と新しい学習指導要領により教育活動が実施される。教育法制度、学校教育の制度や学校経営及び学級経営、教職員制度、社会教育の意義と進展さらに学校教育との連携の意義などの基盤的知識を理解し教職への意識づけを高める授業とする。							
到達目標							
①今日的な学校教育、社会教育制度の改善策について理解することができる。(知識・技能)②教育制度改革について理解を深め表現することができる。(思考・判断・表現)③学習課題の解決のため、他者と協力し学習を深めることができる。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)の反転学習を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。(毎時間、授業の後半に送信する学習レポートは授業終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。学習レポートの字数は300字～500字程度で作成する。)							
ICT活用							
毎時間における学習レポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクロームの活用による双方向の授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育理論により学校改善を図り、学力向上を中心に様々な教育成果を上げた。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の小中高等学校へ「主体的・対話的で深い学び」による授業改善や学習評価方法、教育課程の編成と実施さらに生徒指導を含め、今日的教育問題の解消・解決のため教育行政などより依頼を受け各種研修会の講師を務めている。

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらに学習レポートを中心とする、学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(学習評価の起点であるルーブリックの提示、学習内容、進め方)教育制度論とは何かを理解できる。	教育制度論とは何かについてまとめ授業に臨む。(90分)	オリエンテーションの内容を確認し、教育制度論を学ぶ意義について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教育法規の体系と教育基本法改定の意義について理解できる。	教育法規の体系と教育基本法改定について調べ授業に臨む。(90分)	教育法規の体系と教育基本法改定の意義と内容について整理する。(90分)
担当教員			
第3回	公教育制度を保障するための法制度について理解できる。	学校教育制度と教育が抱える今日の課題を調べ授業に臨む。(90分)	公教育制度のための法制度の意味や内容について整理する。(90分)
担当教員			
第4回	学校教育制度と今日の課題が理解できる。	学校教育制度と教育が抱える今日の課題を調べ授業に臨む。(90分)	学校教育制度と教育が抱える今日の課題について整理する。(90分)
担当教員			

第5回	国及び都道府県と市町村の制度と関係性、社会状況と学校教育が抱える課題について理解できる。	国及び都道府県と市町村の制度と関係性について調べ授業に臨む。(90分)	国及び都道府県と市町村の制度と関係性、社会状況と学校教育が抱える課題について整理する。(90分)
担当教員			
第6回	学校経営目標、学校経営さらに校務分掌組織と学校評価活動について理解できる。	学級経営の意義と基本的要素さらに適切な運用とは何かを調べ授業に臨む。(90分)	学級経営の意義と基本的要素さらに適切な運用を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	学級経営の意義と基本的要素さらに適切な運用について理解できる。	学級経営の意義と基本的要素さらに適切な運用について調べ授業に臨む。(90分)	学級経営の意義と基本的要素さらに適切な運用について整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教育研修の意義とその進め方について理解できる。	教育法で保障されている研修活動とはどのような意義があるのかを調べ授業に臨む。(90分)	研修活動の意義と進め方、現状における課題について整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教職員の種類と任用制度、人事評価について理解できる。	教職員の種類と任用制度、人事評価とは何かを調べ授業に臨む。(90分)	教職員の種類と任用制度、人事評価について整理する。(90分)
担当教員			
第10回	教職員の服務規定(職務上・身分上)を理解できる。	教職員の服務規定(職務上・身分上)について調べ授業に臨む。(90分)	教職員の服務規定(職務上・身分上)について調べ授業に臨む。(90分)
担当教員			

第11回	教育制度と生徒指導(生徒指導提要の改訂)について理解できる。	教育制度と生徒指導(生徒指導提要の改訂)の関連について調べ授業に臨む。(90分)	教育制度と生徒指導(生徒指導提要の改訂)について整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学校安全とは何か。地域との連携を含め事故の未然防止及び対応の基礎を理解できる。	学校安全とは何か。地域との連携を含め事故の未然防止、対応について調べ授業に臨む。(90分)	学校安全とは何か。地域との連携を含め事故の未然防止、対応について整理する。(90分)
担当教員			
第13回	食育基本法、さらに学校における食育の推進について理解できる。	食育基本法、さらに学校における食育の推進制度について調べ授業に臨む。(90分)	食育基本法、さらに学校における食育の推進制度について整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、生涯学習制度の意義と推進、さらに今日的課題を理解できる。	小テストに向けての学習を行い、生涯学習制度とは何かを調べ授業に臨む。(90分)	生涯学習制度の意義と推進、さらに今日的課題について整理する。(90分)
担当教員			
第15回	「教育制度とチーム学校の意義」、「地域との連携」について理解でき本科のまとめを行う。	「教育制度とチーム学校の意義」、「地域との連携」について調べ学習に臨む。(90分)	「教育制度とチーム学校の意義」、「地域との連携」についてまとめ、本科の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	ルーブリックの評価規準による毎時間の学習レポート (1回1点～5点で14回・合計70点)	

その他	30	小テスト(30問×1点・30点)
教科書		
自作の資料による。		
参考文献		
文部科学省刊行物による。		
履修条件・留意事項等		
学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「教育制度」の理論への理解を深めて頂きたい。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 英語				ナンバリング	3558
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						
授業の位置づけ							
本科目は、教育職員免許状(小学校)を取得するための科目であり、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」に關係する科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に位置づく科目である。「英語概論」を基礎とする科目である。							
授業の概要							
本授業では、授業実践に必要なスキルと英語力を身につけ、それを活用できる力を養う。与えられた課題を調べ、グループ毎に発表する。また、聞く力、話す力(やり取り・発表)、読む力、書く力を授業場面を意識しながら、英語教材、テキストをどのように活用していくかペアワークでプレゼンテーションを行う。後半は模擬授業を中心に進める。							
到達目標							
小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解できるようになる。 児童期の第二言語習得の特徴について理解し模擬授業を行うことができるようになる。 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)について理解した模擬授業ができるようになる。 異文化理解は、授業場面に活用して応用し模擬授業をすることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントで作成した資料を提示し、動画も取り入れて、ペアワーク、グループワークの活動を多く活用して授業を進めていく。アクティブラーニングの手法を多く取り入れる。							
ICT活用							
ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かす。							
実務経験のある教員の教育内容							

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきた。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで常に課題をフィードバックしていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 講義の進め方について	テキストを読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第2回	学習指導要領に見る外国語活動と外国語	テキストのUnit1を読んでおく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第3回	小・中の連携と小学校の役割	テキストのUnit2を読んでおく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第4回	国語教育との連携とCLILの活用	テキストのUnit3を読んでおく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第5回	音と文字 フォニックスの指導活用と指導方法	フォニックスの指導方法をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第6回	Classroom English, Small Talk, Teacher Talk	与えられた資料とテキストのUnit 8を読んでまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第7回	学習到達目標、学習指導案の作り方1	テキストUnit12を読んで、学習指導案を作成しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第8回	学習到達目標、学習指導案の作り方2	テキストUnit12を読んで、学習指導案を作成しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第9回	模擬授業1	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第10回	模擬授業2	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第11回	模擬授業3	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第12回	模擬授業4	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第13回	模擬授業5	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第14回	模擬授業の総括	学習指導案の比較を行い、自己学習指導案の完成をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 学習状況の評価	この講義で学んだことを整理してまとめる(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表3回 50% 模擬授業指導案 25% 模擬授業 25%	

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅰ－Ⅰ(1組)				ナンバリング	3800
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」に関連する科目である。保育内容総論や保育者論などの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-Ⅰに必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅲの基礎ともなる。							
授業の概要							
保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。施設実習を行うため必要な「施設の現状と課題」「施設実習の意義と目的」「施設実習の特徴」「施設実習の心得」「実習日誌について」などを学ぶ。							
到達目標							
1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。 3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。 4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。							
授業の方法							
保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像(DVD)視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を中心に行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 児童福祉施設の社会的な役割、「社会的養護を行う施設」の特性について、また、実習園の特色を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第4回	児童福祉法と関連法規 児童福祉法、社会福祉法等についての確認を行い、その概要について理解を深める。また、「こどもの最善の利益」の意味を理解し、取り組みについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習に必要な手続きについて 施設実習の各段階における手続きの内容について学ぶ(実習園の選択・決定、実習における必要書類、実習園によるオリエンテーション、事前事後指導、事後の御礼等)。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	施設実習の実際について① 施設の役割りと機能、施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第10回	施設実習の実際について② 対象者の理解をするために、観察の方法、記録の取り方、具体的援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第11回	施設実習の実際について③ 各施設における計画や活動、対象者の状態に応じた生活、活動や環境について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	施設実習の実際について④ 支援計画の理解、活用とこれらの計画に対する記録と省察・自己評価について理解する	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第13回	施設実習の実際について⑤(美馬) 施設における保育士の業務内容や職員間の分担や連携、職業倫理について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	「もしもの時」に備える 施設においての安全対策や健康管理について理解をする。また、実習中に、1)事故にあったら 2)ケガをさせたら 3)園の物を壊したら 4)具合が悪くなったらどうするかについて知る。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行うにあたり、1)訪問指導の意義 2)訪問指導の内容を理解し、実習に臨む。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)	

その他	0	
教科書		
Let's have a dialogue ! ワークシートで学ぶ施設実習／同文書院 保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編 保育所保育指針／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持つての履修が望まれる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅰ－Ⅰ(2組)				ナンバリング	3800
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」に関連する科目である。保育内容総論や保育者論などの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-Ⅰに必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅲの基礎ともなる。							
授業の概要							
保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。施設実習を行うため必要な「施設の現状と課題」「施設実習の意義と目的」「施設実習の特徴」「施設実習の心得」「実習日誌について」などを学ぶ。							
到達目標							
1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。 3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。 4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。							
授業の方法							
保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像(DVD)視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を中心に行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 児童福祉施設の社会的な役割、「社会的養護を行う施設」の特性について、また、実習園の特色を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第4回	児童福祉法と関連法規 児童福祉法、社会福祉法等についての確認を行い、その概要について理解を深める。また、「こどもの最善の利益」の意味を理解し、取り組みについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習に必要な手続きについて 施設実習の各段階における手続きの内容について学ぶ(実習園の選択・決定、実習における必要書類、実習園によるオリエンテーション、事前事後指導、事後の御礼等)。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	施設実習の実際について① 施設の役割りと機能、施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第10回	施設実習の実際について② 対象者の理解をするために、観察の方法、記録の取り方、具体的援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第11回	施設実習の実際について③ 各施設における計画や活動、対象者の状態に応じた生活、活動や環境について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	施設実習の実際について④ 支援計画の理解、活用とこれらの計画に対する記録と省察・自己評価について理解する	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第13回	施設実習の実際について⑤ 施設における保育士の業務内容や職員間の分担や連携、職業倫理について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	「もしもの時」に備える 施設においての安全対策や健康管理について理解をする。 また、実習中に、1) 事故にあったら 2) ケガをさせたら 3) 園の物を壊したら 4) 具合が悪くなったらどうするかについて知る。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行うにあたり、1) 訪問指導の意義 2) 訪問指導の内容を理解し、実習に臨む。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)	

その他	0	
教科書		
Let's have a dialogue ! ワークシートで学ぶ施設実習／同文書院 保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編 保育所保育指針／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持つての履修が望まれる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こどもの発達と保幼小連携				ナンバリング	3610
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている(知識・技能)」を最重点に位置付けている科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」のための科目である。こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年) 教職実践演習(4年)に繋がっていく科目として位置づけられる。							
授業の概要							
幼児期から児童期における子どもの心身の発達を教育心理臨床の視点で捉えながら、具体的な事例をもとに検討・考察を行い理解を深める。また、子どもの成長を見守る保護者、担任、管理職がどのように連携しながら、支援、援助していくとよいのかを「コミュニケーション」をキーワードに実践的視座から検討、考察を加え、幼稚園・保育所から小学校に滑らかに繋げていく方策を理解する。							
到達目標							
1. 幼児期、児童期のこどもの発達と行動をしっかり捉え、疑問な点を指摘したり、論じたりできる。 2. 幼児期から児童期にかけての不登校、いじめ、小1プロブレム等の問題を正しく捉えることができる。 3. 子どもを中心に据えた幼保小の連携のあり方や実際場面での支援・援助の方法について説明できる。 4. こどもの発達や幼小連携について自分なりの考えをもち、質問したり、意見を述べたりできる。							
授業の方法							
講義がメインとなるが、パワーポイントと配布物、そして視聴覚メディアを活用しながら行い、学生の質問や対話を多く取り入れていく。毎回、小学校や幼稚園の具体的な事例を提示し、「こどもの発達を見取っていくこと」と「幼小連携の重要性に気付かせる。可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び(＝アクティブラーニング)ができるような工夫をする。課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。							
ICT活用							
毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいようにする。こどもの発達や保幼小連携に関連した画像や動画を視聴し、互いに意見を述べ合う活動を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

公認心理師や臨床心理士としての経験を生かして発達心理学的な知識を盛り込んだ授業を展開していく。
また、小学校教員として35年勤務した経験があるため、教育に関する幅広い知識、知見を有している。この経験を生かし、保幼小連携の重要性などについての講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。
また出てきた課題や質問は、全体にフィードバックしながら理解を確かなものにする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 「子どもの発達と幼小の関連」では、幼児期、児童期の基本的な押さえと幼児教育と小学校教育の相違について解説する。 また、小1プロブレムなどの教育的な諸問題にも言及しながら、幼保小の連携の重要性について理解する。	シラバスをしっかりと読み込んでおくこと。(90分)	今まで幼小保の科目で学んだ中から、気になる学者・実践者(一人)を調べてくること。(90分)
担当教員			
第2回	【幼児期と児童期の相違】 「幼児期とは何か、児童期とは何か」を子どもの心身の発達面から包括的に捉えていく。乳幼児期から児童期までを俯瞰し、いくつかの発達理論や具体的な事例などを通して、グループで検討しながら幼児期から児童期にかけての成長を理解する。	事前に配布された幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	【幼児期の遊びと発達】 幼稚園や保育所での子どもの様子や行動に着目しながら、遊びの種類、遊び方、遊びの相互作用などを確認しながら、幼児期の子どもにとっての遊びが如何に重要であるかを理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	【保育園・幼稚園から小学校への接続】 小学校と幼稚園をつなぐ、接続プログラムやスタートカリキュラムについての知見を深め、その具体的な取り組み方について、グループで検討し全体場で発表し理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			

第5回	【小1プロブレムの理解とその解消法】 小1プロブレムの解消法について、多角的、多面的に理解しながら、その解決策については小集団で検討し全体場で発表する。 また、小学校入学時のこどもの発達や心理についても理解を深める。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	【子どもの成長の様子と記録の見取り方】 子どもの成長の様子の記録の取り方や日々の見取り方などを教育現場で使われているチェック表や行動記録表などをもとに検討し、よりよい記録の取り方を学ぶ。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	【幼児・児童の問題考察】 幼小児童の問題行動について、実際の事例から検討し考察する。 また、学校になじめない少し気になるこどもの中には、発達障害や愛着障害、さらには虐待やネグレクトの子がいる可能性があることを理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	【子どもとのコミュニケーションの取り方や関係づくり】 子どもとの関係作りについて、コミュニケーション対応の5原則を踏まえながら、学校行事、授業場面、個別対応、集団行動時などの具体的事例から理解を深める。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第9回	【子どもの成長を見守り方と保護者との連携】 保護者との連絡・連携について、コミュニケーション対応の5原則を踏まえながら、日々の連絡帳、家庭配布物、通知表などの書きまとめ方などについて理解を深める。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第10回	【職場におけるコミュニケーションの取り方と日々の指導・助言・支援】 職場における同僚との協業・協働について、コミュニケーション対応の5原則を踏まえながら、日々の指導・助言・支援などの仕方について理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			

第11回	【子どもへの対応と管理職への報告・連絡・相談の仕方】 管理職や指導的立場にいる者との関わり方を、コミュニケーション対応の5原則を踏まえながら、報告・連絡・相談など具体的な場面を通して理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。 (90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第12回	保幼小連携の観点から、発達障害や軽度の知的障害についての理解を深め、実際場面での具体的事例を通して、適切な指導・援助法などを理解する。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。 (90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第13回	【子どもの発達と学力】 保幼小連携の視座で「学力とは何か？」を幼児教育から見た学力と小学校から見た学力の接点について解説する。また、幼児教育とのつながりが濃い、生活科やそれに続く総合的な学習の時間についても理解を深める。	事前に配布された保幼小と発達に関する資料を読むこと。小論文テストに備えて練習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第14回	【教育における評価法】 幼児教育や小学校教育において、子どもたちをどのように見取り評価していくと良いのかを考察する。学習指導案や活動案を比較検討し、総括評価、形成評価、到達度評価、変容度評価、パフォーマンス評価などと絡めて、子どもを多面的に捉えていくことの重要性を理解する。	事前に配布された幼小と発達に関する資料を読むこと。小論文テストに備えて練習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(90分)
担当教員			
第15回	【講義をふりかえって】 これまでの講義を振り返り、内省しながら話し合い幼小連携の在り方を再確認する。「幼小小の連携で今、求められていることとその理由を述べよ。また、自分が教育現場に立った時に、どのような連携を行っていきたいか」について文章にまとめる。◎400字以内 横書き	事前に配布された幼小と発達に関する資料を読むこと。小論文テストに備えて十分に構成や内容を検討しておくこと。 (90分)	これまで配布された資料を読み返し、こどもの発達と保幼小連携の学びを内省すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物による 5点(小課題とメモ)×14＝70点(1-14) 30点(小論文)×1＝30点	

その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		
適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
辞書の持ち込みは可とする。質問は随時受け付ける。 レポート等は提出期限を厳守する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(音楽表現2)(2組)				ナンバリング	3371
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		今井 由恵、西野 美穂					
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ 幼児音楽1・2」「幼児と表現」「保育内容指導法(音楽表現1)」と関連し、「教科教育法 音楽」「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもの音楽表現を支援するためには、知識・技能のほかに、他との協調性やコミュニケーション力など、学生自身が身につけたい要素がある。音楽においてこれらを身につける方法の一つとして、アンサンブル教育が挙げられる。本時は、アンサンブルを通じた音楽の専門的知識と技能のさらなる向上と、こどもと保育者が音楽の楽しみを共有する方法、さらには教育・保育において育みたい資質・能力に対する理解や、具体的な指導場面を想定した教育・保育を構想する能力を伸ばすとともに、自身の豊かな感性と人間性を育むことを目指す。							
到達目標							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらいや内容について把握し、こどもの発達に準じた音楽活動に結びつけて考えることができる ・主体的・対話的で深い学びがどのようなものであるか、さまざまな音楽活動を通して自ら考えることができる ・器楽奏法の基本を身につけ、身近な楽器の演奏や指導ができる ・アンサンブル活動を通して、客観的に自身を振り返ることができる ・楽曲の簡単な編曲法を学び、こどもの発達に即した楽器構成を考えて、自ら楽譜に記すことができる							
授業の方法							
①板書、プリント配布の他、視聴覚メディアなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。							
ICT活用							
本学の環境に適した、タブレット端末(あるいはスマートフォンなど)を用いた実践を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについては、コメントなどを記した後に返却する。
実技については、その場で優れた点や改善点をコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:授業の概要、アンサンブル教育について これからの授業の流れや留意点を説明し、アンサンブル教育の重要性について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	アンサンブルの基礎1:楽器遊びについて 打楽器を中心としたこどもの楽器遊びについて、映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP50～52、P97～98、P106～114、P117～120を読み、予習する。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第3回	アンサンブルの基礎2:手作り楽器について 身近な素材を用いた手作り楽器の制作を通して、幼児の表現活動について考察する (注意点)手作り楽器の材料となる物品を各自必ず用意すること	テキストのP97～98、P115～116を読み、予習する。手作り楽器作成の準備をする。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第4回	アンサンブルの基礎3:器楽奏法の基礎(特別講義) 身近な打楽器の基本奏法と、こどもが安全に楽器遊びをするための楽器の取り扱い方を学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストのP99～102、事前配布するプリントに目を通し、予習する。(30分)	学んだ内容を自身のプリントに書き込むなど、知識や留意点を忘れないよう復習する。(15分)
担当教員			

第5回	アンサンブル表現法1: 器楽によるアンサンブル1 身近な楽器を用いた器楽合奏について、グループワークを通して探究する	器楽奏法の基本について、プリントなどを通して予習する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第6回	アンサンブル表現法2: 器楽によるアンサンブル2 前回は引き続きグループワークを行い、表現の内容を深めることを探究する	前回の事後学習の結果から、仲間との音楽作りがスムーズに進むよう計画を立てる。(20分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第7回	アンサンブル表現法3: こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために1～即興の基本 即興演奏表現の基礎となるスリーコードを確認し、歩く・走る・飛ぶ・スキップなど、こどもの表現活動に必要なリズム・パターンの基本について、実践を通して学ぶ	テキストのP46～49を読み、鍵盤楽器で実践する。P71～72を読み、コードネームによる和音付けの基本(スリーコード)を復習する。(30分)	歩く、走る、スキップするなど、こどもの動きに合わせたリズム・パターンを鍵盤で繰り返し実践する。(15分)
担当教員			
第8回	アンサンブル表現法4: こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために2～曲想とテンポ 基本的なリズムパターンをもとに、曲想の違いによるテンポの変化について検証する	テキストのP46～49に再度目を通し、鍵盤楽器で実践する。(30分)	さまざまな曲想の基本的なリズム・パターンの伴奏形を復習し、実践する。(15分)
担当教員			
第9回	アンサンブルの応用1: 教材研究1～ピアノの伴奏付け 指定曲の詩とメロディーから楽曲の持つイメージを読み取り、こどもたちが音楽する楽しみを感じることができるような楽器構成を考え、これまで学習したすべてを用いながらピアノ伴奏を考察する	伴奏創作の基本となるスリーコード、カデンツ、調性などについて、実践しながら確認する。(30分)	自分で書いた作品を弾き、イメージ通りのコードと正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			
第10回	アンサンブルの応用2: 教材研究2～打楽器を用いたアレンジについて1(創作活動) ピアノ伴奏と打楽器のリズムの関係を考慮しながら、アレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、使用する打楽器についてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。(30分)	作品を弾き、内容を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			

第11回	アンサンブルの応用3:教材研究3～打楽器を用いたアレンジについて2(創作活動) 前回に引き続き、打楽器を用いたアレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。(30分)	作品を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、楽しめる内容であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			
第12回	アンサンブルの応用4:教材研究4～打楽器を用いたアレンジについて3(仕上げ) 演奏者の立場から楽譜を推敲し、打楽器を用いたアレンジ作品を仕上げる	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかどうか考察する。(30分)	自身が書いた作品のコピーを用意しておき、弾き歌いの練習をする。(15分)
担当教員			
第13回	アンサンブルの応用5:演奏実践研究1～アレンジ作品の楽譜の読み取り アレンジ作品の試演会に向け、アレンジ作品の楽譜の読み取りと合奏練習をグループ毎に進める	本授業のための楽譜を当日配布するので準備はないが、これまで学習したスリーコード、カデンツなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる(15分)
担当教員			
第14回	アンサンブルの応用6:演奏実践研究2～客観的演奏研究 聴き手を意識した合奏練習を進め、客観的に振り返りながら演奏表現について探求する	楽曲の全体像をイメージし、拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び主要調のスリーコードなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(15分)
担当教員			
第15回	アンサンブルの応用7:演奏実践研究3～アレンジ作品試演会 これまで身につけた知識・技術をすべて用いて、自らを振り返りつつ、感性豊かな演奏表現を目指す こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を打ち合わせ、聴き手が楽しめる演奏となるよう準備を進める。(15分)	アンサンブルの楽しみと、他者との活動に必要と考えられるポイント、こどもの目を通した自身について考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%) ピアノのコード付け(15%)	

その他	50	レポート課題(50%)
教科書		
表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―／石井玲子 編／教育情報出版 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社		
参考文献		
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育者のためのリズム遊び／木許隆 他／音楽之友社 その他、授業の中で適宜配布、紹介する		
履修条件・留意事項等		
五線ノートを必ず用意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(音楽表現2)(1組)				ナンバリング	3371
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員		今井 由恵、西野 美穂					
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ 幼児音楽1・2」「幼児と表現」「保育内容指導法(音楽表現1)」と関連し、「教科教育法 音楽」「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもの音楽表現を支援するためには、知識・技能のほかに、他との協調性やコミュニケーション力など、学生自身が身につけたい要素がある。音楽においてこれらを身につける方法の一つとして、アンサンブル教育が挙げられる。本時は、アンサンブルを通じた音楽の専門的知識と技能のさらなる向上と、こどもと保育者が音楽の楽しみを共有する方法、さらには教育・保育において育みたい資質・能力に対する理解や、具体的な指導場面を想定した教育・保育を構想する能力を伸ばすとともに、自身の豊かな感性と人間性を育むことを目指す。							
到達目標							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらいや内容について把握し、こどもの発達に準じた音楽活動に結びつけて考えることができる ・主体的・対話的で深い学びがどのようなものであるか、さまざまな音楽活動を通して自ら考えることができる ・器楽奏法の基本を身につけ、身近な楽器の演奏や指導ができる ・アンサンブル活動を通して、客観的に自身を振り返ることができる ・楽曲の簡単な編曲法を学び、こどもの発達に即した楽器構成を考えて、自ら楽譜に記すことができる							
授業の方法							
①板書、プリント配布の他、視聴覚メディアなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。							
ICT活用							
本学の環境に適した、タブレット端末(あるいはスマートフォンなど)を用いた実践を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについては、コメントなどを記した後に返却する。
実技については、その場で優れた点や改善点をコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:授業の概要、アンサンブル教育について これからの授業の流れや留意点を説明し、アンサンブル教育の重要性について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	アンサンブルの基礎1:楽器遊びについて 打楽器を中心としたこどもの楽器遊びについて、映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP50～52、P97～98、P106～114、P117～120を読み、予習する。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第3回	アンサンブルの基礎2:手作り楽器について 身近な素材を用いた手作り楽器の制作を通して、幼児の表現活動について考察する (注意点)手作り楽器の材料となる物品を各自必ず用意すること	テキストのP97～98、P115～116を読み、予習する。手作り楽器作成の準備をする。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第4回	アンサンブルの基礎3:器楽奏法の基礎(特別講義) 身近な打楽器の基本奏法と、こどもが安全に楽器遊びをするための楽器の取り扱い方を学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストのP99～102、事前配布するプリントに目を通し、予習する。(30分)	学んだ内容を自身のプリントに書き込むなど、知識や留意点を忘れないよう復習する。(15分)
担当教員			

第5回	アンサンブル表現法1:器楽によるアンサンブル1 身近な楽器を用いた器楽合奏について、グループワークを通して探究する	器楽奏法の基本について、プリントなどを通して予習する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第6回	アンサンブル表現法2:器楽によるアンサンブル2 前回は引き続きグループワークを行い、表現の内容を深めることを探究する	前回の事後学習の結果から、仲間との音楽作りがスムーズに進むよう計画を立てる。(20分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第7回	アンサンブル表現法3:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために1～即興の基本 即興演奏表現の基礎となるスリーコードを確認し、歩く・走る・飛ぶ・スキップなど、こどもの表現活動に必要なリズムパターンの基本について、実践を通して学ぶ	テキストのP46～49を読み、鍵盤楽器で実践する。P71～72を読み、コードネームによる和音付けの基本(スリーコード)を復習する。(30分)	歩く、走る、スキップするなど、こどもの動きに合わせたリズム・パターンを鍵盤で繰り返し実践する。(15分)
担当教員			
第8回	アンサンブル表現法4:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために2～曲想とテンポ 基本的なリズムパターンをもとに、曲想の違いによるテンポの変化について検証する	テキストのP46～49に再度目を通し、鍵盤楽器で実践する。(30分)	さまざまな曲想の基本的なリズムパターンの伴奏形を復習し、実践する。(15分)
担当教員			
第9回	アンサンブルの応用1:教材研究1～ピアノの伴奏付け 指定曲の詩とメロディーから楽曲の持つイメージを読み取り、こどもたちが音楽する楽しみを感じることができるような楽器構成を考え、これまで学習したすべてを用いながらピアノ伴奏を考察する	伴奏創作の基本となるスリーコード、カデンツ、調性などについて、実践しながら確認する。(30分)	自分で書いた作品を弾き、イメージ通りのコードと正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			
第10回	アンサンブルの応用2:教材研究2～打楽器を用いたアレンジについて1(創作活動) ピアノ伴奏と打楽器のリズムの関係を考慮しながら、アレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、使用する打楽器についてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。(30分)	作品を弾き、内容を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			

第11回	アンサンブルの応用3:教材研究3～打楽器を用いたアレンジについて2(創作活動) 前回に引き続き、打楽器を用いたアレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。(30分)	作品を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、楽しめる内容であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			
第12回	アンサンブルの応用4:教材研究4～打楽器を用いたアレンジについて3(仕上げ) 演奏者の立場から楽譜を推敲し、打楽器を用いたアレンジ作品を仕上げる	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかどうか考察する。(30分)	自身が書いた作品のコピーを用意しておき、弾き歌いの練習をする。(15分)
担当教員			
第13回	アンサンブルの応用5:演奏実践研究1～アレンジ作品の楽譜の読み取り アレンジ作品の試演会に向け、アレンジ作品の楽譜の読み取りと合奏練習をグループ毎に進める	本授業のための楽譜を当日配布するので準備はないが、これまで学習したスリーコード、カデンツなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる(15分)
担当教員			
第14回	アンサンブルの応用6:演奏実践研究2～客観的演奏研究 聴き手を意識した合奏練習を進め、客観的に振り返りながら演奏表現について探求する	楽曲の全体像をイメージし、拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び主要調のスリーコードなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(15分)
担当教員			
第15回	アンサンブルの応用7:演奏実践研究3～アレンジ作品試演会 これまで身につけた知識・技術をすべて用いて、自らを振り返りつつ、感性豊かな演奏表現を目指す こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を打ち合わせ、聴き手が楽しめる演奏となるよう準備を進める。(15分)	アンサンブルの楽しみと、他者との活動に必要と考えられるポイント、こどもの目を通した自身について考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%) ピアノのコード付け(15%)	

その他	50	レポート課題(50%)
教科書		
表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―／石井玲子 編／教育情報出版 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社		
参考文献		
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育者のためのリズム遊び／木許隆 他／音楽之友社 その他、授業の中で適宜配布、紹介する		
履修条件・留意事項等		
五線ノートを必ず用意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(健康2)(1組)				ナンバリング	3355
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを持つこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
こどもの心身の発育・発達について理解すると共に、それらと日常生活や遊び(運動)がこどもの「健康」にどのように影響していくかを学び、今後活かすことのできる保育者をを目指す。							
到達目標							
①こどもの健康に関する課題や問題点を指摘できる。 ②生活リズムの乱れや体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。 ③保育所・幼稚園での、安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、小テストの解答及び解説 レポートのコメント記入後返却			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンスと健康1の復習	健康1の資料に目を通しておくこと(20分)	「健康1」に関しての課題を出すのでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第2回	こどもの健康な育ち 健康な育ち、こどもらしさとは何かを考える	「こどもの健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておくこと(20分)	自分の考えと実際の内容を整理すること(25分)
担当教員			
第3回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点は何かを学ぶ	現代っ子の健康に係わる問題点は何かを考えておくこと(20分)	授業内容以外にも問題点はないかを考えておくこと(25分)
担当教員			
第4回	こどもとディスプレイ機器 ディスプレイ機器がこどもに及ぼす影響について学ぶ	こどもとディスプレイ機器の現状を調べておくこと(20分)	こどもとディスプレイ機器の現状について自分の考えをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第5回	安全管理と安全教育 「リスク」と「ハザード」について学ぶ	「リスク」と「ハザード」の違いについて調べておくこと(20分)	保育現場でのリスクとハザードについてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第6回	応急処置について 簡単な応急処置の方法を学ぶ	自分の知っている応急処置の方法をまとめておくこと(20分)	応急処置についての小テストを実施するので復習をしておくこと(25分)
担当教員			
第7回	幼児の基本的生活習慣・生活リズム 生活習慣・生活リズムについて学ぶ	幼児の基本的生活習慣・生活リズムとはどのようなものかを考えておくこと(20分)	自分の考えていることと実際の違いをまとめること(25分)
担当教員			
第8回	幼児の運動指針について 幼児の運動の内容・必要性について理解する	「運動指針」について事前に内容を調べておくこと(20分)	幼児の運動指針について小テストを実施するので復習をしておくこと(25分)
担当教員			
第9回	運動遊びを取り入れた指導案の作成と模擬保育の実施。	作成に当たっての参考書・資料等を準備し、事前に内容を考えておくこと(20分)	模擬保育を振り返り、今後の実習等に活かすことが出来るようまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第10回	「健康に関する発表」についての調査研究① 発表グループ・テーマの決定	発表する内容について各自考えておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第11回	「健康に関する発表」についての調査研究② テーマに沿って内容を調査	各自担当する部分の調査をして おくこと(20分)	各自担当する部分をまとめてお くこと(25分)
担当教員			
第12回	「健康に関する発表」についての調査研究③ 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をして おくこと(20分)	各自担当する部分をまとめてお くこと(25分)
担当教員			
第13回	発表① グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関す る内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこ と(20分)	発表された内容をよく理解して おくこと(25分)
担当教員			
第14回	発表② グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関す る内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこ と(20分)	発表された内容をよく理解して おくこと(25分)
担当教員			
第15回	発表③まとめ グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関す る内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこ と(20分)	発表された内容をよく理解して おくこと、定期試験に向けて学 習しておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等	

その他	30	レポート等
教科書		
適宜プリントを配布します		
参考文献		
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針		
履修条件・留意事項等		
講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫ノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。 講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(健康2)(2組)				ナンバリング	3355
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを持つこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
こどもの心身の発育・発達について理解すると共に、それらと日常生活や遊び(運動)がこどもの「健康」にどのように影響していくかを学び、今後に関与することのできる保育者をめざす。							
到達目標							
①こどもの健康に関する課題や問題点を指摘できる。 ②生活リズムの乱れや体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。 ③保育所・幼稚園での、安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、小テストの解答及び解説 レポートのコメント記入後返却			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンスと健康1の復習	健康1の資料に目を通しておくこと(20分)	「健康1」に関しての課題を出すのでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第2回	こどもの健康な育ち 健康な育ち、こどもらしさとは何かを考える	「こどもの健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておくこと(20分)	自分の考えと実際の内容を整理すること(25分)
担当教員			
第3回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点は何かを学ぶ	現代っ子の健康に係わる問題点は何かを考えておくこと(20分)	授業内容以外にも問題点はないかを考えておくこと(25分)
担当教員			
第4回	こどもとディスプレイ機器 ディスプレイ機器がこどもに及ぼす影響について学ぶ	こどもとディスプレイ機器の現状を調べておくこと(20分)	こどもとディスプレイ機器の現状について自分の考えをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第5回	身近な自然観察で春を感じる 野外に出て大学周辺の自然観察を行います。視覚だけではなく、聴覚、嗅覚など、五感をしっかり働かせて春を感じましょう。また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます。	「リスク」と「ハザード」の違いについて調べておくこと(20分)	保育現場でのリスクとハザードについてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第6回	応急処置について 簡単な応急処置の方法を学ぶ	自分の知っている応急処置の方法をまとめておくこと(20分)	応急処置についての小テストを実施するので復習をしておくこと(25分)
担当教員			
第7回	幼児の基本的生活習慣・生活リズム 生活習慣・生活リズムについて学ぶ	幼児の基本的生活習慣・生活リズムとはどのようなものかを考えておくこと(20分)	自分の考えていることと実際の違いをまとめること(25分)
担当教員			
第8回	幼児の運動指針について 幼児の運動の内容・必要性について理解する	「運動指針」について事前に内容を調べておくこと(20分)	幼児の運動指針について小テストを実施するので復習をしておくこと(25分)
担当教員			
第9回	運動遊びを取り入れた指導案の作成と模擬保育の実施。	作成に当たっての参考書・資料等を準備し、事前に内容を考えておくこと(20分)	模擬保育を振り返り、今後の実習等に活かすことが出来るようまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第10回	「健康に関する発表」についての調査研究① 発表グループ・テーマの決定	発表する内容について各自考えておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第11回	「健康に関する発表」についての調査研究② テーマに沿って内容を調査	各自担当する部分の調査をして おくこと(20分)	各自担当する部分をまとめてお くこと(25分)
担当教員			
第12回	「健康に関する発表」についての調査研究③ 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をして おくこと(20分)	各自担当する部分をまとめてお くこと(25分)
担当教員			
第13回	発表① グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第14回	発表② グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第15回	発表③まとめ グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと、定期試験に向けて学習しておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	毎回の授業で提出してもらいアクションペーパー(30%)および復習のための期末レポート(30%)で評価	

その他	40	春, 夏の観察レポート(30%), 第3回の指導案(10%)で評価
教科書		
適宜プリントを配布します		
参考文献		
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針		
履修条件・留意事項等		
講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。 講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉2)(2組)				ナンバリング	3367
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉1)」を基礎とし、「幼児の理解」に繋がる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと保育者(1) ①書きことばへの関心について理解する。②音節分解について理解する。③音韻抽出について理解する。 そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと保育者(2) ①保育者の関わりの諸問題について理解する。②子どもから学ぶ姿勢について理解する。③挨拶やしつけについて考える。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1) ①子どものことばの問題を捉えるために注目すべき力の育ちについて理解する。②見立て遊びについて理解する。③ふり遊びについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2) ①保育者がどのように関わると良いか理解する。②どのような点に気をつけるべきかについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	うたやふれあいを楽しむ遊び ①言葉との関連性に基づきながら「わらべ歌」を考える。②わらべ歌を行う際に留意することについて理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することを学ぶ。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(1) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を通して遊びを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(2) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を行う際に留意することを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(3) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこそして発表会への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(4) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこ以外の展開を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(5) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②「絵本:おおきなかぶ」から小学校教科国語科「大きなかぶ」を理解する。以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(6) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②絵本読みから製作活動への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(7) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②「絵本:はらぺこあおむし」の指導計画を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(8) ①絵本の歴史について理解する。②直観教育について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉2)(3組)				ナンバリング	3367
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉1)」を基礎とし、「幼児の理解」に繋がる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと保育者(1) ①書きことばへの関心について理解する。②音節分解について理解する。③音韻抽出について理解する。 そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと保育者(2) ①保育者の関わりの諸問題について理解する。②子どもから学ぶ姿勢について理解する。③挨拶やしつけについて考える。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1) ①子どものことばの問題を捉えるために注目すべき力の育ちについて理解する。②見立て遊びについて理解する。③ふり遊びについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2) ①保育者がどのように関わると良いか理解する。②どのような点に気をつけるべきかについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	うたやふれあいを楽しむ遊び ①言葉との関連性に基づきながら「わらべ歌」を考える。②わらべ歌を行う際に留意することについて理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することを学ぶ。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(1) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を通して遊びを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(2) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を行う際に留意することを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(3) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこそして発表会への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(4) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこ以外の展開を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(5) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②「絵本:おおきなかぶ」から小学校教科国語科「大きなかぶ」を理解する。以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(6) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②絵本読みから製作活動への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(7) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②「絵本:はらぺこあおむし」の指導計画を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(8) ①絵本の歴史について理解する。②直観教育について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉2)(1組)				ナンバリング	3367
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉1)」を基礎とし、「幼児の理解」に繋がる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと保育者(1) ①書きことばへの関心について理解する。②音節分解について理解する。③音韻抽出について理解する。 そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと保育者(2) ①保育者の関わりの諸問題について理解する。②子どもから学ぶ姿勢について理解する。③挨拶やしつけについて考える。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1) ①子どものことばの問題を捉えるために注目すべき力の育ちについて理解する。②見立て遊びについて理解する。③ふり遊びについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2) ①保育者がどのように関わると良いか理解する。②どのような点に気をつけるべきかについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	うたやふれあいを楽しむ遊び ①言葉との関連性に基づきながら「わらべ歌」を考える。②わらべ歌を行う際に留意することについて理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することを学ぶ。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(1) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を通して遊びを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(2) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を行う際に留意することを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(3) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこそして発表会への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(4) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこ以外の展開を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(5) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②「絵本:おおきなかぶ」から小学校教科国語科「大きなかぶ」を理解する。以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(6) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②絵本読みから製作活動への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(7) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②「絵本:はらぺこあおむし」の指導計画を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(8) ①絵本の歴史について理解する。②直観教育について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係2)(2組)				ナンバリング	3359
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係1)」を基礎とし、「幼児の理解」につながる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができる。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	「人間関係」におけるカウンセリングマインドとは ①カウンセリングマインドについて理解する。②教育(保育)におけるカウンセリングマインドについて理解する。③カウンセリングマインドを発揮した教育(保育)について理解する。	テキスト「人間関係におけるカウンセリングマインドとは」①～④を、事前に熟読し、解らない語句などを調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	将来を見通した統合保育の充実を考える(1) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②友達や先生に関心を示さない子について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「将来を見通した統合保育の充実を考える(1)」①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	将来を見通した統合保育の充実を考える(2) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②聴覚障害児に対する教育(保育)について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「将来を見通した統合保育の充実を考える(2)」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(1)―叱ることとほめること― ①子どもに対する保護者や保育者の接し方について理解する。②叱り方について理解する。③ほめ方について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり1」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(2)―対象喪失と記憶― ①対象喪失について理解する。②事例考察について学ぶ。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり2」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(1) ①3歳未満児にとっての「人とのかかわる力」について理解する。②誕生からおおむね二歳までの「人とのかかわる力」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(2) ①「人とのかかわる力」を豊かに育てるために3歳未満児保育において大切にしたいことについて理解する。②かかわり方について具体的に理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	集団保育場面における人間関係 ①愛着行動について理解を深める。②友達との信頼関係について理解する。③自己肯定感について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「集団保育場面における人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	幼児保育における「かかわる力」 ①「第3の道」を考え出す力(話し合い)について理解する。②年長児のトラブルと仲間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの幼児保育における「かかわる力」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する。テキストの他、参考資料を準備し、保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなど用いて具体的に立案する。	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する為の参考資料を準備しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。1 保育者の視点と保育される幼児の視点を実践的に体感する。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。2 保育者の視点と保育される幼児の視点を体感し、幼児理解を深める。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	異年齢縦割り保育にみる、領域「人間関係」の実践①日常生活②発表会等の取り組み 子どもたち同士が影響し影響されながら成長する異年齢児保育の日常と育まれるものについてICT等を利用した保育の記録方法、ポートフォリオ等の実際等を通して理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	ICTを利用した記録の方法等あらかじめ各自が調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。人と人のかかわりの中で成長する子どもの必要な要件についてまとめたり、保育者として専門的にかかわることの意味を確認したりすることを含む。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係2)(1組)				ナンバリング	3359
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこ							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	「人間関係」におけるカウンセリングマインドとは①カウンセリングマインドについて理解する。②教育(保育)におけるカウンセリングマインドについて理解する。③カウンセリングマインドを発揮した教育(保育)について理解する。	テキスト「人間関係におけるカウンセリングマインドとは」①～④を、事前に熟読し、解らない語句などを調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	将来を見通した統合保育の充実を考える(1)①統合保育に求められる諸課題について理解する。②友達や先生に関心を示さない子について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「将来を見通した統合保育の充実を考える(1)」①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	将来を見通した統合保育の充実を考える(2)①統合保育に求められる諸課題について理解する。②聴覚障害児に対する教育(保育)について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「将来を見通した統合保育の充実を考える(2)」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(1)―叱ることとほめること― ①子どもに対する保護者や保育者の接し方について理解する。②叱り方について理解する。③ほめ方について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり1」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(2)―対象喪失と記憶― ①対象喪失について理解する。②事例考察について学ぶ。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり2」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(1) ①3歳未満児にとっての「人とのかかわる力」について理解する。②誕生からおおむね二歳までの「人とのかかわる力」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(2) ①「人とのかかわる力」を豊かに育てるために3歳未満児保育において大切にしたいことについて理解する。②かかわり方について具体的に理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	集団保育場面における人間関係 ①愛着行動について理解を深める。②友達との信頼関係について理解する。③自己肯定感について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「集団保育場面における人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	幼児保育における「かかわる力」 ①「第3の道」を考え出す力(話し合い)について理解する。②年長児のトラブルと仲間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの幼児保育における「かかわる力」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する。テキストの他、参考資料を準備し、保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなど用いて具体的に立案する。	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する為の参考資料を準備しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。1 保育者の視点と保育される幼児の視点を実践的に体感する。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。2 保育者の視点と保育される幼児の視点を体感し、幼児理解を深める。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	異年齢縦割り保育にみる、領域「人間関係」の実践①日常生活②発表会等の取り組み 子どもたち同士が影響し影響されながら成長する異年齢児保育の日常と育まれるものについてICT等を利用した保育の記録方法、ポートフォリオ等の実際等を通して理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	ICTを利用した記録の方法等あらかじめ各自が調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。人と人のかかわりの中で成長する子どもの必要な要件についてまとめたり、保育者として専門的にかかわることの意味を確認したりすることを含む。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係2)(3組)				ナンバリング	3359
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係1)」を基礎とし、「幼児の理解」につながる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができる。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	「人間関係」におけるカウンセリングマインドとは ①カウンセリングマインドについて理解する。②教育(保育)におけるカウンセリングマインドについて理解する。③カウンセリングマインドを発揮した教育(保育)について理解する。	テキスト「人間関係におけるカウンセリングマインドとは」①～④を、事前に熟読し、解らない語句などを調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	将来を見通した統合保育の充実を考える(1) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②友達や先生に関心を示さない子について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「将来を見通した統合保育の充実を考える(1)」①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	将来を見通した統合保育の充実を考える(2) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②聴覚障害児に対する教育(保育)について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「将来を見通した統合保育の充実を考える(2)」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(1)―叱ることとほめること― ①子どもに対する保護者や保育者の接し方について理解する。②叱り方について理解する。③ほめ方について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり1」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(2)―対象喪失と記憶― ①対象喪失について理解する。②事例考察について学ぶ。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり2」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(1) ①3歳未満児にとっての「人とのかかわる力」について理解する。②誕生からおおむね二歳までの「人とのかかわる力」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	3歳未満児保育における「人とのかかわる力」(2) ①「人とのかかわる力」を豊かに育てるために3歳未満児保育において大切にしたいことについて理解する。②かかわり方について具体的に理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とのかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	集団保育場面における人間関係 ①愛着行動について理解を深める。②友達との信頼関係について理解する。③自己肯定感について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「集団保育場面における人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	幼児保育における「かかわる力」 ①「第3の道」を考え出す力(話し合い)について理解する。②年長児のトラブルと仲間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの幼児保育における「かかわる力」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する。テキストの他、参考資料を準備し、保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなど用いて具体的に立案する。	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する為の参考資料を準備しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。1 保育者の視点と保育される幼児の視点を実践的に体感する。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。2 保育者の視点と保育される幼児の視点を体感し、幼児理解を深める。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	異年齢縦割り保育にみる、領域「人間関係」の実践①日常生活②発表会等の取り組み 子どもたち同士が影響し影響されながら成長する異年齢児保育の日常と育まれるものについてICT等を利用した保育の記録方法、ポートフォリオ等の実際等を通して理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び収集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	ICTを利用した記録の方法等あらかじめ各自が調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。人と人のかかわりの中で成長する子どもの必要な要件についてまとめたり、保育者として専門的にかかわることの意味を確認したりすることを含む。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現2)(2組)				ナンバリング	3375
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。「保育内容Ⅵ絵画制作1」を基礎とし、こどもの描画活動に関する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動では、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる環境を整えることが重要である。そのためには、保育者が遊びの概念を理解し、楽しく造形活動が行える能力が必要である。本科目では「領域 表現」にかんする保育者の資質・能力を身につけるための表現技法の習得や、子どもが楽しめる絵本制作等をおこなう。							
到達目標							
1様々な実践例を通して論理的かつ柔軟な感性をみにつけ指導法を相対化できる。 2子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方の仮説を立て実践できる。 3子どものニーズや社会の状況に合わせた表現のための環境を考え続けることができる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 授業後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回まで投影機を使用し説明する。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:保育内容VI絵画制作1を振り返り、絵画制作の活動についての理解を深める。	教科書p43～p50まで読んでおく。(25分)	前期学んだことを振り返りワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	仕掛け絵 一動く口、動く目 顔をテーマに仕掛け絵を制作する保育者として指導する際のポイントをまとめさせる。	教科書p51～p60まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ― デカルコマニー 転写(合せ絵)することのできる図から遊びへの展開を考察する。	教科書p61～p70まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 ― 糸引き絵 技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p71～p80まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現① ステンドグラス絵を制作する。この活動の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p87～p96まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現②(パチック) クレヨンが水をはじく特性を理解し、実際の保育に展開できるようにする。	教科書p97～p99まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 ― 写し絵とスクラッチ クレヨンの特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p100～p101まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 ― ステンシルと量し絵 クレヨンの特徴をとらえ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p102～p103まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	絵画制作:表現技法 ― マーブルリング マーブルリング技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p104～p105まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	絵画制作:表現技法 フロッタージュ フロッタージュ技法の特徴を理解し、保育における適切な導入方法の考察もする。	教科書p106～p107まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	描画活動の授業作り1ー「スタンピング」を取り入れた指導案の作成。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p128～p131まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	描画活動の授業作り2ー「スタンピング」を取り入れた模擬授業を行なう。各班の発表を振り返り保育の現場で展開できる論理的な技術力を身につける。活動を振り返るために有効なデジタルカメラの使用法とまとめとしてのポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。)	模擬授業の準備をする。指導案を用意する。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	絵本制作 ー絵本の研究とテーマの検討 制作1 既存の絵本の中にある物語の構造を分析しその特徴を理解する。	任意の絵本を用意する。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第14回	絵本制作 ーテーマの決定と技法の検討 制作 2 テーマにあった表現技法、素材の研究をし工夫をする。	テーマにあった画材の準備をする。(25分)	絵本製作を進める。(20分)
担当教員			
第15回	絵本制作 ー 完成、発表と鑑賞 / 本講義まとめ 完成した絵本を鑑賞することで多様な価値を認識できるようにする。	発表に向けて準備する。(25分)	振り返りシートをまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブック・作品制作提出過程をみる	

その他	50	作品提出（絵本）レポート「子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方について」（800字以上）
教科書		
保育をひらく造形表現 著者：槇 英子 萌文書林		
参考文献		
創造的人間形成のために（著者：鬼丸 吉宏頸草書房）、幼稚園教育要領（文部科学省）		
履修条件・留意事項等		
大前提として忘れ物をしない（前期と同じ）。配布物や作成したプリント類は必ずファイリングし表現Ⅱ造形1につなげる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現2)(3組)				ナンバリング	3375
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。「保育内容Ⅵ絵画制作1」を基礎とし、こどもの描画活動に関する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「表現Ⅱ 造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動では、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる環境を整えることが重要である。そのためには、保育者が遊びの概念を理解し、楽しく造形活動が行える能力が必要である。本科目では「領域 表現」にかんする保育者の資質・能力を身につけるための表現技法の習得や、子どもが楽しめる絵本制作等をおこなう。							
到達目標							
1様々な実践例を通して論理的かつ柔軟な感性をみにつけ指導法を相対化できる。 2子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方の仮説を立て実践できる。 3子どものニーズや社会の状況に合わせた表現のための環境を考え続けることができる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 授業後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回まで投影機を使用し説明する。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:保育内容VI絵画制作1を振り返り、絵画制作の活動についての理解を深める。	教科書p43～p50まで読んでおく。(25分)	前期学んだことを振り返りワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	仕掛け絵 一動く口、動く目 顔をテーマに仕掛け絵を制作する保育者として指導する際のポイントをまとめさせる。	教科書p51～p60まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ― デカルコマニー転写(合せ絵)することのできる図から遊びへの展開を考察する。	教科書p61～p70まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 ― 糸引き絵 技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p71～p80まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現① ステンドグラス絵を制作する。この活動の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p87～p96まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現②(パチック) クレヨンが水をはじく特性を理解し、実際の保育に展開できるようにする。	教科書p97～p99まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 ― 写し絵とスクラッチ クレヨンの特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p100～p101まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 ― ステンシルと量し絵 クレヨンの特徴をとらえ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p102～p103まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	絵画制作:表現技法 ― マーブルリング マーブルリング技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p104～p105まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	絵画制作:表現技法 フロッタージュ フロッタージュ技法の特徴を理解し、保育における適切な導入方法の考察もする。	教科書p106～p107まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	描画活動の授業作り1ー「スタンピング」を取り入れた指導案の作成。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p128～p131まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	描画活動の授業作り2ー「スタンピング」を取り入れた模擬授業を行なう。各班の発表を振り返り保育の現場で展開できる論理的な技術力を身につける。活動を振り返るために有効なデジタルカメラの使用法とまとめとしてのポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。)	模擬授業の準備をする。指導案を用意する。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	絵本制作 ー絵本の研究とテーマの検討 制作1 既存の絵本の中にある物語の構造を分析しその特徴を理解する。	任意の絵本を用意する。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第14回	絵本制作 ーテーマの決定と技法の検討 制作 2 テーマにあった表現技法、素材の研究をし工夫をする。	テーマにあった画材の準備をする。(25分)	絵本製作を進める。(20分)
担当教員			
第15回	絵本制作 ー 完成、発表と鑑賞 / 本講義まとめ 完成した絵本を鑑賞することで多様な価値を認識できるようにする。	発表に向けて準備する。(25分)	振り返りシートをまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブック・作品制作提出過程をみる	

その他	50	作品提出（絵本）レポート「子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方について」（800字以上）
教科書		
保育をひらく造形表現 著者：槇 英子 萌文書林		
参考文献		
創造的人間形成のために（著者：鬼丸 吉宏頸草書房）、幼稚園教育要領（文部科学省）		
履修条件・留意事項等		
大前提として忘れ物をしない（前期と同じ）。配布物や作成したプリント類は必ずファイリングし表現Ⅱ造形1につなげる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現2)(1組)				ナンバリング	3375
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。「保育内容Ⅵ絵画制作1」を基礎とし、こどもの描画活動に関する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「表現Ⅱ 造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動では、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる環境を整えることが重要である。そのためには、保育者が遊びの概念を理解し、楽しく造形活動が行える能力が必要である。本科目では「領域 表現」にかんする保育者の資質・能力を身につけるための表現技法の習得や、子どもが楽しめる絵本制作等をおこなう。							
到達目標							
1様々な実践例を通して論理的かつ柔軟な感性をみにつけ指導法を相対化できる。 2子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方の仮説を立て実践できる。 3子どものニーズや社会の状況に合わせた表現のための環境を考え続けることができる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 授業後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回まで投影機を使用し説明する。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:保育内容VI絵画制作1を振り返り、絵画制作の活動についての理解を深める。	教科書p43～p50まで読んでおく。(25分)	前期学んだことを振り返りワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	仕掛け絵 一動く口、動く目 顔をテーマに仕掛け絵を制作する保育者として指導する際のポイントをまとめさせる。	教科書p51～p60まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ― デカルコマニー 転写(合せ絵)することのできる図から遊びへの展開を考察する。	教科書p61～p70まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 ― 糸引き絵 技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p71～p80まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現① ステンドグラス絵を制作する。この活動の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p87～p96まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現②(パチック) クレヨンが水をはじく特性を理解し、実際の保育に展開できるようにする。	教科書p97～p99まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 ― 写し絵とスクラッチ クレヨンの特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p100～p101まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 ― ステンシルと量し絵 クレヨンの特徴をとらえ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p102～p103まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	絵画制作:表現技法 ― マーブルリング マーブルリング技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p104～p105まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	絵画制作:表現技法 フロッタージュ フロッタージュ技法の特徴を理解し、保育における適切な導入方法の考察もする。	教科書p106～p107まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	描画活動の授業作り1ー「スタンピング」を取り入れた指導案の作成。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p128～p131まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	描画活動の授業作り2ー「スタンピング」を取り入れた模擬授業を行なう。各班の発表を振り返り保育の現場で展開できる論理的な技術力を身につける。活動を振り返るために有効なデジタルカメラの使用法とまとめとしてのポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。)	模擬授業の準備をする。指導案を用意する。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	絵本制作 ー絵本の研究とテーマの検討 制作1 既存の絵本の中にある物語の構造を分析しその特徴を理解する。	任意の絵本を用意する。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第14回	絵本制作 ーテーマの決定と技法の検討 制作 2 テーマにあった表現技法、素材の研究をし工夫をする。	テーマにあった画材の準備をする。(25分)	絵本製作を進める。(20分)
担当教員			
第15回	絵本制作 ー 完成、発表と鑑賞 / 本講義まとめ 完成した絵本を鑑賞することで多様な価値を認識できるようにする。	発表に向けて準備する。(25分)	振り返りシートをまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブック・作品制作提出過程をみる	

その他	50	作品提出（絵本）レポート「子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方について」（800字以上）
教科書		
保育をひらく造形表現 著者：槇 英子 萌文書林		
参考文献		
創造的人間形成のために（著者：鬼丸 吉宏頸草書房）、幼稚園教育要領（文部科学省）		
履修条件・留意事項等		
大前提として忘れ物をしない（前期と同じ）。配布物や作成したプリント類は必ずファイリングし表現Ⅱ造形1につなげる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と言葉				ナンバリング	3436
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーに示されている、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」科目であるとともに、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ようになる科目である。そして、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育要領において 領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と示されている。そのような幼児を育成するために、人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、また、言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、そして、幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、加えて、保育者は何をすべきかを考え、実際に行動・実践できるようになるための授業である。							
到達目標							
「人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できること」「乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できること」「言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できること」「言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につけること」「言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できること」「児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身につけること」「幼児の発達における児童文化財の意義について理解すること」である。							
授業の方法							
配布印刷物等を用いて授業をすすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。第5回授業においては、グループ協議及び発表等を行う。また、理解度確認テストを実施する。次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなどの解説)	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくか理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」(コミュニケーションとしての機能)を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解を深める。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	言葉の意義や機能について、「文字の意味や役割」(文字の機能)を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解を深める。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験するとともに、言葉遊びと幼児の言葉の発達とその関連を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	絵本などの児童文化財の中に描かれている幼児の姿を読み解くことで、幼児理解を深めるとともに、幼児にとっての児童文化財の意義を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	絵本などの児童文化財を実際に読んだり、演じたりすることで、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ 資料・返却された課題・小テストなどを確認し、復習を行う。	まとめに向けて、・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	
その他	0	なし	
教科書			

テキスト無し。
随時、課題及び資料を配布する。

参考文献

『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許を取得する者の必修科目である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と表現				ナンバリング	3437
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	今井 由恵、笠見 康大						
授業の位置づけ							
①幼稚園の領域に関する専門的事項を学ぶ専門科目であり、ディプロマポリシーの特に「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、幼児期のこどもについての基本的な知識」、また「多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質」を身につけるための科目である。 ②主に保育内容指導法(音楽表現・造形表現)の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領の領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。これらを実現するためには、教諭自身が豊かな表現者であることが望ましい。本講義では、領域「表現」に関する、こどもの表現の姿やその発達およびそれを促す要因、こどもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて学び、多様な表現活動への理解を深め、こどもの表現活動を支援するための知識・技能を身につける。							
到達目標							
・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 ・表現を生成する過程について理解している。 ・幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ・様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 ・身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現方法を理解している。 ・協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 ・様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。							
授業の方法							
①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディア、ICTなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、学生による発表などを行う(第4回)。							
ICT活用							
Googleクラスルームを活用し、場合によっては双方向型授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。(今井)

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。(笠見)

課題に対するフィードバックの方法

各回のリアクションペーパーに対するコメントは、授業の中でまとめて、または個別に返却する。(今井)

各回のリアクションペーパーについて、コメントを記載し返却する。(笠見)

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(授業構成・内容について説明) 領域「表現」のねらい、内容、位置づけ、および表現を生成する過程について学ぶ。	テキスト添付の「幼稚園教育要領」の表現に関する部分と、テキスト「第1章」を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井 由恵		
第2回	幼児の音楽表現の発達段階について、映像資料や事例を通して学ぶ。	テキスト「第2章」と配布資料を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井 由恵		
第3回	身近な自然や環境の中の音素材に触れ、「感じる・みる・聴く・楽しむ」ことを幼児の視点で分析し、教諭として幼児の素朴な表現を感受することを考察する。	テキスト「第4章」と配布資料を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井 由恵		
第4回	協働による音楽表現(アンサンブル)、伝承遊びとしてのわらべうたについて学ぶ。	テキスト「第6～10章」のうちの事前提示箇所を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井 由恵		

第5回	幼児の造形活動を「発達の側面」「特徴・特質的側面」「造形的・美的側面」から学ぶ。	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の領域「表現」について読んでおく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見 康大		
第6回	幼児の豊かな経験と創造的環境について考察する。	子どもの頃の遊びについてまとめておく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見 康大		
第7回	感じたことや考えたことを色や形を使って表出することについて考察する。	子どもの頃の造形体験についてまとめておく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見 康大		
第8回	幼児の多様な表現の保証と意味づくりに参加できる教諭の資質・能力について考察する。 領域「表現」のまとめ。	社会の中の「多様性」「創造性」について調べておく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見 康大		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーの提出・内容(40%)、レポート課題(60%)	
その他	0	なし	
教科書			

「表現者を育てるための保育内容『音楽表現』—音遊びから音楽表現へ—」石井玲子編、教育情報出版(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を含む)
「保育をひらく造形表現」槇英子著、萌文書林

参考文献

「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 文部科学省、フレーベル館
「新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現」無藤隆監修、萌文書林

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許状を取得する者の必修科目である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外実習					
科目名		特別支援学校教育実習				ナンバリング	4882
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている【関心・意欲・態度】」と特に関係する科目である。4基領域(各教科、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動)及び総合的な学習の時間の指導形態による授業観察と、個別の指導計画・個別の教育支援計画に基づく学習指導を行い、学習指導案作成を含めた教材研究・教材作成を行う科目である。 特別支援教育実習講義及び幼稚園教育実習または小学校教育実習のスキルを基礎としている。							
授業の概要							
特別支援学校において、学校経営の内容、学校評価の方法、保護者との連携、児童生徒の安全、地域のセンター機能の実際等を理解する。次に、各教科、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動、総合的な学習の時間の観察を行い、その後、指導案を作成して実際の指導を行う。また、学級経営の基礎や生徒指導についても理解を深める。実習終了後の反省会などを通して、教職に対する意欲を喚起する。							
到達目標							
①教育実習を通して、障がいのある幼児、児童・生徒の実態把握や配慮すべき留意事項などを習得することができる。 ②「領域・教科をあわせた指導」「教科別の指導」の学習指導案を作成することができる。 ③配属となった学級において授業研究を行うことができる。							
授業の方法							
道内の特別支援学校(盲学校・聾学校・養護学校など)において、2週間から3週間の期間、教育実習を行う。 授業研究のフィードバックとしての研究協議の場において、自己評価を行う。							
ICT活用							
パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的にわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、研究協議の場でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ 特別支援学校における事前指導(オリエンテーション) ・特別支援学校の実態等について説明を受ける。 ・特別支援教育に関する基礎的知識や教員の一人としての心得について説明を受ける。	なし	なし
担当教員			
第2回	○ 各特別支援学校での教育実習(3週間) ・特別支援学校での実習にあたっての配慮事項について説明を受ける。 ・学校経営、学校評価、保護者との連携、児童生徒の安全などについて理解する。	なし	なし
担当教員			
第3回	・地域における特別支援教育の「センター的機能の発揮」について理解する。 ・障がいのある幼児・児童・生徒の実態把握や配慮すべき留意事項などについて理解する。	なし	なし
担当教員			
第4回	・各学級に所属し、指導教員(学級担任等)のもと、基本的な事柄を学びながら実習を行う。 ・学級の子供の観察と理解や教育目標の設定、教育内容・方法などについて説明を受ける。	なし	なし
担当教員			

第5回	・「領域・教科をあわせた指導」「教科別の指導」について理解を深める。 ・実習校の障害種や児童生徒の実態に応じた学習指導案の作成に取り組む。	なし	なし
担当教員			
第6回	・授業研究の準備(教材研究等)並びに授業研究に向けた事前の授業を繰り返す行う。 ・授業研究に向けて、指導教諭並びに実習担当教諭等の指導を受ける。	なし	なし
担当教員			
第7回	・授業研究を実施すると共に、授業に対する自己反省の内容を整理する。 ・授業研究に関する反省会において、実習校の教員並びに大学の巡回指導担当より指導を受ける。	なし	なし
担当教員			
第8回	○ 大学における事後指導 ・教育実習に関する自己評価(反省等)を行い、課題レポートとしてまとめる。 ・実習報告会において成果などを発表する。	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・実習校による評価(40%)＜総合評価＞ ・実習日誌(30%)＜記述内容、実習後の反省・考察＞ ・実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
・基礎免許(幼稚園または小学校)の教育実習を履修すること。 ・3年次終了時まで、特別支援学校教諭免許の必修科目の80%以上(事前事後指導科目を含む)の単位履修が必要である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外実習					
科目名		特別支援学校教育実習講義(1組)				ナンバリング	3880
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目であり、学習指導要領に準拠した教育課程並びに特別支援学校での教育実習に向けた心構えについて学び、学習指導案に基づく模擬授業及び授業観察を行う科目である。 4年次の特別支援教育実習につながる。							
授業の概要							
特別支援学校の教育実習にあたっての心構えや特別支援学校の組織並びに通常の学校と異なる点について学ぶ。また可能な範囲で実習を行う学校種別ごとに分かれて学習指導案の作成方法について学ぶ。さらに実際に学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の反省に基づいた授業の評価方法を身につける。							
到達目標							
①特別支援学校における教育実習にむけた心構えなどについて理解できる。 ②実習を行う学校種別ごとに分かれての教材研究や学習指導案の作成ができる。 ③反省や評価に基づく模擬授業及び授業観察を行うことができる。							
授業の方法							
パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式・演習方式で進めていく。 フィードバックとしてミニレポートなどによる理解度の確認を行う。							
ICT活用							
パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら模擬授業や授業観察等を通して、互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介、指導案の作成のポイント等について、より具体的で実習に活かせるような授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物については、返却時に補足説明をし、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ オリエンテーション ・特別支援学校における教育実習講義のシラバスについての説明を受ける。 ・特別支援学校における教育実習にむけた基本的な心構えについて考える。	本講義の内容(シラバス)について確認する。(25分)	基本的な心構えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	○教育実習ハンドブックについて ・「保育実習・教育実習ハンドブック」(こども発達学科編)の内容について確かめる。 ・ハンドブックにより「特別支援学校教諭免許取得」にかかる実習内容などについて理解する。	ハンドブックの内容について確認する。(25分)	免許取得の内容をまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	○あいさつの仕方など、実習中の子供たちとのかかわり方について ・特別支援教育実習における配慮事項などについて、ハンドブックをもとに考える。 ・特別支援教育実習における教職員、保護者及び児童生徒への接し方について考える。	実習での配慮事項を確認する。(25分)	実習現場での配慮点をまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	○校務分掌と学級経営、学級(ホーム・ルーム)活動について ・特別支援学校における校務分掌や学級の形態について理解する。 ・特別支援学校における「個別指導計画」「個別的教育支援計画」について理解する。	特別支援学校の実態について調べる。(25分)	指導計画・教育支援計画をまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	○特別支援学校における教育実習の意義と目的について ・特別支援教育に関するDVDを視聴し、その教育に関するレポートをまとめる。 ・特別支援学校における教育実習にむけた自分の考えや抱負をまとめ発表する。	教育実習の意義・目的を確認する。(25分)	実習に向けた考え方などをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	○特別支援学校の組織や通常の学校との違いなどについて ・なぜ、特別支援教育が変わったのか、その基本となる考え方は何かを理解する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割について知る。 ・特別支援学校と特別支援学級並びに普通学級における教育の違いを理解する。	特別支援教育に関して調べる。(25分)	通常学級との違いをまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	○良い学級づくり、良い授業の進め方について ・特別支援教育における教育課程の構造について理解する。 ・知的障害教育及び視覚・聴覚・肢体不自由・病弱教育に関する教育課程の内容について理解する。 ・4領域(各教科・特別な教科 道徳・特別活動・自立活動)及び各指導の形態について理解する。	教育課程の構造について調べる。(25分)	領域、指導の形態についてまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	○教材研究、授業への準備について ・個別の実態把握から授業の計画・実施・評価(P・D・C・A)について理解する。 ・特別支援教育で対象となる児童生徒について考える。 ・支援を要する(障害のある)児童生徒への対応について考える。	授業のP・D・C・Aについて調べる。(25分)	児童生徒への対応についてまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	○学習指導案の作成について(教科別の指導) ・「教科別の指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「教科指導」と「教科別の指導」との違い(教育課程の再編成)について理解する。 ＜準備学習＞教科別の指導について調べる。 ＜事後学習＞教育課程の再編成についてまとめる。	教科別の指導について調べる。(25分)	教育課程の再編成についてまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	○学習指導案の作成について(領域・教科を合わせた指導) ・「領域・教科を合わせた指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」及び「自立活動」について理解する。	学習指導案の作成について調べる。(25分)	合わせた指導についてまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	○学習指導案の作成及び授業観察について ・特別支援学校に関する学校種別(障害種別)の教育内容等に関して理解する。 ・特別支援学校における5つの障害種に関して、各グループ毎に課題学習に取り組む。	特別支援学校の障害種について調べる。(25分)	グループごとの課題をまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	○模擬授業「学習指導案にそった授業及び授業観察」 ・作成した指導案をもとに、各グループ毎に模擬授業を行う。 ・各グループの模擬授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	○模擬授業「反省・評価に基づく授業及び授業観察」 ・各グループの模擬授業に対する反省・評価などをもとに授業を展開する。 ・反省・評価などをもとにした授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業の反省・評価に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録を仕上げる。(20分)
担当教員			
第14回	○教育実習に向けて ・実習ハンドブックなどを参考に実習日誌の書き方について考える。 ・実習報告書等の作成に取り組む。 ・実習の自己評価などの観点について整理し、実習課題との整合性をもたせる。	実習日誌の記入について確認する。(25分)	自己評価の観点についてまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	○まとめ ・特別支援教育実習講義の内容について整理する。 ・教育実習にあたっての決意や抱負について改めて整理し、発表する。	実習に向けた決意や抱負を考える。(25分)	本講義の内容についてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題の提出(20%) ・授業観察時の討議及び観察記録の提出(25%) ・学習指導案の作成(25%) ・模擬授業の実施(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
4年次の特別支援学校教育実習については、3年次終了時までに、特別支援学校教諭免許の必修科目の80%以上(事前事後指導科目を含む)の単位履修が必要となることに留意する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外実習					
科目名		特別支援学校教育実習講義(2組)				ナンバリング	3880
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
「ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目であり、学習指導要領に準拠した教育課程並びに特別支援学校での教育実習に向けた心構えについて学び、学習指導案に基づく模擬授業及び授業観察を行う科目である。 4年次の特別支援教育実習につながる。							
授業の概要							
特別支援学校の教育実習にあたっての心構えや特別支援学校の組織並びに通常の学校と異なることについて学ぶ。また可能な範囲で実習を行う学校種別ごとに分かれて学習指導案の作成方法について学ぶ。さらに、実際に学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の反省に基づいた授業の評価方法を身につける。							
到達目標							
①特別支援学校における教育実習にむけた心構えなどについて理解できる。 ②実習を行う学校種別ごとに分かれての教材研究や学習指導案の作成ができる。 ③反省や評価に基づく模擬授業及び授業観察を行うことができる。							
授業の方法							
パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式・演習方式で進めていく。 フィードバックとしてミニレポートなどによる理解度の確認を行う。							
ICT活用							
パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介、指導案作成のポイント等について、より具体的で実習に活かせるような授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物については、返却時に補足説明をし、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ オリエンテーション ・特別支援学校における教育実習講義のシラバスについての説明を受ける。 ・特別支援学校における教育実習にむけた基本的な心構えについて考える。	本講義の内容(シラバス)について確認する。(25分)	基本的な心構えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	○教育実習ハンドブックについて ・「保育実習・教育実習ハンドブック」(こども発達学科編)の内容について確かめる。 ・ハンドブックにより「特別支援学校教諭免許取得」にかかる実習内容などについて理解する。	ハンドブックの内容について確認する。(25分)	免許取得の内容をまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	○あいさつの仕方など、実習中の子供たちとのかかわり方について ・特別支援教育実習における配慮事項などについて、ハンドブックをもとに考える。 ・特別支援教育実習における教職員、保護者及び児童生徒への接し方について考える。	実習での配慮事項を確認する。(25分)	実習現場での配慮点をまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	○校務分掌と学級経営、学級(ホーム・ルーム)活動について ・特別支援学校における校務分掌や学級の形態について理解する。 ・特別支援学校における「個別指導計画」「個別的教育支援計画」について理解する。	特別支援学校の実態について調べる。(25分)	指導計画・教育支援計画をまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	○特別支援学校における教育実習の意義と目的について ・特別支援教育に関するDVDを視聴し、その教育に関するレポートをまとめる。 ・特別支援学校における教育実習にむけた自分の考えや抱負をまとめ発表する。	教育実習の意義・目的を確認する。(25分)	実習に向けた考え方などをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	○特別支援学校の組織や通常の学校との違いなどについて ・なぜ、特別支援教育に変わったのか、その基本となる考え方は何かを理解する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割について知る。 ・特別支援学校と特別支援学級並びに普通学級における教育の違いを理解する。	特別支援教育に関して調べる。(25分)	通常学級との違いをまとめる。(20分)
担当教員			
第7回	○良い学級づくり、良い授業の進め方について ・特別支援教育における教育課程の構造について理解する。 ・知的障害教育及び視覚・聴覚・肢体不自由・病弱教育に関する教育課程の内容について理解する。 ・4領域(各教科・特別な教科 道徳・特別活動・自立活動)及び各指導の形態について理解する。	教育課程の構造について調べる。(25分)	領域、指導の形態についてまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	○教材研究、授業への準備について ・個別の実態把握から授業の計画・実施・評価(P・D・C・A)について理解する。 ・特別支援教育で対象となる児童生徒について考える。 ・支援を要する(障害のある)児童生徒への対応について考える。	授業のP・D・C・Aについて調べる。(25分)	児童生徒への対応についてまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	○学習指導案の作成について(教科別の指導) ・「教科別の指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「教科指導」と「教科別の指導」との違い(教育課程の再編成)について理解する。 ＜準備学習＞教科別の指導について調べる。 ＜事後学習＞教育課程の再編成についてまとめる。	教科別の指導について調べる。(25分)	教育課程の再編成についてまとめる。(20分)
担当教員			
第10回	○学習指導案の作成について(領域・教科を合わせた指導) ・「領域・教科を合わせた指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」及び「自立活動」について理解する。	学習指導案の作成について調べる。(25分)	合わせた指導についてまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	○学習指導案の作成及び授業観察について ・特別支援学校に関する学校種別(障害種別)の教育内容等に関して理解する。 ・特別支援学校における5つの障害種に関して、各グループ毎に課題学習に取り組む。	特別支援学校の障害種について調べる。(25分)	グループごとの課題をまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	○模擬授業「学習指導案にそった授業及び授業観察」 ・作成した指導案をもとに、各グループ毎に模擬授業を行う。 ・各グループの模擬授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	○模擬授業「反省・評価に基づく授業及び授業観察」 ・各グループの模擬授業に対する反省・評価などをもとに授業を展開する。 ・反省・評価などをもとにした授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業の反省・評価に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録を仕上げる。(20分)
担当教員			
第14回	○教育実習に向けて ・実習ハンドブックなどを参考に実習日誌の書き方について考える。 ・実習報告書等の作成に取り組む。 ・実習の自己評価などの観点について整理し、実習課題との整合性をもたせる。	実習日誌の記入について確認する。(25分)	自己評価の観点についてまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	○まとめ ・特別支援教育実習講義の内容について整理する。 ・教育実習にあたっての決意や抱負について改めて整理し、発表する。	実習に向けた決意や抱負を考える。(25分)	本講義の内容についてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題の提出(20%) ・授業観察時の討議及び観察記録の提出(25%) ・学習指導案の作成(25%) ・模擬授業の実施(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
4年次の特別支援学校教育実習については、3年次終了時まで、特別支援学校教諭免許の必修科目の80%以上(事前事後指導科目を含む)の単位履修が必要となることに留意する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(西野 美穂)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		

第5回	【活動内容・テーマの確定①】メンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行う。	研究活動・テーマについてあらかじめ検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第6回	【活動内容・テーマの確定②】前回に引き続き、メンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行う。	研究活動・テーマについて前回の授業を踏まえて検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第7回	【グループ活動①】必要な資料の収集し、その内容を検討する。	研究活動・テーマについて前回の授業を踏まえて検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第8回	【グループ活動②】必要な資料の収集し、その内容を検討する。鶴岡記念図書館を利用し、資料の収集をする。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	西野 美穂		
第9回	【グループ活動③】必要な資料の収集し、その内容を検討する。鶴岡記念図書館を利用し、資料の収集をする。鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20 分)
担当教員	西野 美穂		
第10回	【グループ活動④】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	西野 美穂		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	西野 美穂		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(小田 進一)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小田 進一						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園25年、幼稚園20年、認定こども園設立から2年乳と幼児期の保育に携わり、保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障害児の受け入れ体制づくりとその充実や保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等を職員と共に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の研究に向かう姿勢を支えていきたい。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	全体でオリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	【発想法①】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第5回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第6回	【発想法②】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	K-J法についてさらに調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	小田 進一		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた図書を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の要約を完成させる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第10回	【文献検索活動③】図書を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	小田 進一		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	小田 進一		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(相馬 哲也)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(木谷 岐子)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	全体でオリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた図書を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の要約を完成させる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	【文献検索活動③】図書を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(白幡 知尋)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡 知尋						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法なども視野に入れつつ、レポート作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	白幡 知尋		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	白幡 知尋		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	白幡 知尋		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(渡邊 堯宏)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園での担任、管理職業務。また、保育所での園長業務と民間の学童保育の代表の実務経験から、現場での経験を交え、研究の基礎的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(小椋 佐奈衣)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

大学の研究機関の博士研究員、短期大学の教員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナール(山下 秀樹)				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。 こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。							
授業の概要							
基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。							
到達目標							
1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。 2. 主体的に課題に取り組むことができる。 3. 他者(仲間)と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。							
授業の方法							
初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。 2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験や研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第4回	【コミュニケーション活動②】グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		

第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第6回	【発想法②】ブレインストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレインストーミングについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第9回	【文献検索活動②】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員	山下 秀樹		

第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20 分)
担当教員	山下 秀樹		
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
第15回	【振り返りとまとめ】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員	山下 秀樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
適宜資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
・卒業必修の科目である。 ・レポート等は提出期限を厳守する。 ・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教科科目					
科目名		社会科概論				ナンバリング	3442
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
①授業「社会科概論」(以下、本授業)は、「教科教育法社会」の基礎科目として、教育(学校、幼稚園)と社会の関係にかかわる課題を認識し、これまでの日本における社会科教育の実践と理論に学びながら、意欲的に考察するための科目である。ディプロマポリシーの教育に関わる者としての「教育的能力」、成長・発達を支援するための「基本的資質」、不断に学ぶ意欲・態度を身につけ、「より適切な教育のあり方を考え続ける」ことと関係する。 ②また、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「生活科概論」や「小学校教育実習」とも接続する科目である。							
授業の概要							
①本授業は、子どもの獲得する「社会認識」と、教育における「社会科」の課題に関わる知見を学ぶ。(知識・理解) ②そして、「主体的・対話的で深い学び」を実践するための技能を修得する。(技能) ③さらに、良き「学び手」としての教師となるため、授業に対し主体的に参加する姿勢を身につける。(態度)							
到達目標							
①本授業を通して、受講生は小学校「社会科」において必要とされる子どもの「学び」に関する教育学の基本的な知見を理解し、説明することができる。(知識・理解) ②「社会科」に関し、理論と実践を結びつけて思考することができる。(技能) ③「主体的・対話的で深い学び」について関心を持って考え、積極的に表現できる。(態度)							
授業の方法							
①パワーポイントと配布印刷物を用いる。 ②講義形式を中心とするが、ALを取り入れ、小学校社会科についての認識の自己獲得をめざす。 ③小テストを4回行い、基本的な知識の定着を図る。また、レスポンスシート等による受講生の意見を講義の中で紹介し、対話的な学びを行う。特に第2回、第7回はグループワークを行う。そのほかの授業でも積極的にグループワークを取り入れる。							
ICT活用							
①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする(紙面にて配布も行う)。 ②レポート提出は原則Googleドキュメントにて行う。 ③小テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。 ④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるように授業を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

リフレクションシートから、論点を選び、全体に紹介する。また、G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加えることで、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. オリエンテーション:授業のすすめ方、授業を通して身につけてもらいたい資質、課題、評価について説明する。 2. 社会科とは何かについて被教育経験を通して対話する。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する(90分)
担当教員			
第2回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 授業の動画や板書の写真などをもとに分析し、社会科という教科の概要や特徴をつかむ。	小学校学習指導要領 各教科第2章社会科の「目標」部分を読み、何を意味しているかを自分なりに整理しておく(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する(45分) 小テスト①の学習を、復習中心に行う(45分)
担当教員			
第3回	1. 小テストによる知識の定着① 2. 小学校の社会科の学習内容について、機能と内容を軸に分析を行い、社会科学習の各学年の連続性についてつかむ。	小学校学習指導要領 各教科第2章社会科の各学年の「内容」部分を読み、どのような学習内容が排列されているかを自分なりに整理しておく(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う(45分)
担当教員			
第4回	1. 小テストによる知識の定着② 2. 社会科の歴史①日本国憲法の公布から1947年学習指導要領試案および、それに伴って生まれた新教科「社会科」と「初期社会科」について概要を理解し、目指した子ども像について対話する。 3. 1955年学習指導要領による戦後初期社会科からの転換について理解し、一般社会と社会科の関係性について考察する。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する(90分)
担当教員			

第5回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 社会科の歴史②1955年学習指導要領から1989年学習指導要領改定までの、社会科教育の変化について、その歴史的背景とともに理解し、目指した子ども像について対話する。特に低学年社会科の廃止と生活科の新設について、その意義と議論について理解し、社会科、生活科および総合的な学習の時間の指導にどのような連続性があるのかを考察する。	前回までの資料を読むとともに、高度経済成長期からオイルショック、バブル経済とその崩壊までの社会の流れを調べ、社会科教育との関連について自分なりの考察をしておく(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う(45分)
担当教員			
第6回	1.小テスト③ 2.フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 3.社会科教育の現代的議論 2018年学習指導要領改定に伴う、社会科の構想について理解し、現在目指そうとしている「公民的資質」について対話を深める。とくに社会科が「構成主義」であることについて多角的に考察する。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(45分) 2018学習指導要領総説を読み、教育全体の方向について考えをまとめる。(45分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う(45分)
担当教員			
第7回	1.小テスト④ 2.小学校の社会科の授業ビデオを視聴し、これまで授業で理解してきた社会科の理念や学習の理論を視点に分析を行い、グループワークを中心に対話をする。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(45分) 事前資料を配布するので、第7回で視聴する社会科の授業がどのようなものなのか資料から想定すること(45分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する(90分)
担当教員			
第8回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. SDGsと社会科の授業づくりの関係について、その意義や具体的な実践例について考察する。とくにSDGsは「環境問題」にとどまるものではなく、地球のあらゆる生命の持続の問題であり、人権や経済偏重社会の問題であることを踏まえ、社会科教育の役割について公民的資質の育成という目標と照らし合わせながら捉えていく。	SDGsについて次のことを調べて理解しておく(90分) ・SDGsは何の略称であるか、また日本では何と訳されているか。 ・国連で採択されたのは何年のことか。 ・到達目標にはどういったものがあるか。	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する(45分) 提出用の課題に取り組み、期日までに提出する(45分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト40% 授業参加度 20% レスポンスシートや課題の内容 40%	
その他	0		
教科書			

授業内で必要な資料を印刷配布する。

参考文献

・中西仁、小林隆(2018)「初等社会科教育」(ミネルヴァ書房)
・鈴木正氣(1978)「川口港から外港へ」(草土文化)
・澤井陽介、唐木清志(2021)「小中社会科の授業づくり」(東洋館出版社)
そのほか、授業中に適宜紹介し、活用する。

履修条件・留意事項等

レポート等の課題は提出期限を厳守する。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教科科目					
科目名		理科概論(2組)				ナンバリング	3444
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
小学校教員免許取得には、必修の科目である。 教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考える基礎力を得るための科目である。 小学校理科の目標と内容について、学習指導要領解説理科編や学校で使用されている教科書を参考にしながら、小学校3年生～6年生までの主な観察や実験を、学生自身が実際に行いながら習得する科目である。 小学校教員一種免許取得のためには、この科目の後、「教科教育法 理科」を履修しなければならない。							
授業の概要							
小学校教師として、小学校理科の目標及び内容について、小学校学習指導要領解説理科編を参考にしながら理解を深める。また、理解したことを、児童と同じ視点に立ち、自然の様々な事象や現象に対して疑問を抱いたり、不思議さを感じたりしながら、具体的事象・現象について観察・実験することで科学的充実感を感じられるように展開する。 ①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能) ②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現) ③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①小学校理科の学習において、授業の基準となっている学習指導要領の趣旨や教科書の内容の理解を通して、理科の目標と内容を把握するとともに、望ましい授業づくりについて工夫することができる。 ②小学校理科の目標を実現するための授業の在り方や、「自然を愛する心情」、「主体的に問題解決しようとする態度」を培う指導の在り方について、実際の観察や実験を通して探ることができる。							
授業の方法							
教科理科の意義や役割、目標などについて解説する。 また、小学校理科の内容を学年順に取り上げて解説する。 指導教員は、小学校理科の解説において、観察・実験の実習やハンドアウト・プレゼンテーションソフトを活用する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。理科におけるプログラミング教育について取り上げる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 過去に自分が受けた理科の授業を振り返りながら、疑問を持ったり、自分から調べたいような授業とはどんな授業なのかを考えさせる。自分たちの体験をもとに、テーマを決めて3, 4人の小グループで話し合い発表する。 「教科書と学習指導要領」 使用されている教科書が、どのような法律や規準によって作られているのか、また学習指導要領と教科書との関係について解説する。	シラバスを読み授業内容を把握する。(90分)	オリエンテーション資料を確認する。 小学校学習指導要領と教科書との関係について(課題1) (90分)
担当教員			
第2回	「幼稚園、小学校生活科、中学校理科の学習の流れと内容の概観」 幼稚園の「環境」及び小学校1, 2年生生活科と3年生からの理科との関連、また小学校理科と中学校理科の内容を概観して、内容のつながりや系統性について解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(野外観察)を学ぶ。	幼稚園の「環境」について、幼稚園教育要領を読んでおく。小学校学習指導要領の第2章第5節を読んでおく。(90分)	小学校生活科や中学校理科とのつながりについて(課題2) (90分)
担当教員			
第3回	「教科『理科』の意義と身に付ける力」 理科の教科が何のためにあるのか、理科の学習でどんな力を身に付けようとしているのか、そのためには理科の授業はどうあるべきかについて、科学者の業績、開発された科学技術などを通して意見交換を行う。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(顕微鏡操作)を学ぶ。	自分が知っている科学者の業績、開発された科学技術などの例を調べておく。 (90分)	理科教育の意義について(課題3) (90分)
担当教員			
第4回	「小学校理科の目標と内容」 理科の目標と内容について概観する。 小学校理科の基本的な観察・実験(計量・計測)を学ぶ。 小学校理科におけるプログラミング教育を学ぶ。	小学校学習指導要領理科編の第2章第1節を読んでおく。(90分)	小学校理科の目標と内容について(課題4) (90分)
担当教員			

第5回	3年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、3年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の3年生の内容について(課題5) (90分)
担当教員			
第6回	4年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、4年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の4年生の内容について(課題6) (90分)
担当教員			
第7回	5年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、5年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の5年生の内容について(課題7) (90分)
担当教員			
第8回	6年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、6年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の6年生の内容について(課題8) (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(80%) 授業中の意欲・態度・自己評価20%)	
その他	0		
教科書			

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用
生活科教科書上下
幼稚園教育要領解説(環境)
小学校学習指導要領解説生活編
中学校学習指導要領解説理科編

履修条件・留意事項等

小学校教員免許必修

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教科科目					
科目名		理科概論(1組)				ナンバリング	3444
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員		高桑 純					
授業の位置づけ							
小学校教員免許取得には、必修の科目である。 教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考える基礎力を得るための科目である。 小学校理科の目標と内容について、学習指導要領解説理科編や学校で使用されている教科書を参考にしながら、小学校3年生～6年生までの主な観察や実験を、学生自身が実際に行いながら習得する科目である。 小学校教員一種免許取得のためには、この科目の後、「教科教育法 理科」を履修しなければならない。							
授業の概要							
小学校教師として、小学校理科の目標及び内容について、小学校学習指導要領解説理科編を参考にしながら理解を深める。また、理解したことを、児童と同じ視点に立ち、自然の様々な事象や現象に対して疑問を抱いたり、不思議さを感じたりしながら、具体的事象・現象について観察・実験することで科学的充実感を感じられるように展開する。 ①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能) ②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現) ③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①小学校理科の学習において、授業の基準となっている学習指導要領の趣旨や教科書の内容の理解を通して、理科の目標と内容を把握するとともに、望ましい授業づくりについて工夫することができる。 ②小学校理科の目標を実現するための授業の在り方や、「自然を愛する心情」、「主体的に問題解決しようとする態度」を培う指導の在り方について、実際の観察や実験を通して探ることができる。							
授業の方法							
教科理科の意義や役割、目標などについて解説する。 また、小学校理科の内容を学年順に取り上げて解説する。 指導教員は、小学校理科の解説において、観察・実験の実習やハンドアウト・プレゼンテーションソフトを活用する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。理科におけるプログラミング教育について取り上げる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 過去に自分が受けた理科の授業を振り返りながら、疑問を持ったり、自分から調べたいような授業とはどんな授業なのかを考えさせる。自分たちの体験をもとに、テーマを決めて3, 4人の小グループで話し合い発表する。 「教科書と学習指導要領」 使用されている教科書が、どのような法律や規準によって作られているのか、また学習指導要領と教科書との関係について解説する。	シラバスを読み授業内容を把握する。(90分)	オリエンテーション資料を確認する。 小学校学習指導要領と教科書との関係について(課題1) (90分)
担当教員			
第2回	「幼稚園、小学校生活科、中学校理科の学習の流れと内容の概観」 幼稚園の「環境」及び小学校1, 2年生生活科と3年生からの理科との関連、また小学校理科と中学校理科の内容を概観して、内容のつながりや系統性について解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(野外観察)を学ぶ。	幼稚園の「環境」について、幼稚園教育要領を読んでおく。小学校学習指導要領の第2章第5節を読んでおく。(90分)	小学校生活科や中学校理科とのつながりについて(課題2) (90分)
担当教員			
第3回	「教科『理科』の意義と身に付ける力」 理科の教科が何のためにあるのか、理科の学習でどんな力を身に付けようとしているのか、そのためには理科の授業はどうあるべきかについて、科学者の業績、開発された科学技術などを通して意見交換を行う。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(顕微鏡操作)を学ぶ。	自分が知っている科学者の業績、開発された科学技術などの例を調べておく。 (90分)	理科教育の意義について(課題3) (90分)
担当教員			
第4回	「小学校理科の目標と内容」 理科の目標と内容について概観する。 小学校理科の基本的な観察・実験(計量・計測)を学ぶ。 小学校理科におけるプログラミング教育を学ぶ。	小学校学習指導要領理科編の第2章第1節を読んでおく。(90分)	小学校理科の目標と内容について(課題4) (90分)
担当教員			

第5回	3年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、3年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の3年生の内容について(課題5) (90分)
担当教員			
第6回	4年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、4年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の4年生の内容について(課題6) (90分)
担当教員			
第7回	5年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、5年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の5年生の内容について(課題7) (90分)
担当教員			
第8回	6年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、6年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の6年生の内容について(課題8) (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(80%) 授業中の意欲・態度・自己評価20%)	
その他	0		
教科書			

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用
生活科教科書上下
幼稚園教育要領解説(環境)
小学校学習指導要領解説生活編
中学校学習指導要領解説理科編

履修条件・留意事項等

小学校教員免許必修。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教科科目					
科目名		理科概論(3組)				ナンバリング	3444
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
小学校教員免許取得には、必修の科目である。 教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考える基礎力を得るための科目である。 小学校理科の目標と内容について、学習指導要領解説理科編や学校で使用されている教科書を参考にしながら、小学校3年生～6年生までの主な観察や実験を、学生自身が実際に行いながら習得する科目である。 小学校教員一種免許取得のためには、この科目の後、「教科教育法 理科」を履修しなければならない。							
授業の概要							
小学校教師として、小学校理科の目標及び内容について、小学校学習指導要領解説理科編を参考にしながら理解を深める。また、理解したことを、児童と同じ視点に立ち、自然の様々な事象や現象に対して疑問を抱いたり、不思議さを感じたりしながら、具体的事象・現象について観察・実験することで科学的充実感を感じられるように展開する。 ①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能) ②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現) ③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①小学校理科の学習において、授業の基準となっている学習指導要領の趣旨や教科書の内容の理解を通して、理科の目標と内容を把握するとともに、望ましい授業づくりについて工夫することができる。 ②小学校理科の目標を実現するための授業の在り方や、「自然を愛する心情」、「主体的に問題解決しようとする態度」を培う指導の在り方について、実際の観察や実験を通して探ることができる。							
授業の方法							
教科理科の意義や役割、目標などについて解説する。 また、小学校理科の内容を学年順に取り上げて解説する。 指導教員は、小学校理科の解説において、観察・実験の実習やハンドアウト・プレゼンテーションソフトを活用する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。理科におけるプログラミング教育について取り上げる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 過去に自分が受けた理科の授業を振り返りながら、疑問を持ったり、自分から調べたいような授業とはどんな授業なのかを考えさせる。自分たちの体験をもとに、テーマを決めて3, 4人の小グループで話し合い発表する。 「教科書と学習指導要領」 使用されている教科書が、どのような法律や規準によって作られているのか、また学習指導要領と教科書との関係について解説する。	シラバスを読み授業内容を把握する。(90分)	オリエンテーション資料を確認する。 小学校学習指導要領と教科書との関係について(課題1) (90分)
担当教員			
第2回	「幼稚園、小学校生活科、中学校理科の学習の流れと内容の概観」 幼稚園の「環境」及び小学校1, 2年生生活科と3年生からの理科との関連、また小学校理科と中学校理科の内容を概観して、内容のつながりや系統性について解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(野外観察)を学ぶ。	幼稚園の「環境」について、幼稚園教育要領を読んでおく。小学校学習指導要領の第2章第5節を読んでおく。(90分)	小学校生活科や中学校理科とのつながりについて(課題2) (90分)
担当教員			
第3回	「教科『理科』の意義と身に付ける力」 理科の教科が何のためにあるのか、理科の学習でどんな力を身に付けようとしているのか、そのためには理科の授業はどうあるべきかについて、科学者の業績、開発された科学技術などを通して意見交換を行う。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(顕微鏡操作)を学ぶ。	自分が知っている科学者の業績、開発された科学技術などの例を調べておく。 (90分)	理科教育の意義について(課題3) (90分)
担当教員			
第4回	「小学校理科の目標と内容」 理科の目標と内容について概観する。 小学校理科の基本的な観察・実験(計量・計測)を学ぶ。 小学校理科におけるプログラミング教育を学ぶ。	小学校学習指導要領理科編の第2章第1節を読んでおく。(90分)	小学校理科の目標と内容について(課題4) (90分)
担当教員			

第5回	3年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、3年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の3年生の内容について(課題5) (90分)
担当教員			
第6回	4年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、4年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の4年生の内容について(課題6) (90分)
担当教員			
第7回	5年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、5年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の5年生の内容について(課題7) (90分)
担当教員			
第8回	6年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験を行う。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、6年生理科の目標と内容について確認しておく。 (90分)	小学校理科の6年生の内容について(課題8) (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(80%) 授業中の意欲・態度・自己評価20%)	
その他	0		
教科書			

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用
生活科教科書上下
幼稚園教育要領解説(環境)
小学校学習指導要領解説生活編
中学校学習指導要領解説理科編

履修条件・留意事項等

小学校教員免許必修

備考欄